

- 二、間諜、脱走俘虏又は劫奪犯人等を案内し、援助し、又はかくまひたる者。
- 三、軍隊、軍艦、艦隊及び軍用船舶の動靜或は軍需品貯藏所等を敵に密告し、又は之が爲に敵軍を案内したる者。
- 四、本軍の軍隊、軍艦、艦隊又は軍用船の案内役となり、故意に虚偽の案内をなしたる者。
- 五、黨を結んで軍隊、軍艦、艦隊又は軍用船舶に對する反抗圖謀し、反抗の所爲をなしたる者。
- 六、文字、演説又は集會、結社を以て流言蜚語を傳布し、事端を發生せしめ、革命の主旨に反對を表示したる者。  
(本條規定後は新聞條例及び集會規定は當然無効とす)。
- 七、衆を聚めて喧嘩擾擾し、軍隊、軍艦及び艦隊所在地の靜肅を妨害せる者。
- 八、各種の方法を以て井水、河水、水道等の飲用水を破壊變質せしめ、公衆の健康を害せんと圖りたる者。
- 九、阿片又は烟具を本軍軍人又は従軍する者に販賣せるか、煙館を開設せる者。
- 十、賭博場を開設せるか、賭博用具を販賣せる者。

- 十一、財物を劫掠せる者。
- 十二、婦女を強姦又は強奪せる者。
- 十三、掠奪沒收又は強制賣買をなしたる者。
- 十四、放火せる者。
- 十五、兇器を以て争へる者。
- 十六、擅に招兵せる者。
- 十七、祕密に結會又は結盟せる者。
- 十八、密に兵器又は火藥を賣買運搬せる者。
- 十九、武職員を僞稱せる者。
- 二十、公文又は印信を僞造せる者。
- 二十一、貨幣、紙幣又は債券を僞造せる者。

第二條 前條各項の罪を犯せる者は正犯、從犯、教唆犯、已遂、未遂、陰謀計畫等の何れに屬する者も、情狀によつて、或は本刑を科し、或は減刑することを得るものとす。

第三條 前條各項規定以外の罪を犯せる者には、刑法の各條及び警察法違反に關する各條の規定



を適用す。

第四條 本法の罪を犯せる者は、軍法局に於て審判處罪し、軍法局以外は如何なる機關も之を執行し得ず。

第五條 本法の罪を犯せる者は大元帥を除く外は何人と雖、赦免することを得ず。

第六條 本法の罪を犯せる者には、刑法の公權剝奪、公權停止に關する規定をも適用す。

第七條 軍法によつて各項の犯罪を審判する際は、拷問の方法を用ふることを得ず。

第八條 軍法局の審判には、刑事訴訟法による辯護士の辯護規定を適用せず。但し被告人は證人の尋問と、辯訴狀の呈出とを要求することを得。

### 第五章 兵站、徴發及び其他の例則

#### 第一節 因糧局（兵站部）の組織

第一條 因糧局（兵站部）は、司令長官が地方を攻取せる場合、左の職員に委任して之を組織す。

局長	一名
科長	六名

科員	若干名
供事（小吏）	若干名

第二條 因糧局に左の六科を置く。

- 第一科 徴發事務を管理す。
- 第二科 購入及び沒收に關する事務を管理す。
- 第三科 貨幣及び兌換の事務を管理す。
- 第四科 運輸供給に關する事務を管理す。
- 第五科 會計事務を管理す。
- 第六科 保管事務を管理す。

第三條 因糧局長は所屬の科長及び科員を指揮監督し、兵站事務を處理し、司令長官に對しては全責任を負ふ。

第四條 因糧局の事務執行は、徴發令の範圍内に在るを要す。

第五條 因糧局成立後に於ける執務の狀況は、大本營の陸軍部及び財政部に報告し、總督府の組織完了後は、財務司に併入して整理す。



第六條 因糧局の事務分掌規定は、局長及び委員に於て之を編定し、司令長官に報告し其の裁可を経て施行す。

#### 第二節 徵發令

第一條 戰時又は事變の際は、特に区内の物件を賦課徵發して陸海軍の軍需品に充つ。之を徵發と謂ふ。

第二條 徵發は徵發書を以て之を行ふ。陸海軍總長、各省總督、陸海軍司令長官、司令官、司令及び艦官等には皆徵發書を發するの權あり。

第三條 徵發軍需品の多寡を以て徵發區域の廣狹を定め、徵發書は徵發區域内に於てのみ之を行ふ。

第四條 徵發書は該區の知事、郷長（村長）會長、社長、店主、一家の主人等に交付するものとす、此の徵發書を受取りたる者は、限定されたる期間内に於て然るべく處理するを要す。

第五條 徵發物件を蔽匿し、又は事故に託つて應ぜざる者は、沒收するか、審理して處罰することを得。

第六條 徵發物件を受取りたる時は、受取書を渡すを要す。

第七條 徵發物品の種類左の如し。

一、米、麥、雜穀、饅頭、饅頭粉、豆、饅頭菓子類、油、鹽、茶、蔬菜等の食用品類。

二、被服、帽子、靴、布帛、藥品及び一切の應用器具。

三、馬、牛、羊、豚、鶏等の家畜類。

四、人 夫。

五、病院、厩舎、倉庫、祠宇、學校、寺廟及び一切の公私家屋の類。

六、飲料水、薪炭。

七、鐵道、汽車、船舶、車輛及び一切の石、木、皮革、金、鐵等の諸材料。

第八條 徵發物件を還付する際、若し損失あらば、家主は現場に於て説明申述し、其の旨受取書に註明することを要す。現場に於て申述せざる者は無効とす。

第九條 徵發物件に對する賠償にして、若しも即時發給し得ずして、六個月以上遅延せる場合は六個月の期限満了の日より起算し、月四厘の利息を加算して返還するを要す。

第十條 徵發物の消耗及び損失に對する賠償價格は、皆當時の原價を以て標準となす。若し原價に従ふべき標準と定則無き場合は、評價委員の公決を以て之を評價す。委員の員數は事務の繁



簡を以て之を定め、委員の選擇に當つては官民各々其の半數を占むることとし、皆其時其地の徵發と利害關係無き者を選任するを要す。

第十一條 徵發人夫の工賃及び食費は一日百文を標準とす。

第十二條 徵發物件の賠償金支拂は、徵發書を發したる陸海軍將校に於て知事又は本人に通知し、規定に準じて之を行ふ。

第十三條 第七條第一、二、三各項の徵發は、先づ商人に對して之を行ひ、不足分を民家について徵集す。

第十四條 物件の徵發には全部を徵發することを得ず、適當なる標準と程度とによるを要す。

第十五條 徵發官吏にして若しも權限を濫用し、商民を欺瞞壓迫して、本章の規定に違犯する者ある場合は、軍律を以て之を處置す。

附、書 式

(説明) 徵發書と受取書との簡單なる書式次の如し。徵發物件は一々順序を追て明瞭に記載するを要す。但し一種の嚴密なる書式を應用せるものなる時は、因糧局に於て制定印刷し、陸海軍將校に交付して徵發せしむるものとす。

書 發	書 控
年 月 日	年 月 日
某地 某君	被徵發者住所職業姓名
以上計ノ物件ヲ必ズ	徵發書第 號
迄ニ全部取揃ヘテ遅延缺漏ナキ様某處	第 號
ニ送り届ク可シ。以上ノ通り嚴重ニ通	號
達ス。	號
官 名 ④	○

徵發書式(徵發書ノ裏面ニハ徵發令ノ摘要ヲ印刷ス)



書	取	受	書	控	
年	月	日	年	月	日
官	名	官	名	官	名
受取書第	第	受取書第	第	受取書第	第
上記ノ物件ヲ某地某君ヨリ正ニ受領セリ、仍テ本受領書ヲ發給シテ證據トナス。			上記ノ物件全部既ニ受領セリ、仍テ某地某君ニ受取書ヲ發給セル外、同様ノモノヲ控トシテ茲ニ保存ス。		

受取書式

第三節 委任通則

- 第一條 各省の司令長官は、軍事部より申請して總理之を委任す。
- 第二條 司令官は該省司令長官より軍事部に申請し、總理の裁可を仰いで委任す。
- 第三條 司令長官部の參謀長及び副官長は、司令長官より軍事部に申請し、總理の裁可を仰いで委任す。
- 第四條 司令部の參謀長及び副官長は、司令官より司令長官に申請し、更に司令長官より軍事部に申請し、總理の裁可を仰いで委任す。
- 第五條 司令長官部の參謀及び副官は、司令長官より軍事部に申請して委任す。
- 第六條 司令部の參謀及び副官は、司令官より司令長官に申請し、軍事部の裁決を経て委任す。
- 第七條 司令長官部及び司令部の參謀長及び副官長は、偶々特別の事情ある場合は、軍事部より直接總理に申請して委任することを得。
- 第八條 司令長官部の參謀及び副官は、偶々特別の事情ある場合は、直接軍事部に於て委任することを得。
- 第九條 司令長官及び司令官は特別の事情ある場合は、適當なる人員を部下の職員に充任せしむ



ることを得。但し第二條より第六條に至る迄の規定に準じて處理するを要す。

#### 第四節 印章條例

第一條 印章を左の五種とす。

大元帥印章

特任官印章

簡任官印章

薦任官印章

委任官印章

第二條 大元帥の印章は縦、横共に八「センチメートル」とし、章材には金を用ふ。

第三條 特任官の印章は縦、横共に七、五「センチメートル」とし印材には銅を用ふ。

第四條 簡任官の印章は縦、横共に六「センチメートル」とし印材には銅を用ふ。

第五條 薦任官の印章は縦、横共に五、五「センチメートル」とし印材には銅を用ふ。

第六條 委任官の印章は縦、横共に五「センチメートル」とし印材には銅を用ふ。

第七條 印章の縁の廣さは、印章の横の長さの十分の一とす。

- 第八條 印章の文字には篆書を用ひ、何々之印と入る。
- 第九條 印色は朱色を用ひ、印材は永く化學的變質なきものを用ふ。
- 第十條 印章は大元帥に於て制定鑄造して之を頒布す。

### 第六章 文 告

#### 一、中華革命軍大元帥檄。

袁賊我國民を苦しむるや久し。世界に共和國有つて以來未だ斯の如き萬惡の政府無く、危亡禍亂茲に至つて極まれり。清朝の末期賊は實に之に媚びて我國人を殺せり。而も其の亡ぶるや兵を擁し利を徵め、總統を竊んで以て和せんとす。軍府は戰爭の綿延に忍びず、賊本漢族なるを以て、人情として必ず宗國を思むべきを思ひ、且つ總統は帝王萬世の比に非らざるを以て、俯して之と協調し、其の自ら新ならんことを冀がひ、民國亦初めて立ち、舊汚未だ絶えざるを以て、首として禮讓を行ひて風を天下に示し、以て範例を樹てんとせり。思はざりき、賊性凶頑にして誦詐習を成し、誓ひに背いて常倫を亂し、妄に非分を希ひ、名を中央集權に假りて奸雄國を竊むの實を行ふ。驕兵悍將巷閭を騷擾し、群少の佞臣左右に集り、新聞社を買收し、議員を買收し、監督



は溺職し、清議は銷沈し、元勳を嫉殺して、濫に外債を借りて禍をつくる。斯て寧より變じて亂を醸し、皖、滬、閩、粵、湘、蜀相次で兵を擧ぐ。而も義師敗衄して賊勢愈々張り、爾來殆ど國をなさず。賊兵の至る所、焚掠して墟となり、幼女も貞淑なる寡婦も、均しく其の淫穢に供せられ、猶も意を恣にして多數の連累者を罪に陥れ、偶々嫌疑を受くる者あれば、直に鋒刃に血を塗りて、毫も假借せず。爲に人民は全く樂土の心を喪ひ、而も賊は此の時、論功行賞を行ひて大平を慶ぶ。蓋し帝業成りて、天下に已を毒する者莫しとなせるなり。而も非法にも正式總統の位を奪ひ、天を祭り孔子を祀り、議竟に冕旒の事に及んで、司馬の心（帝政實現の野心）路人も皆見る所なり。更に又約法を改廢し、國會を解散し、自治を停止し、司法を縮減し、生殺の權を擅して偵諜を市中に密布し、盜匪は都鄙に横行し、苛斂誅求、朋坐族誅し、礦産を鬻いで國財空しく、民黨を戮して元氣盡き、軍府が艱難して建設せる共和は之が爲に餘す所無く壊滅され、賊惡盈ちて殉國の烈士は九原に恨をのみ、義を首とする勳賢は海外に投荒し、國を覘ふ者遂に自由と幸福とを得たり。之れ我が中華民國の享くべき所に非ず、眞に天下の恥辱なり。而も我が國民亦徒に生を偷んで鼻息を窺ひ、敢て之を彈劾する者無し。之に馴れて往かば亡國滅種、國交の危難も亦推して知る可きのみ。即ち袁賊にして天威神武を妄稱せん日こそは、我が民の降つて奴隸牛

馬となるの時たり。此の故に志士仁人は天を仰いで心を勵まし、肝膽を戰場に塗り、膏血を原野に流して敢て辭せざるなり。軍府は宗國の頽勢に痛心し、獨夫の肆虐を憤り、茲に義兵を率ひ、誓つて元兇を殄して新邦を再建せんとす。國民に望む、中原の豪俊旆を望んで來り歸し、草澤の英賢風を聞きて興起せよ。更に又袁軍の將士吏卒にして反正投降する者は、何等問ふ所無く同様に拔擢給賞すべし。若し順を棄てて逆に效ひ、迷を執りて復せざれば、大兵至りて誅罰必ず申び、悔ゆると雖又及ばざるべし。仍て天下に布告して均しく聞知せしむ。茲に檄すること令の如し。

孫 文

中華民國 年 月 日

(説明) 檄文の末尾には大元帥自ら署名捺印するを要す。但し革命軍義舉の際、大元帥が任地に不在なる場合は、司令長官に於て代つて捺印して宣布することを得。

## 二、安民布告

職、名布告

袁世凱共和に假托して專制を實行し、爲に四海の民皆生本に安んぜず。仍て茲に大元帥の命を奉じ、大軍を督して來つて兇賊を誅し、以て虐政を除かんとす。而して地方の治安維持に對して



は、完全に之を保護するの責任を有するものたり。故に民は各々分に安んじて業を守るべく、流言蜚語を信じて警擾するが如きこと勿れ。若し又袁軍の將兵勇者にして武器を携へて來營投降する者有らば、決して誅戮せざるべし。之に反し表面服従し裏面敵に内通して橋梁・電線を破壊し、道路溝渠を妨碍閉塞せしめ、兵營公署を燒燬し、兵器火藥を蔭匿私藏し、逃亡者間諜を庇護し、流言を傳布し、事端を發生せしむる等の不法行爲をなし、告發され又は搜索の結果捕へられたる者ある時は、必ず嚴重に之を懲罰す。若し本軍軍人に不法なる者あり、居民を擾害したる場合は、軍營に拘引し、又は指名上申せば、軍律に依て嚴重に處罰し、以て軍紀を肅し、一切の人民をして本軍の紀律の嚴明なるを知らしめ、至る處秋毫も犯す勿からしめんとす。各々此の意を體し、嚴重に遵奉して違ふこと勿れ特に茲に布告す。

(〇〇〇) 姓名

中華民國 年 月 日

三、四言安民布告(原示)

職、、、名佈告

我軍起義

救國救民

宗旨正大

舉動文明

所至之處

鷄犬無驚

誠恐大衆

恐懼不寧	爲此佈告	爾等居民	各安生業	毋許紛紜	其餘兵辨	繳械營門
概免誅戮	一視同仁	如敢故讎	申通敵軍	或毀軍營	或藏奸細	或匿逃兵
一經查出	定予嚴懲	如或本軍	在外橫行	指名呈控	按律處刑	特此佈告
各宜凜遵						

中華民國 年 月 日

(〇〇〇) 姓名

四、公共建築物及び名勝古跡保護の告示  
職、、、名佈告

凡そ公共の建築物及び名勝古跡は、地方の公益物にして、人民の信仰し、關係管理する所なるを以て、宜しく保護して以て公德を重んずべし。従つて軍人等は之を破壊損折することを得ず。若し敢て違ふ者ある時は、調査逮捕して嚴重に處罰す。各自遵守して違ふこと勿れ。特に茲に布告す。

五、布告

職、、、名佈告



本軍の紀律は嚴明なり。若し不法行爲をなせる者あらば、立ろに軍律通り處罰す。仍て茲に特に將軍律を刊行貼付し、各地の居民にして、若し明かに軍律を犯する不法の將卒有るに遭へば、其の旨軍門に指名報告して告訴するか、又は其の者を拘引することを得るものとす。特に茲に布告すること次の如し。

- 一、號令を聽かざる者は銃殺す。
- 二、戦線に於て退却したる者は銃殺す。
- 三、軍情を漏洩したる者は銃殺す。
- 四、密に逃亡せる者は銃殺す。
- 五、敵に投降したる者は銃殺す。
- 六、掠奪したる者は銃殺す。
- 七、良民を焚殺したる者は銃殺す。
- 八、婦女を強姦し、又は強奪したる者は銃殺す。
- 九、賄賂を收受し、資財を強要したる者は銃殺す。
- 十、仇を尋ねて報復し、奸言誣言によつて他人を陥れたる者は銃殺す。

- 十一、擅に私刑を用ひ、又は良民を捕へたる者は銃殺す。
- 十二、黨を結び兇器を持つて争へる者は銃殺す。
- 十三、名目、金額に關する虚偽の報告をなし、又は偽つて金品を受領せる者は銃殺す。
- 十四、外國人を殺害し、教會、學校、醫院等を燒棄破壊せる者は銃殺す。
- 十五、流言蜚語を傳布せる者は銃殺す。
- 十六、住民又は捕虜を金品と交換せる者は銃殺す。
- 十七、押賣り又は無理買ひをなしたる者は禁錮に處す。
- 十八、鬭争殺傷せる者は禁錮に處す。
- 十九、兵器、彈藥を遺失又は浪費したる者は禁錮に處す。
- 二十、敵の軍資金、兵單及び物品を奪ひ、蔭匿して報告せず、密に販賣せる者は禁錮に處す。
- 二十一、私に良民の家に侵入せる者は禁錮に處す。
- 二十二、賭博し、又は賭博場を開設し、或は之が開設を保護又は請負たる者は禁錮に處す。
- 二十三、阿片を吸飲し、阿片局を開設し、又は之が開設を保護又は請負したる者は禁錮に處す。
- 二十四、酒亂兇行して事端を發生せる者は禁錮に處す。



二十五、妓樓又は劇場に於て暴行したる者は禁錮に處す。

〇 〇 〇 印

中華民國 年 月 日

## 大亞細亞主義

(民國十三年十一月二十八日神戸高等女學校に於て神戸商業會議所  
外五團體に對してなしたる講演)

諸君、私は本日諸君より斯くの如き熱誠なる歡迎を受けまして實に感激に堪えません。本日は皆様より亞細亞主義と云ふことに付て、私に講演しろと云ふ御話でありました。所で此の問題に付て講演するには、我亞細亞とは一體どんな所であるかを先づはつきりさせて置かなければなりません。

我亞細亞は最も古い文化の發祥地であります。即ち數千年以前に於て既に我亞細亞人は非常に高い文化を持つて居たのでありまして、歐洲最古の國家例へば希臘、羅馬等の如き古い國の文化は、何れも我亞細亞より傳つたものであります。又我亞細亞は昔より哲學の文化、宗教の文化、倫理の文化及び工業の文化を持つて居ました。之等の文化は何れも古より世界で非常に有名であつたのでありまして、現在世界の最も新しい文化は何れも我々の此古い文化より發生したのであります。然るに最近數百年來我亞細亞の民族は漸次萎靡し、國家は次第に衰微して來ました。一方



歐洲の民族は漸次發展し、國家は次第に強大となつて來たのであります。歐洲の民族が發展し國家が強大となるに伴れ、彼等の勢力は次條々々に東洋に侵入し、我亞細亞の民族及國家を漸次滅亡せしむるに非ずんば壓制せんとする勢となつたのであります。此の勢がずつと續いた爲、三十年以前迄は我亞細亞には一國として完全なる獨立國家は無かつたのであります。此の勢が更に續いたならば國際關係は益々面倒となつたのでありませう。

然し乍ら否塞の運命も極點に達すれば泰平となり、物極まれば必ず通するのであります。亞細亞の衰微が斯くの如く極點に達しました時、そこに一個の轉換機が発生しました。其の轉換機こそ即ち亞細亞復興の起點をなすものであります。亞細亞は一度は衰微しましたが、三十年前は再び復興し來つたのであります。然らば此の復興の起點は一體何處に在りましたかと云ふに、夫れは即ち、日本が三十年前に、外國と締結しました一切の不平等條約を撤廢しましたことであり、日本は不平等條約を撤廢しましたので、遂に亞細亞に於ける最初の獨立國家となつたのであります。すが、當時其の他の國家、即ち中國、印度、波斯、「アフガニスタン」、「アラビヤ」及土耳其等は何れも未だ獨立の國家ではなく、歐洲より勝手に領土を割かれ、歐洲の植民地となつて居たので

あります。三十年前に於ては日本も亦歐洲の植民地と目されて居たのであります。日本の國民は先見の明があり、民族と國家との榮枯盛衰の關係を知つて居ましたので、大いに發奮して歐洲人と闘ひ、凡ゆる不平等條約を廢除し、遂に獨立國と爲つたのであります。日本が東亞に於ける獨立國となりましてからは、亞細亞全體の國家及び民族は獨立に對し大なる希望を抱いて來たのであります。即ち、日本でさへ不平等條約を廢棄して獨立したのであるから、吾々も當然日本に倣はねばならないと云ふ考を持つやうになりました。之れより勇氣を出して種々の獨立運動を起し、歐洲人の束縛より離脱せんとし、歐洲の植民地たるを欲せず、亞細亞の主人公とならうと云ふ思想が生れたのであります。之は最近三十年來の考で、極めて樂觀的思想でありました。

三十年以前に於きましては、我亞細亞全體の民族は、歐洲は非常に進歩した文化を有し、科學も非常に進歩し、工業も非常に發達して居り、武器は精巧であり、兵力は強大である。然るに我亞細亞は歐洲に長じて居るものは一つも無い、亞細亞は歐洲に到底抵抗出來ない、歐洲の壓迫より脱出することも到底出來ない、永久に歐洲の奴隸とならなければならぬだらう、と云ふ風に考へて居たのであります。即ち非常に非觀的思想であつたのであります。然るに三十年前日本は不平等條約を廢除して獨立國となりました。然し夫れは日本と非常に接近して居る民族、國家



には大なる影響を與へましたものの、當時は未だ尙亞細亞全體には充分の反響は無かつたのであります。即ち亞細亞民族は全體的には夫れ程大なる感動を受けなかつたのであります。然し乍ら夫れより十年を過ぎて日露戦争が起り其の結果日本が露國に勝ち日本人が露西亞人に勝つた。之は最近數百年間に於ける亞細亞民族の歐洲人に對する最初の勝利であつたのであります。此の日本の勝利は全亞細亞に影響を及ぼし、亞細亞全體の民族は非常に歡喜し、そして極めて大なる希望を抱くに至つたのであります。此の事に付て私が親しく見ました事を御話し申上げませう。日露戦争の開始されました年、私は丁度歐洲に居りましたが、或る日東郷大將が露國の海軍を敗つた、露西亞が新に歐洲より浦鹽に派遣した艦隊は、日本海に於て全滅されたと云ふことを聞きました。此の報道が歐洲に傳はるや、全歐洲の人民は恰も父母を失つた如くに悲み憂へたのであります。英國は日本と同盟國でありましたが、此の消息を知つた英國の大多數は何れも眉を顰め日本が斯くの如き大勝利を博したことは決して白人種の幸福を意味するものではないと思つたのであります。之は正に英語の *Blood is thicker than water* と云ふ觀念であります。暫くして私は船で亞細亞に歸ることになり、「スエズ運河を通ります時に、澤山の土人が、其の土人は「アラビヤ」人でありましたが、私が黄色人種でありますのを見て、非常に喜び勇んだ様子で私に

ニコ大へ

我々東方人よりも一層大きかつたのであります。

日本が露西亞に勝つてからは、亞細亞全體の民族は、歐洲を打破らうと考へ、盛に獨立運動を起しました。即ち埃及、波斯、土耳其、「アフガニスタン」、「アラビヤ」等が相繼いで獨立運動を起し、總て印度人も獨立運動を起す様になりました。即ち日本が露國に勝つた結果、亞細亞民族が獨立に對する大なる希望を抱くに至つたのであります。此の希望が生れてから今日迄二十年に過ぎませんが、埃及、土耳其、波斯、「アフガニスタン」及「アラビヤ」等の獨立が相繼いで實現した許りでなく、印度の獨立運動も亦漸次發展して參りました。之等の獨立の事實は、亞細亞の民族思想が最近進歩して來たことを示すものであります。此の思想の進歩が極點に達した時、亞細亞全民族は容易に聯合して起つことが出來、其の時こそ亞細亞全民族の獨立運動は成功するのであります。亞細亞の西部に居る各民族は、近來相互に非常に親密な交際を續け、又非常に眞面目な感情を持つ様になつて來ましたから、彼等は容易に聯合出來るのであります。亞細亞東部の最大の民族は中國と日本とであります。中國と日本とは、斯る運動の原動力をなすものであります。此の頃では兩國とも互に我不關焉の態度を採つて居る爲、今尙十分なる聯絡が取れて居ないのであります。然し乍ら將來我々亞細亞の東部に居ります各民族にも、必ず聯絡しようとする

ニコ大へ



「お前は日本人か」と問ひかけました。私は「そうではない、私は中國人だ。何か有つたのか、どうしてそんなに喜んで居るのか」と問ひました所が、彼等の答は「俺達は今度非常に喜ばしい「ニュース」を得た。何でも日本は露西亞が新に歐洲より派遣した海軍を全滅させた」と云ふことを聞いた。此の話は本當か、俺達は此の運河の兩側に居て、露西亞の負傷兵が船毎に歐洲に送還されて行くのを見た。之は必定、露西亞の大敗した證據だと思ふ。以前は吾々東亞の有色人種は何れも西方民族の壓迫を受け苦痛を嘗めて居て、全く浮ぶ瀬が無かつた。だが、此の度日本が露西亞に勝つたと云ふことは東方民族が西方民族を打敗つたことになる。日本人は戦争に勝つた。吾々も同様に勝たなければならぬ。之れこそ歡喜しなければならぬことではないか。だから吾々はこんなに喜んで居るのだ」と云ふことであつた。之を見ましても日本が露國を打敗つたことは、亞細亞民族全體に如何に大なる影響を與へたかと云ふことが解る。日本が露西亞を敗つたと云ふことは、東方に居た亞細亞人は、或は餘り重要視しなかつたかも知れないし、又餘り感興を引かなかつたかも知れないが、西方に居た亞細亞人及歐洲に近接して居た亞細亞人は、常に歐洲人から壓迫を受けて終日苦痛を嘗め、而も彼等の受ける壓迫は、東方に居た亞細亞人よりも更に大であり、其の苦痛は更に深刻であつた爲に、彼等が此の戰勝の報道を聞いて喜んだことは、

ニ。五。五。

氣運が動いて参りませう。此の東西兩部の民族が、相互に提携しようとする趨勢を作らんとする所以は、實に亞細亞民族の獨立を實現せんが爲であり、吾々亞細亞が從來持つて居た地位を恢復せんが爲であります。

歐米人は斯る趨勢を十分に知つて居ります。だから米國の或る學者の如きは曾て一冊の本を著はして有色人種の興起を論じたことがあります。其の本の内容は日本が露國に勝つたことは、黄色人種が白色人種を打敗つた事である。將來此の現象が擴大されたならば、有色人種は何れも聯合して白色人種に双向ひ來り、之が爲に酷い目に遭はされるであらうから、白人は豫め注意しなければならぬと云ふ意味のものであります。彼は後に更に一冊の本を著し、一切の民族解放運動は、凡べて文化に背反する運動であると言つて居ります。彼の主張に依れば、歐洲に於ける民族解放運動は固より、亞細亞の民族解放運動も亦文化に背反して居ると云はねばなりません。斯る思想は歐洲に於ける一切の特殊階級の人々が、何れも同じく抱いて居る所のもので、彼等は少數の人を以て歐洲及び自國內の多數の人々を壓制して居り、更に其の毒牙を亞細亞に迄擴張し、我九億の民族を壓迫して、彼等少數人の奴隸となさんとして居るのであります。之れ實に慘酷極まるものであり憎んでも尙餘り有るものであります。而して此の米國の學者が、亞細亞民族の覺醒を世界の文化



に對する背反であると言つてゐる所から見ますれば、歐洲人は自ら文化傳授の正統派と爲し、自ら文化の主人公を氣取つて居り、従つて歐洲以外に文化が発生し、獨立思想が起ることを文化の背反と爲して居るのであります。故に彼等は歐洲の文化は正義人道に合致するものであり、亞細亞の文化は正義人道に合致しないものであると考へて居るのであります。最近數百年の文化の狀態に付て觀ますれば、歐洲の物質文明は極度に發達して居り、我東洋の文明は何等大なる進歩を示して居りません。従つて之を單に表面的に比較致しますれば歐洲は東洋に優つて居ります。然し根本的に之を解剖しますれば、歐洲に於ける最近百年來の文化は如何なるものでありませうか。彼等の文明は科學の文化であり、功利主義の文化であります。此の文化を人類社會に用ひたものが即ち物質文明であります。物質文明は飛行機爆彈であり。小銃大砲であつて、一種の武力文化であります。歐洲人が最近専ら此の武力の文化を以て我亞細亞を壓迫して居る爲、我亞細亞は進歩出來ないのであります。歐洲の文化は武力を以て人を壓迫する所の文化でありまして、此の武力を以て人を壓迫することを中國の古語では霸道を行ふと言ひます。故に歐洲の文化は霸道の文化であります。然るに我東洋に於きましては從來霸道文化を輕蔑し、他に霸道文化に優つた所の一種の文化が存在して居るのであります。此の文化の本質は仁義道德であります。此

の仁義道德の文化は、人を感化するものであつて、人を壓迫するものではありません、又人に徳を抱かせるものであつて、人に畏れを抱かせるものではありません。斯る人に徳を抱かせる文化は我中國の古語では之を王道と云つて居ります。故に亞細亞の文化は王道の文化であるのであります。歐洲に於て物質文化が發達し、霸道が盛に行はれましてからは、世界各國の道德は日々退歩し、のみならず亞細亞に於ても亦、道德の非常に退歩して來た國が可成り出來て來ました。然し近來歐米の學者の中で、東洋文化に多少なりとも注意して居る者は、東洋の物質文明は、西洋の物質文明には及ばないが、東洋の道德は、西洋の道德より遙かに高いと云ふ事を漸次諒解する様になつて來ました。

霸道の文化と王道の文化とは結局何れが正義人道に有益であるか、何れが民族及び國家に有益であるかと云ふことは、諸君自ら諒解されたこととありませうが、之に付て私は此處に一つの例を擧げて説明申上げませう。今より五百年以前より二千年前迄一年餘の期間がありますが、此の間中國は世界に於ける最強の國家でありまして、丁度現在の英國及米國と同様の地位に在りました。英國も米國も現在の強盛は列強でありますが、中國の昔の強盛は獨強であつたのであります。然し乍ら獨強時代の中國は、弱小民族及弱小國家に對し如何なる態度を執つたでありませう



か。又當時の弱小民族弱小國家は、中國に對し如何なる態度を執りましたでせうか。當時の弱小民族及國家は、何れも中國を宗主國となし、中國に朝貢せんとするものは中國の屬藩たらんことを欲し、中國に朝貢することを以て光榮とし、朝貢出来ないことを恥辱として居た有様であつたのであります。當時中國に朝貢して居た國は、亞細亞各國のみならず、歐洲西方の各國迄、遠路を厭はず朝貢して居たのであります。當時の中國は之等多數の國家、遠方の民族の朝貢に對し如何なる方法を用ひたでせうか。陸海軍の覇道を用ひて彼等の朝貢を強制したでせうか。否！中國は完全に王道を用ひて彼等を感じたのであります。彼等は中國に對して德を感じ、甘んじて其の朝貢を希つたのであります。彼等は一度中國の王道の感化を受くるや、一代中國に朝貢したのみならず、子々孫々迄中國に朝貢せんとしたのであります。之等の事實は最近に至つても尙證據が有るのであります。例へば印度の北方に二つの小國が有ります。一つは「ブータン」であり、他は「ネパール」であります。此の二つの國は小國ではありますが、其の民族は非常に強く、又非常に精悍で勇敢に戦ひます、中でも「ネパール」の民族は殊に勇敢でありまして、現に英國は印度を治めるに當り、常に「ネパール」民族を兵士に採用して、印度を服従せしめて居る位であります。又英國は印度を滅して之を植民地とした程の力が有り乍ら「ネパール」に對して

は容易に斯る態度を執り得ず、毎年多額の補助金を送り、只政治監察の官吏を駐在せしめて居るに過ぎないのであります。英國の如き現在世界に於ける最強の國家が、尙且「ネパール」に對して斯くの如く懇懇な態度を執つて居るのであります。故に「ネパール」も亦亞細亞に於ける一の強國であると言へませう。然るに此の「ネパール」が現在英國に對して如何なる態度を執つて居るか、英國に朝貢して居ない許りでなく、却て英國から補助を取つて居るのであります。然るに「ネパール」は中國に對しては如何なる態度を執つて居るか。中國の國際的地位は、現在一落千丈して尙英國の植民地にも及ばない有様であり、而も「ネパール」から極めて遠く且兩國の間には非常に大なる西藏を挟んで居り乍ら「ネパール」は今以て中國を宗主國として居るのであります。即ち民國元年には西藏を經由して朝貢して居ります。其の後四川の邊界が交通不便となつた爲、遂に朝貢を見なくなりました。斯くの如く中國及英國に對する「ネパール」の態度は異つて居ります。諸君は之を不思議に思ひませんか。單に「ネパール」の中國及英國に對する態度を以てしても、中國の東方文明と英國の西方文明とを比較することが出来ませう。中國は數百年來衰微しては居りますが、然し乍ら文化は尙存在して居るのであります。夫れ故に「ネパール」は今以て中國を宗主國として崇拜して居るのであります。然るに、英國は今非常に強大となり、且立派な



物質文明を持つて居るに拘らず、「ネバール」は之に對し一向頓着しないのであります。之に依りますと「ネバール」は眞に中國の感化を受けたものであつて、中國の文化が眞の文化であり、英國の物質文明は文化ではなくて覇通であると視て居ると云ふことが解ります。

今私が大亞細亞主義を講演しますに當つて述べました以上の話は、如何なる問題であるかと申しますに、簡単に言ひますれば、それは文化の問題であります。東方の文化と西方の文化との比較と衝突の問題であります。東方の文化は王道であり、西方の文化は霸道であります。王道は仁義道德を主張するものであり、霸道は功利強權を主張するものであります。仁義道德は正義公理に依つて人を感化するものであり、功利強權は洋銃大砲を以て人を壓迫するものであります。感化を受けた國は、假令宗主國が衰微しても、數百年の後に至る迄、尙其の徳を忘れるものではないと云ふことは、「ネバール」が今日に於ても尙且中國の感化を庶幾ひ、中國を宗主國として崇拜せんとして居る事實に依つて明かであります。之に反して壓迫を受ければ、假令壓迫した國が現在非常に強盛であらうとも、常に其の國家より離脱せんとするものであることは、英國に對する埃及及印度の關係が之を示して居ります。即ち英國は埃及を征服し、印度を滅し、現在非常に強盛となつて居りますが、埃及及印度は常に英國より離脱しようとして居ります。之が爲彼等は

盛に獨立運動を起して居ります。然し彼等の獨立運動は、英國から大なる武力の壓制を受けて居りますから、急には成功致しません。然し乍ら若しも英國が一度衰微しましたら、埃及及印度は五年も経たない中に、直に英國の勢力を驅逐して獨立の地位を恢復するであります。こう申上げれば諸君は東西文化の優劣がお解りになります。吾々は今こゝにいふ世界に立つて居るのでありますから、我大亞細亞主義を實現するには、吾々は何を以て基礎としなければならぬかと云ひますと、夫れは我固有の文化を基礎としなければならぬのであります。固有の文化とは即ち道德であり、仁義であります。仁義道德こそは我大亞細亞主義の好個の基礎であります。斯くの如き好個の基礎を持つて居る吾々が、尙歐洲の科學を學ばんとする所以は以て工業を發達せしめ、武器を改良せんと欲するが爲に外なりません。歐洲を學ぶのは決して他國を滅したり、他の民族を壓迫したりすることのみを學ぶのではないのであります。只吾々は學んで以て自衛を講ぜんとするのであります。

近來亞細亞の國家で、歐洲の武力文化を學んで、之を完全にこなして居るのは日本だけではありません。日本は軍艦の建造操縦に至るまで、今では必ずしも歐洲人に頼るを要せず、陸軍の編制運用も亦自主的に之を行ふことが出来るのであります。それ故に日本は極東に於ける一個の完全な



る獨立國家であります。我亞細亞には歐洲大戰當時同盟國の一方に加入し、敗戦するや忽ち分割され、戦後酷い目に遭ひ乍ら、現在では一個の完全なる獨立國家となつた國があります。此の國が即ち土耳其であります。現在亞細亞には獨立國は僅か二つしかありません。一は東の日本であり、二は西の土耳其であります。日本と土耳其とは亞細亞に於ける東西の二個の大なる障壁であるのであります。更に現在では波斯、「アスガニスタン」、「アラビヤ」等も、歐洲に學んで立派な武力を備へて居り、歐洲人も敢て之等民族を輕蔑しないのであります。「ネパール」に至つては、英國人も尙且輕視致しません。彼等は今や立派な武力を具へて居ります。中國は只今非常に多くの軍隊を持つて居りますから、一度統一さるれば非常な勢力となりませう。吾々が大亞細亞主義を説き、亞細亞民族の地位を恢復しやうとするには、仁義道徳を基礎として各地の民族を聯合し、亞細亞全體の民族が非常なる勢力を有する様にしなければならぬのであります。

只歐洲人に對しては、單に仁義のみを以て彼等の感化を謀つたり、亞細亞在住の歐洲人に對して平和裡に權利の返還を求めたりすることは、恰も虎に食物を與へて其の皮を取らうとする様なもので、到底出來ない相談であります。故に吾々が我々の權利を完全に回收しやうとするには之を武力に訴へなければならぬのであります。さて武力と云へば、日本は早くより非常に完全な

る武力を有して居り、土耳其も最近立派な武力を持つて來ました。又波斯、「アフガニスタン」、「アラビヤ」等の各民族は從來から何れも戦争に強い民族であります。中國四億の民族は平和を愛する民族ではありませんが、生死の堺に立つては當然奮闘して大なる武力を發揮するのであります。若し全亞細亞民族が聯合し、固有の武力を以て歐洲人と戦つたならば、必ず勝ち決して敗けることは無いのであります。更に歐洲と亞細亞との人口を比較しますれば、中國は四億、印度は三億五千萬、緬甸、安南等は合計數千萬、日本は一國で數千萬あり、其他各弱小民族も數千萬ありますから、我亞細亞の人口は、全世界の人口の二分の一以上を占めて居るのであります。歐洲の人口は僅に四億に過ぎないのに、我亞細亞全體の人口は實に九億であります。四億の人間が九億の人間を壓迫すると云ふことは、正義人道と相容れない所でありまして、正義人道に反したる行爲は結局失敗するものであります。而も彼等四億の人間中には、最近に至つて吾々に感化された者すら有るのであります。現在世界文化の趨勢を見ますと、英國、米國邊には少數ではあります。仁義道徳を提唱する者が出て參りました。其他の野蠻國に於ても亦こうした主張をなすものがあります。之は即ち西洋の功利強權の文化が、東洋の仁義道徳の文化に服従せんとして居ることを物語るものであり、霸道が王道に服従せんとして居ることの證據でありまして、即ち世界



文化が日光明に趨く所以のものであります。

現在歐洲には、歐洲全部の白人から排斥され、毒蛇猛獸であつて人類ではない様に思はれ、少しも接近されない國があります。我亞細亞にも同様の考へを以て居るものが可成り有ります。然らば其の國は何處であるかと云ひますと、夫れは露國であります。露西亞は只今では歐洲白人の分家たらんとして居るのであります。露國が何故にそう謂ふ状態に在るか。夫れは彼が王道を主張して覇道を主張せず、仁義道德を説いて功利強權を説かうとせず、極力公道を主持し、少數を以て多數を壓迫することに賛成しないからであります。露國の新文化は我東洋古來の文化に合致するものであつて、彼等は東洋と手を握り、西洋より分家しやうとして居るのであります。歐洲人は露國の新しい主義が、彼等の主張と合致せず、且露國の主張が成功するときは、彼等の覇道が打破せられるだらうことを恐れ、露國が仁義正道を説く國であることには目もくれず、却て露國は世界の反逆者であると認ゆるのであります。

さて最後に、然らば吾々は結局如何なる問題を解決しやうとして居るのかと言ひますのに、壓迫を受けて居る我亞細亞の民族が、如何にせば歐洲の強盛民族に對抗し得られるかと言ふことでありまして、簡単に言へば、被壓迫民族の爲に其の不平等を撤廢しようとして居るのであります。被

壓迫民族は亞細亞に有る許かりでなく、歐洲にも居るのであります。覇道を行ふ國は只に他洲と外國との民族を壓迫するのみならず、自州及自國內の民族をも、同様に壓迫して居るのであります。私大亞細亞主義は王道を基礎としなければならぬと申上げたのは、之等の不平等を撤廢せんが爲であります。米國の學者は、民衆解放に關する一切の運動を、文化に反逆するものであると言つて居りますから、吾々の主張する不平等廢除の文化は、覇道に背叛する文化であり、又民衆の平等と解放とを求むる文化であると言ひ得るのであります。日本民族は既に一面歐米の覇道の文化を取入れると共に、他面亞細亞の王道文化の本質をも持つて居るのであります。今後日本が世界の文化に對し、西洋覇道の犬となるか、或は東洋王道の干城となるか、夫れは日本國民の慎重に考慮すべきことであります。



## 講演及び談話篇(中)

### 不平等條約と中國勞働者

——民國十三年の勞働團體に對してなせる演説——

各組合代表者諸君、諸君が今日此處にかかる盛大なる會合を開かれたのは、各國の勞働者に倣つて、世界各國に行はるる勞働祭を祝賀せんが爲めである。世界各國の勞働者は、何故今日の此の一日を記念するのか。それは米國の勞働者が三十九年前の今日、數多の大組合を結合して各都市で示威行列を行ひ、資本家に對し、勞働者に八時間の勞働、八時間の休息、八時間の教養を與へよと要求し、それまでの度はづれな虐待を打破せんとしたが、其の後此の要求が貫徹されたので、全米國の勞働者は、毎年の今日を勞働祭として記念して來た。それが次第に歐洲にも傳はり、各國の勞働者は其の本國の資本家に對し、夫々米國勞働者と同様の要求を提出し、之れ亦同様の勝利をかち得たので、此の勞働祭は、之れよりして歐洲にも擴まり、全世界に行はるるに至り、

今日に至る迄相傳へて、世界各國勞働者共通の記念日となつたのである。故に今日の記念日は世界各國の勞働者が資本家に戦ひ勝つた記念日であり、吾人勞働者全體が當に祝賀すべき日である。

我が中國勞働者は、今日は世界各國の人に隨つて、世界各國の勞働者と共に、此の記念日を祝賀するに當り、何事が最も大切であるかを知らねばならない。第一に、先づ中國の勞働者が現在如何なる地位に在るかを知らなければならない。中國勞働者現在の地位を知るには、先づ中國家の現在は如何なる地位にあるかを知らねばならない。中國の現在は世界中で最も貧弱な國家であり、各國から種々なる壓迫を受けてゐて、其の地位は奴隸的地位である。中國の現在の此の奴隸的地位は各國の植民地の地位に比較してもより一層低い。朝鮮は日本の植民地であり、安南は佛國の植民地である。朝鮮や安南には國際的地位が有るかと言ふに、彼等にはそんなものは全然ない。各國はみな彼等を奴隸たらしめてゐる。朝鮮の如きは日本の奴隸であり、安南は佛國の奴隸であるが、併し朝鮮、安南は外國の奴隸であるとは云へ、彼等はただ一個の強國の奴隸であるに過ぎない。然るに我が中國の現在は、世界列強の奴隸である。即ち中國と通商條約を有する國家は、みな中國の主人である。此の原因は、曾つて滿清政府が金に窮して多額の外債を借り、數多



の不平等條約を結んで、主權を外國人に讓渡した、つまり滿清が吾人を奴隸にしてしまつた事にある。即ち外國の金を借りる爲めに吾人の身賣りを行つたのである。彼等の結んだあの條約は、取りもなほさず吾人の身賣證文である。十三年前の革命で滿清を顛覆し、滿清の奴隸たる境地からは脱したが、併し身賣證文はまだ回収してゐない。故に現在なほ各國の奴隸とならねばならぬのである。従來は二重の奴隸であつたが、現在でも尙一重の奴隸たることから免れないで居る。吾人はただ一重の奴隸であるとは云へ、併し其の主人は十幾ヶ國であつて、朝鮮の主人がただ日本一國であり、安南の主人が只だ佛國一國であるのとは趣を異にする。諸君想像して見給へ、一人に仕へるのが容易であるか、それとも多數の主人に仕へるのが容易であるか。奴隸たるものが一人の主人公の御機嫌をとるのは云ふまでもなく頗る容易であるが、多數の人の歡心を得んとするのは多難な事である。俗に云ふ通り、姑の意に順へば嫂の御機嫌を損ねるからである。故に中國現在の地位は極めて困難なもので、朝鮮、安南の地位に比較して一層困難であり、一段と低いものである。國家の地位がかく非常に低い以上、吾人人民の地位も亦自ら低く、労働者の地位は當然更に低い。

今日、諸君は文明諸國の労働團體に追隨して、此の労働祭に、此の労働者大會を開催されたの

であるが、如何にせば此の大會を有意義たらしめ得るであらうか。余の考を以てすれば、今日から労働者の一大團體を組織する決心を爲すべきである。現在文明諸國の労働者はみな極めて大きな團體を有してゐる。中國で近來發生した労働者の運動はみな各國から傳來したものである。即ち今日の此の大會にせよ、もと各國の労働者に倣つたものである。各國の労働者は現在如何なる状態にあるか、彼等の地位はどうであらうか。各國の労働者はみな團體を有し、國家も亦特別法を設けて、此の種の團體の利益を保護してゐる。利益を保護するのは文明國にして始めて見る事で、若し專制國家であれば、かかる利益は與へられない。文明國の労働者は團體を組織して、一體何を爲すのであらうか。彼等の事を行ふ其の目的は資本家と地位を争ふに在る。労働者が資本家と地位を争はねばならぬと云ふ其の事は、文明國內に於いては労働者と資本家との地位が當然平等でない事を示してゐる。現在文明國の資本家はなほ依然として労働者を極めて虐待してゐるので、労働者は資本家の虐待を受けまいとして、労働者と資本家間に大問題が發生したのである。現在世界各國の中、一國として此の問題の存在しないものはない。故に世界各國の労働者はみな團結して資本家と抗争しなければならぬのである。

外國に於いて大資本家が發生した所以は、産業革命を經過せるによるものである。此の革命は



各種の生産方法をして手工を用ひず、専ら機械を以て製造せしめた。機械による製造は頗る迅速で、工場の規模も大であり、製造品も多量なので、機械を有する人は財産を作りあげ、數多の大資本家を生ずるに至つた。大資本家は多額な金を懐にするに至ると、どんな悪事でも平氣でやつてのけ、先づ本國の労働者を壓制し、其の後は勢力が膨脹すると共に、更に外國の労働者を壓制する。中國の労働者と外國の労働者との異なる點は、外國労働者は單に本國の資本家の壓制を蒙るのみで外國資本家の壓迫を受けない點である。若し外國の資本家が壓迫する事があれば、政府は直ちに之れに抗爭し、本國資本家の壓迫に就いても政府はまた種々方法を設けて保護を計つてゐる。故に外國労働者は一方本國資本家の壓迫を蒙るけれども、他方政府の保護を受けてゐる。中國の産業に至つては、一向に發達して居らず、機械による生産は未だ盛に行はれるに至らない。故に中國には外國同様の大資本家が存在しない。外國では機械生産が行はれるに及んで、大資本家が發生し、一般労働者は資本家の大害を受けたが、中國労働者は現在なほ本國資本家の害毒を受けてゐない。本國にはまだ労働者を壓迫する大資本家が發生してゐないのである。労働組合運動が發生して以來、かの小産業は却つて労働者の害を受け、労働者から壓迫されてゐる。では中國労働者は一體壓迫を受けてゐるのであらうか。誰から壓迫を蒙つてゐるのであらうか。中國の

労働者は外國資本家の壓迫を蒙つて居るのである。故に外國労働者は本國資本家の壓迫を受けはするが、併し外國資本家の壓迫は受けないのに、中國労働者は、丁度之れと正反對で、本國資本家の壓迫を受けはしないが、外國資本家から壓迫されねばならない。之れが即ち中國と外國の労働者の状態の相違する點である。

吾人中國の労働者が、外國資本家の壓迫を受けつつある事は、如何なる點から明白にする事が出来るであらうか。普通の労働者は其れが判らぬので大して苦痛を感じないのである。外國資本家は如何なるものを以て中國労働者を壓迫してゐるか。彼等は商品を以て中國労働者を壓迫する。彼等の商品はどういふ風に中國労働者を壓迫するか、之れは國家に保護された力を以て中國労働者を壓迫するのである。外國労働者が、他國の商品から壓迫を受ける場合は、政府は早速保護の方法を講ずる。中國政府は中國労働者を保護せねばかりでなく、却つて外國商品を保護してゐるのである。直接に外國商品を保護するといふ事は、明に外國資本家を保護する事である。それは何によつて判明するか。海關によつて判明し得るのである。曾つて中國が外國と結んだ數多の不平等條約は、外國に對して數多の特別權利を與へたが、就中、最も重大なるものは、海關を外國人に管理に歸せしめた事である。輸出入品の税はみな外國が取りたて其の徵收の多少は彼等によ



つて決定され、吾人中國人は口出しする事が出来ない。外國は海關を設立し、自國の商品を保護するのに使用するのである。凡そ、輸入品に對しては重税を、輸出品に對しては税を徴收しない、之れが關稅徵收の本旨である。即ち輸入品價格を高からしめて國內では賣捌かれぬ様、本國の輸出する商品は價格を低廉にして到る處で賣捌く様にするが爲めである。かかる關稅徵收方法を以てすれば、外國商品を抑制し、本國商品を保護し得るのであり、直接に本國商品を保護することは、間接には本國の勞働者を保護する事になるのである。吾人が現在海關を失つた事は、即ち種々の産業を保護する門戸を失つた事である。門戸が開け放しであるから、外國商品は續々として輸入されて各省内地に運搬され、極めて安價で發賣され、普通人は安價なのを愛するから國産品を使用しないで外國商品を使用しようとする。國産品を買ふ人がなくて、外國品が廣く捌けて行く爲め、國産品は外國品に敗北し、國産品が敗北すれば全國で品物を生産しない故、中國勞働者は仕事がなくなくなるのである。以前の鎖國時代には、中國の勞働者は未だ自ら耕して食ひ、自ら織つて着、自給自足を爲し得たのであるが、外國人が出て我が門戸を打破して吾人と通商するに至つて以來、自ら供給する事を得ずして、國産品は消滅して形を失ひ、外國品は市場に溢れ出た。外國品が市場に充滿するばかりではなく、外國銀行が發行する紙幣も亦各地に通用して、中國の

紙幣もまた外國紙幣に敗北してしまつたのである。故は中國人民が生計を立てる經濟に就いて云へば、完全に外國の經濟壓迫下に在つて、中國々家は表面上獨立國であるが、實際は外國の植民地と化し去つてゐる。外國の植民地となつたため、外國のかかる大なる經濟的壓迫を蒙り、此の故に中國勞働者は生きんとするに道がないのである。

通商は元來、有無相通するもので、双方に利益のある事である。併し乍ら、中國と外國との通商後は、中國にない外國品は輸入され、國産品は輸出されたが、其の輸出入を比較すると、毎年の輸入超過は五億元以上に上らんとしてゐる。之れは外國が五億元だけ餘計に品物を持つて、中國の五億元の金と交換したもので、中國は外國に五億元だけの金を持ち去られたのである。即ち、中國は外國通商によつて、毎年五億を損失しなければならぬのである。中國の毎年五億元の損失は、中國が毎年外國に對して五億元の進貢をする事である。中國勞働者は元來直接に外國人の仕事に従事しないので、直接の虐使を受けない。併し通商によつて多くの外國品を消費し、毎年五億元を進貢して居る。即ち中國の勞働者は毎年五億元の賃銀を損失しなければならないのである。此の五億元の損失は年々一定しては、ない。十年前には僅かに二億に過ぎなかつたが、現在では増加して五億に至つて居り、更に十年後には必ず倍加して十億に上るであらう。現在



の中國人は毎年五億を損失するだけで、既に困窮して日夜苦痛を訴へてゐる。更に十年後は倍加して少くも十億になるであらう。其の時代には、經濟的壓迫による難關のみでも、吾人は如何にして之れを打開し得るであらうか。

外國労働者は單に本國資本家の壓迫を受けるだけであり、中國労働者は外國經濟の壓迫を受けて間接に外國資本家の奴隸とならねばならないのである。諸君、中國労働者の地位と外國労働者の地位とを比較して見て、其の差の如何に甚しいかを知るであらう。現在中國に於いては、ひとり労働者のみが外國資本家の壓迫を受けてゐるのではない。讀書人も、農民も、商人も、ひとしく外國經濟の壓迫を蒙つて居るのである。

諸君、此の世界各國の労働祭に當つて開かれた此の大會は、如何なる方法を以て、此の壓迫を打破し、自己の地位と各方面の人々の地位を維持し得るかを研究せねばならぬ。外國労働者の後塵を拜して自己の地位を維持せんとするには、如何なる方面に着眼すべきであらうか。外國の労働者は、文明國家に生れ、政府は頗る完備せる法律を以て労働者を保護してゐる。故に萬事労働者が心配する要はない。政府が労働者の保護法を有するから、労働者の地位は極めて高く、文明ならざる國家に生存する労働者もまた自ら組合を組織し自己の地位を引上げる。例へば露國労働

者は數年前大團體を結成し、專制の露國皇帝を倒し政體を改革し、労働者の獨裁政治とし、如何なる資本家と雖も一切政權に近づくを許さず、ただ労働者のみが國事を掌るに至つた。此の露國労働者の地位はどうであらう。英國は現在、労働黨が内閣を組織し、一切の政權はみな労働者に掌握されてゐる。此の英國労働者の地位は又どうであらう。其他各國労働者の勢力はみな日に日に擴大され、彼等の地位は日に日に高まりつつある。故に彼等は本國内部に於いて一切の問題を解決し得るのである。我が中國の労働者が若し専ら外國労働者に學んで大團體を組織して、國內の問題を解決するならば、初めて發生したばかりの資本家を倒すのは何でもない事である。併し此の問題を解決すれば、外國經濟の壓迫問題は、一齊に解決し得るであらうか。吾人が毎年受けてゐる五億元の損失は、挽回し得るであらうか。否、いづれも不可能である。

我が中國の資本家は、實際の處、労働者を壓迫する程の大きな能力を持つてゐない。現在中國労働者の受ける所の最大の苦痛は、外國の經濟的壓迫である。故に諸君は今日かくも盛大に、かかる大團體を結成して、かかる示威運動を行ふのである。まさに外國の經濟的壓迫に抗爭する方法を案出しなければならぬ。中國労働者は現在、自國資本家の壓迫を受けざるのみか、却つて種々の方法を以て自國資本家を壓迫せんとしてゐる。斯様な状態にあるが故に、中國労働者は平



常自國資本家と爭議を起す。然し爭議の勝利後、其の經濟問題が解決したであらうか。有する所の經濟問題を解決するには、一切の經濟的壓迫を打破消滅せしめねばならない。中國勞働者の地位は自國資本家の上であり乍ら、何が故に一切の經濟的壓迫を打破し得ないのであるか。中國勞働者の今日受ける障害は自國資本家の壓迫は小であり、其の受ける所の最大の壓迫は却つて外國資本家によるものである。吾人は毎年五億元を損失してゐるが、之れは外國が毎年五億元を強奪して居るのである。吾人はかく強奪されゆく五億元を、外國人が税關をかすめ、本國に持ち去る事を許さない爲めには、先づ海關の管理權回收を力争しなければならぬ。中國の海關を外國人に交付して管理せしめる事は、嘗つての不平等條約中に明記してあるのである。故に吾人は海關管理權回收を争はんとすれば、外國と交渉して不平等條約を撤廢せしめねばならない。此の目的を達成するため、勞働者は果して其の能力を有するであらうか。此の大目的を達成するためには、大團體がなければ不可能である。中國に現在ある團體では、知識階級を除いた以外は、ただ勞働者が團體を有するのみである。商人の團體は極めて小さく、農民は全く團體を持たない。故に現在土農工商各方面に於いて、農商の兩階級は團體を有せず、ただ士と工が團體をするのみであると云へる。勞働者は既に團體を有してゐる以上、内外の不平等條約を撤廢するため、全國の

指導者となり、國民の先鋒となつて、最前線に於いて奮闘するを要する。

諸君は勞働者であり、民國の一分子である。勞働者の地位を向上せしむるには、先づ國家の地位を向上せしめねばならない。然し一方面よりのみ行つても、貫徹し得るものではないのである。斯くの如く申述べるのは、勞働者は其の團體に對して責任を有するに止らず、自己の團體以外に對しても、更に重大なる責任を有して居るからである。それは如何なる責任であらうか。即ち國民としての責任である。諸君が大きな團體を結成して負擔すべき責任は何であるか、國家の地位を向上せしめる責任を負擔することである。若し此の責任を負擔する事が出来ないならば、諸君は外國の奴隸となつて居なければならぬ。若し此の責任をよく負擔し得るならば、中國は世界第一等の強國と變化し、諸君は世界第一等の勞働者となり、第一等の國民となる。國家の地位を向上せしむるには、先づ中國が外國の經濟的壓迫から脱出するを要する。また資本家の宣戰に對しては現在、内外の勞働者はみな同一の作戦を以てし、其の目標も亦同一の敵である。故に内外の勞働者はまさに一致團結し、中國の勞働者は外國の勞働者と聯絡し、外國の資本家に向つて宣戰しなければならぬ。辛亥革命の志士に學んで、同心協力、勇往直前、釜を破り舟を沈める大勇氣を有しなければならぬ。諸君にして、此の團體と、かかる勇氣とを有するならば、外國の經



濟的壓迫を打破し、條約上の束縛を解き得るであらう。此の地位を獲得すれば、中國の國際的地位は各國と平等となるのである。現在中國が各國と平等ならざる原因は、國際上の束縛によるものである。例へば政治經濟等の上に種々の壓迫は極めて多く、此の束縛を解除する事が必要である。労働者の方面に在つては、決して之は難事ではない。英國や露國の労働者は、中國労働者の好模範で、ただ英國、露國の労働者の如くなるを要するに過ぎない。國家を背負ふ大責任に至つては、根本的な一つの方策がある。即ち余の三民主義と五權憲法とである。諸君がよく余の主義に服従して、余の政策を支持實行したならば、英國露國の労働者と同様に社會上最高の地位を占むるに至るであらう。此く觀察し來ると、中國の労働者は、資本家に反對して、時間短縮、賃銀増額等を要求するばかりではない。之れは全く食ふ食はぬの問題であるが、最も重大なのは、政治問題である。中國の政治問題の解決實行には、三民主義を支持實行し、吾人の革命を贊助するを要する。諸君が、よく三民主義を支持し、吾人の革命を贊助するならば、此の祝賀大會も決して無意義には終らないであらう。

## 世界新道德の潮流

——民國十三年、嶺南大學、黃花岡紀念會に於ける演説——

學生諸君。今夕、諸君は嶺南大學に於いて盛大に筵席を設け、黃花岡紀念會を催された。余は諸君に對し、無限の希望を有するものである。諸君は現在勉學時代であるが、黃花岡七十二烈士を紀念せらるる、現在の此の志は極めて遠大である事は云ふまでもない。之を將來卒業後にも推し及ぼして、國家のために事を行ひ、功業を建つるならば、前途は更に計り知るべからざるものがあらう。何故に此の紀念會によつて、諸君の前途が頼る遠大なる事を知るのであらうか。諸君今晚は何故に黃花岡七十二烈士を紀念せられんとするのか。當時の事業に就いて述べれば、七十二烈士の行つた事は失敗であつて成功ではなかつた。十四年前の今日は、七十二烈士が國の爲に血を流した日であり、革命黨の慘憺たる悲歌の日である。されば此の三月二十九日は即ち、七十二烈士が革命事業に失敗した日である。今日が正に七十二烈士失敗の日であるのに、吾人は却つて之を紀念せんとするのである。記念する所は如何なる點に在るのか。彼等の失敗を紀念せんとするのであらうか。失敗になほ記念すべき如何なる價值が存するであらうか。吾人が記念する點は、當時の彼等の事業の失敗ではなくて、彼の烈士等の當時の士氣である。

七十二烈士は當時如何なる士氣を有してゐたのであるか。吾人は、彼等の士氣如何を知り得な



いが、併し彼等が失敗した爲に頭を断たれ血を流して、生命を犠牲とした、此の事によつて、彼等の士氣を窺ふ事が出来るのである。最少限度に於て、一身一家生命を惜しまず、權利と幸福とを念とせず、此の失敗せる事業を實行せんとしたのである。義軍を擧げた當時は、各省革命の同志が約數百人、廣東に集中されて居たに過ぎない。此の數百人を以て、よく總督衙門及び海軍鎮守府を攻め破り、廣東を占領して革命の策源地とし、更に滿清に向つて奮闘せん事を企てたのである。敵の軍隊に至つては、新式軍隊あり滿洲駐防軍あり、提督の統率する海軍陸戰隊あり、合計數百萬人に及び、革命黨は數百人に過ぎなかつた。此の數百人を以て數萬人と戦へば、如何なる結果を得るかを彼の烈士等は知つて居た。當時衆寡懸絶せる状態を比較して、彼の烈士等は既に事前に其の甚だ危険なる事を明に認識してゐたのである。既に其の事の頗る危険である事を明に認識し乍ら、彼等はなほ決心して實行せんとした。如何に彼等の用心がきびしかつたか、志を立てる事が深かつたかが知られるではないか。彼等は何故に斯様に苦しい思をして抗争せねばならなかつたか。其れは當時の四億の人々が滿清の専制下に在り乍ら、盡く、滿清の皇恩浩蕩、深仁厚澤と稱し、少しも滿清に二百餘年間征服せられ、二百年間奴隸と爲つて居た事を知らず、人々みな醉生夢死してゐたが、之れでは將來の生存が愈々危険となることを知つたからである。此

の民族の危険を目撃せるが故に、明かに結果は失敗とは知り乍ら、なほ實行せんとしたのである。有する所の希望は何であつたらうか。即ち身を以て國に殉じ、一般醉生夢死の人を呼び醒ます事であり、四億の人々が彼等の犠牲によつて自から悟り、夢より醒め來つて自己の爲めに幸福を謀る事であつた。故に七十二烈士は國の爲めに犠牲となり、死を以て國に報いたのである。その立つる所の志氣は即ち、死後に中國全體の國民を喚び醒さんとするに在つたのである。彼等の此の志氣によつて、彼等が其の當時、此の事業を爲さんとした志は四億人のために其の任に當らんとしたものである事を知る。彼等四億の人民は専制政體の下、昏天昏地、全く闇の中に在つた。此の四億のために務を果さんとし、他に此の目的を達成する何等の方法がなく、如何とも爲すべからざるに想倒し、遂に死を以て四億の人民を感動せしめ四億の人民に對して其の務を果さんとしたのである。故に革命事業は、七十二烈士に在つては失敗に歸したが、彼等は其の死處を得たのである。吾人後に死する者より見れば、却つて成功であつたと云ひ得る。故に吾人が今日記念するのは、彼等の當時の志氣を記念するのである。彼等が死を以て國民を喚び醒まし、國のために服務せる志氣を記念するのである。七十二烈士は、辛亥の年三月二十九日、國民を喚び醒ましんとして國の爲めに死したが、而かも彼等の死後五ヶ月ならずして武昌の起義を發し、滿清を打倒



し、専制を打破し、四億人を奴隸の地位より救ひ出し得たのである。之れ即ち七十二烈士の死を以て國民を喚び起し、國のために盡した志氣が其の目的を達成したのである。

吾人は今日彼等を記念し、應に彼等の志氣を學び、更に之れを擴充して、國家のため、人民の爲め、社會のため、世界のために働かねばならない。諸君は學徒であり、知識階級であつて、人類の道德觀念が現在如何なる程度に進歩してゐるかを知つて居られるであらう。昔は、極めて聰明才幹ある人の多くは、其の聰明才幹を用ひて、無知無能の人々を欺瞞した。されば此のために專制及び各種の不平等なる階級が生じ來つたのである。現在の文明進化せる人類は、此の誤りを悟つて、新道德が発生した。此の新道德によれば聰明有能の人は當然衆人に替つて力を盡さねばならない。此の衆人に替つて力を盡す新道德こそは、世界に於ける道德の新潮流である。七十二烈士の多數は才幹學問ある人々であり、彼等は身を捨てて國を救ひ、死を視ること歸するが如く、人類のために力を盡し、彼等の道德觀念を實行した。即ち此の新道德の傾向を感受したものである。諸君は今晩七十二烈士を記念するに當り、空しく把握する所なく記念するのではなく、彼等の志氣に學び殊に彼等の道德觀念の學ぶべき事を知らなければならぬ。諸君が彼等の道德觀念を學ぶには、如何なる點より學ぶべきか、簡単に云へば、學問の上から學ばなければならぬ。諸

君は現在勉學の時代であるから、當然今日から之を學んで、光陰を愛惜し、發奮讀書し、人類のために貢獻する各種の學問を研究すべきであり、また學成つた後には、志を立てて國家のため社會のために貢獻盡力せねばならない。そして七十二烈士の如く、生命を犠牲とするに至るも亦惜しむ可きではない。決して自己の聰明才幹を、彼の無道德なる官僚軍閥の如く人類を欺瞞し、國家を破壊する事に用ひてはならぬ。更に七十二烈士の跡を追ふて、力を竭して此の國家社會に於いて新道德の進行を阻止する大障礙物を除去するを要する、かくてこそ、始めて黃花岡を眞に記念するものである。諸君が此の記念の日を腦裡に深く刻んで永遠に忘るる事なからん事を望むものである。

### 北上に際し軍官學校學生へ

——民國十三年十一月三日——

諸君、今日此處に在つて聽講せらるる諸君の中には、文學生あり、また武學生がある。余が今日黃埔に參つて講演するのは、黃埔の學生諸君に暫時別を告げんがためである。告別の原因は余が北京に赴かねばならない爲である。今回北京の事變が発生する五六ヶ月以前、數人の同志が



北京から頻々と書を送り、余に先づ天津に來つて時機を待たん事をしきりに勧めた。そして彼等の云ふ所では、北京には久しからずして中央革命が起るであらうとの事であつた。今回の事變を計劃した人數は頗る少數で、眞に我黨の同志は十人を出でない。彼等の見解では、我黨の革命は二十餘年に及ぶが、總て不成功に終つてゐる。即ち辛亥の年、滿清を顛覆して民國を成立したが、なほ我黨の主張は完全に成功したものではない。其の原因を探究するに、從來の革命が、いづれも各省に在つて行はれ、効力が甚だ弱かつたからである、首都に於て革命すれば、其の効力たるや大であらう、と考へた、故に彼等は二三年前、北京に赴いて主義を宣傳し、一切を企劃した。五六ヶ月前に到つて、頗る詳細を極めた報告を齎し、進行の成績が頗る良好であつて、軍人にして同情の意を表する者が甚だ多い。各省に於ける有力なる同志を北京附近に集合せしむるならば、數ヶ月にして成功し得ると述べ來つたが、當時各省の有力なる同志は、いづれも其の省に在つて奮闘活動しつゝあつて、誰一人北京に赴き、之を進行せしめ得る者はなかつた。しかのみならず、當時北京の表面は頗る平穩であつて、首都の革命が、數ヶ月後に成功し得るなどと説いて見た所が、敢えて信する者は一人としてなかつたのである。余自身に就いて見ても亦、甚だ茫漠たる感じがして、敢えて信じ得なかつた。江浙戰爭發生後に到り、彼等はまた余に速に廣東を

放棄し、天津に到つて時機を待てと催促し、首都の革命は、頗る確實性が有り、發動の時機も目睫の間に迫つてゐる、此の時機こそ、眞に千載一遇の好機であつて斷じて失ふべきでない。若し廣東の計劃が、韶關より兵を進めて、先づ江西をとり、更に武漢をとり、然る後に方法を案じて北京を攻めんとするが如きものであるならば、それは、甚だ以て迂遠な、而も頗る困難な方法である。若し廣東を放棄して直に天津に來り、中央革命を發生せしむれば、成功は最も速に最も容易であると説いてきた。余が當時考へた事は、北京に事變が發生すれば行こう。廣東の軍隊を放棄して用ひず、先づ天津に赴いて時機を待つならば、時間の空費と見込みはづれの恐れがある。故に彼等には、ただ北京に事變が發生すれば、余は直ちに北上するであらうと約束し、更に一方では、廣東の軍隊を韶關に集合せしめ、余親ら韶關に至つて、各軍の前進を督し、江西を攻め、我が軍の一部は既に萬安、吉安に到達した。現在では諸君の知らるる如く、北京に事變が發生してゐるのである。此の事變は最初發生せる頃は、頗る中央革命の如くに見えた。吾人は以前の情況に就いては不明瞭であるが、現在、事變の發生せる頃の状態を論ずれば、之れを決定したものは我が同志の籌劃であつた。然し最近、中央の大勢力は、革命黨の手にはなく、却つて一般官僚と普通軍人の手中に在る。今回の事變の結果を見ると、毫も中央革命といふ事は出來ない。今回



の事變は、毫も中央革命の希望を持たないものである。既に中央革命の希望なき以上、何が故に北京に赴かねばならないのか。余は約束を履行するために赴かぬ譯には行かない。彼等に北京に於いて奮闘し、努力を拂つて漸く今回の事變を發生せしめたのである。事變後、我黨に對し同情を表するものは、僅かに數人の師團長、旅團長有るのみで、普通一般の兵士はみな、其の意義を明白にするものはない。少數の師團長、旅團長によつて、極めて重大なる中央革命を行ふ事は、必ずや、甚だ成功し難いものである。故に事變發生の當初、余が北京に入つて彼等と共同し、一個の宏大なる中央革命を爲さんとしても、亦容易に爲し得るものではない。今回の事變を経て、信すべきは、北京首都の地に慥に革命主義を歓迎する軍隊がある事である。今後北京に在つて中央革命を計劃すれば、必ずや日に日に進歩を望む事が出来よう。今回は中央革命を達命し得なかつたけれども、今後進歩すれば、一の大規模なる中央革命を達成する事を望み得るのみならず、北方の軍隊と人民とは、良心と愛國心とがある。良心と愛國心とを有すれば、即ち革命黨の感化を受け得る。吾人は嘗つて北方の空氣が醜醜として、官吏は卑下し、武人は野蠻であり、人民は無知であるから、彼等に革命主義の力を以てしても、感化し得ないと考へた。併し今日よりして之を見れば、従來の觀察は、實際誤つて居た。北京も亦革命の策源地となし、革命の基礎と

なし得るものである。現在の事變は完全なる革命行動とはなし難いが、將來再び革命を起し得ずとは云ひ難い。ただし今日に在つて努力するを要する。さすれば今後或は好結果を齎すであらう。好結果を得る事が出来るか否かは、現在に於ては豫じめ知るを得ない。併し、徹底的の革命は必ずや北京に在つて發生する事を推測し得られる。かかる希望を有するが故に、余は北方の同志の歓迎に答へる爲め、北京に赴く事を決定したのである。余が今回北京に赴くに就いては、單に我黨の同志が歓迎するに止らず、各省の反直隸派も亦非常に歓迎して居るから、きつと自由に行動し得るものと信じてゐるが、將來自由に行動する結果は、一體如何であらうか。此點豫め知る事は不可能だが、前途の發展のためを考へれば現在敢て赴かざるを得ない。諸君も亦、余が北京に到つて後、直によく中央革命を起し得るものと考へてはならぬ。ただ此の機會を藉りて、以て宣傳し各省の同志と聯絡して國民黨部を成立し黨部の内より革命の基礎を建設せしめるのである。此の目的を達し得るか否かは、固より豫め斷定し得るものではない。併し只だ革命の方法さへあれば、進行せしめ得るであらう。今日、此處に余の話を聽かれる文學生、武學生諸君は、此の機會を藉りて、革命の方法を研究せられよ。余も亦此の機會をかりて、革命の方法を諸君と共に談じ合はう。諸君は現在みな、革命の責任を背負つてゐる。外部に對する奮闘はまさに如何なる方



法を用ふれば成功し得るであらうか。革命の成功を求むるには、古今東西を論ぜず中央に在つて進行せしむるが、當然最も容易である。各地方に於いて進行せしめて成功したものもある。地方革命も亦一種の方法たるを失はない。故に革命の方法を研究するには、空間の問題を除外して、更に他の方面より着想する必要がある。

最近二三十年の革命思潮は何れの邊より發生せるものであらうか。何れの地より中國に傳來せるものであらうか。中國で此の思潮を感受したのは、そも如何なる人々であつたらうか。革命の思潮は歐米が最近中國に傳へたものであり、中國人にして此の思潮を感受せるものは、いづれも愛國の志士であり、彼等には天を悲しみ人を憫む心があつて、國亡びて民族の滅びるのを見るに忍びなかつた。歐米の革命思想を感受して中國を革命せんとした所以である。併し乍ら、歐米の革命思想は一度中國に傳來するや、中國の舊思想を打破した。試みに最近二三十年來の、中國革命黨の各地に於ける奮闘を見よ、成功の機會は當然有つたが、毎回成功の後には必ず失敗を繰返へして居る。此の原因は奈邊にあるのか。吾人の革命の失敗は、如何なるものに打破せられたものかを、諸君は知つて居られるだらうか。敵の武力が之を打破したのであるか、それとも舊官僚の陰謀が打破したのであらうか。又は中國の舊思想が打破したのであらうか。其のいづれも當つ

てゐない。一體如何なるものが、打破したのか。諸君は學生であるから、大概御存知あるまいが、余の考では、夫れは歐米の新思想が打破したのである。中國の革命思想は本來、歐米の新思想によつて發生したものであるが、何故に歐米の新思想は、中國の革命を發生せしめ乍ら、また更に中國の革命を打破し得るのであるか。此の理由は頗る微妙なもので、詳細に研究せねば、極めて明白にし難い。歐米の革命思想とは何であるか。之は諸君の知らるる所の、自由平等である。自由と平等とは歐米最近百餘年來の最大なる二個の革命思想である。佛蘭西革命の時代には、更に一つの「スローガン」博愛を加へた。自由、平等と博愛の思想は、即ち、佛蘭西革命に發生したものであり、中國も近來亦同じく自由平等の思想を感受した。之れが同じく革命を起した所以であり革命が事實となつて現れた後、又此の種の思想によつて打破された所以でもある。故に革命は常に失敗した。吾人の革命の失敗は、決して官僚や武人に打破せられたからではなく、全く平等自由、此の二個の思想によつて打破されたのである。革命思想は既に自由と平等によつて始めて發生しながら、何を以て再び、自由平等によつて打破されたのであるか。此の道理は、以前には毫も明らかにされなかつたが、最近十數年來發生せる事實が、之を證明してゐる。諸君の知らるる如く、革命は本來政治的變革である。では政治とは一體如何なる事を爲すものであるか。政



治の二字に就いて説明すれば、政とは衆人の事であり、治とは衆人の事を管理することである。衆人の事を管理する事、即ち政治である。換言すれば、衆人の事を管理するとは、即ち國家の事を管理することである。此の道理を、多數の軍人は誰も理解しない。例へば今回北方に發生した事變にしても、本來少數軍人の行動である。此の事變は本來革命であり、彼等が革命を起したから政治的變動が發生したのである。彼等は事前に在つて此の大勢力を蓄へ得たので、よく政治的變動を發生せしめ得たのである。政治的變動が既に發生した後、彼等は通電を發して、却つて政治を知らぬと云つてゐる。之はあたかも發電機の大電力を發生せしめ得る部分、即ち「モーター」の如きもので、若し一大「モーター」が、幾萬馬力の電力を發電し得るならば、此の大電力で船を走らしても一時間數十哩を走らせ得る。工業に使用すれば、非常に多くの機械を運轉して、極めて多量の物貨を製造し得る。また燈用に供すれば、無数の電燈を以て一大都市を飾る事も出来る。かくの如く「モーター」は、若しよく其の發生せる電力の使用場所を知り、之を適當に用ふるならば、種々の利益ある事業を爲し得るのであるが、若し發生電力の使用方法を知らず、或は之を不適當に使用すれば、人殺しもしようし、到る處頗る危険極まるものである。現在北京に在つて、政治の原動力を有するものは軍人であり、既に政治的變動を發生せしめておき乍ら、な

ほ且つ、政治を解せず、と説くのは、丁度「モーター」自からが電力を發生せる後、使用方法を知らざると同様、極めて大なる危険が存してゐる。大原動力を有する軍人が、日々政治範圍内に在つて活動し乍ら、政治知識が無いと云ふに至つては、其の衆人に對する危険たるや、「モーター」に比較してより一層大であり、一層甚しい。諸君にして現在若しなほ此の道理を明白にして居ないなら、余の民權主義を讀めば、直に了解し得られる。

中國革命の失敗せる所以は、平等自由を誤解せるに在る。革命は本來政治事業である。若し軍人たる者が政治を解せずと云ふならば、それは宛かも普通人が飯を食ひ、着物を着、起床、就床する事を知らぬと云ふも同然であり、いづれも人の常に爲す事であり、人々の當然有すべきものである。一體、人の行ふ日常の事を知らなくとも差支へないものであらうか。如何な人たるかを問はず、當然諸君は皆人の行ふ日常の事を知り得る。それが即ち政治である。諸君が、公共の事に團結し得てこそ、人間たり得るのであり、政治上に在つては獨立自覺せる人民となるのである。獨立せる人民が、強力なる國家を組織せるもの、之が列強であり、獨立なき人民が組織せる國家が即ち弱少國である。弱少國はいづれも列強より壓迫されて居る。如何なる國家たりとも、それが強國であるか否とに關係なく、已に國家と稱するからには、ひとしく政治的團體である。



國家ありて團體なければ政治は實行すべき方法がない。政治は國家を運用するものであり、國家は政治を實行するものである。國家とは體であり、政治とは用である。此の解釋に基けば、即ち政治の道理が、簡單明瞭であつて、決して甚だ深奥なものでは無い事が理解される。諸君が團結して公共事業を改革せんとする、それが革命である。故に革命とは即ち政治事業に外ならないのである。中國は近來、何故に革命せねばならないか、それは、従前の政治團體が悪く、國家が貧弱なる地位にあるので、愛國の士は、すべて此の香しからぬ團體を改良して富強の地位に變ぜしめんと欲するからである。此の改良を短時間に或は一朝一夕の内に成功せしめんとするのが、つまり革命である。吾人は革命を起したが、何故に平等自由の思想によつて打破されたのであるか。それは人には普通の社會に於ては自由もあり平等もあるが、政治團體中に於ては、自由平等が存在し得ない。それは政治的勢力を打破し、政治團體を分散せしめてしまふ。故に民國十三年來、革命に成功し得ないのは、自由平等の思想が、政治團體を衝き破つてしまつたからである。政治團體の範圍に就いて述べると、或は國家、或は政黨があり、平等と自由の限界に就いては、或は本國と外國と競争し、或は我黨と他黨と競争するなどは、いづれも應に平等と自由とを有すべきであるが、一國家内に於いて、或は我黨内に於いては、人々みな平等と自由とを有する譯に行か

ぬ。我が中國人の平等自由を説くや全く之れと正反對である。如何なる人、如何なる國內に在るを論ぜず、團體に關係なく人は平等と自由とを有し得るであらうか。各人が只だ自己個人の平等自由を求める、かゝる考は、最初は學生から起つた。最初事實となつて現れた頃は、他に之れを用ふべき所を知らなかつたので、先づ自己の家庭内にこれを用ひ家庭革命を發生し、父兄に反對して家庭より脱離し、更に學校に之れを用ひ、學校騒動の流行となつた。此の事實は、諸君に在つても固より充分見聞され、大に行つた所である。諸君が盟休を爲すには、或は自からは大いに理由有りとか考へ様が其の主張する理由は、盡くが教師の管理が悪いか學生の自由を侵犯するとか云ふに外ならない。學生が自己の平等と自由とを教師に侵犯されざらんとして、自から管理自治を要求する。故に演說會を開催し、盟休を適用し教師を驅逐する。此の盟休を目して、異口同音にきまつて革命だと叫ぶが、實際は革命とは一體何であるかを知らずに、たゞ學校を以て自己の試験場とし、教師を自己の試験臺に供してゐるに過ぎないのである。吾が革命黨の内情も之れと同様であつて、革命本來の意味は、人民のために政治上の平等自由を争ふものであるが、争ふ所は、團體と外界との自由平等であつて個人自身の平等と自由ではない事は一向に知らない。中國現在の革命はみな個人の平等自由を争ひ、團體の平等自由を争ふものではない。故に毎回の



革命はすべて失敗に歸した。中國の革命思潮の最も早く發生した地は、日本の東京である。當時はすべて留學生を以て基礎とした。留學生の最盛時代には、二萬餘人の多きに上つたが、此の學生達はみな初めて中國の各縣から日本の東京に赴いた者で、頭腦も極めて感受性に富み、容易に革命思想を感受した。一度革命思想を感受するや、即ち集會結社して、平等自由を争はんとしたが、併し彼等のさうした平等と自由とを争ふ目的は、いづれも團體として行動することを知らず、單に自己一身のためにするを知るのみであつた。故に當時結成された團體は、風起り雲湧くが如くに起り、或は千人の多きを數へたものも有るが、久しからずして雲散霧消してしまつた。團體の存在の最も久しいものも一二年に過ぎず、短いものに至つては、數ヶ月ならずして跡影もなくなつた。此の多數の團體は何故にかくも容易に消滅し去つたのであらうか。余は非常に奇怪に思つたので詳細にそれ等の團體の内容を調査してみ、始めて之れ等の團體は結合せる當初、何等特別の主張もなく、たゞ單に個人の平等と自由を争ふを知るに過ぎなかつたことを發見した。甚しきに至つては、何等詳細なる規則もなく、萬事亂雜で取りとめがなく、各人が自己の意志によつて行動し、したいと思つた事を勝手に行ふと云つた風で、所謂人自ら戰を爲し、ただ強力なるものが、事を行ひ得るのみで、大多數はみな一事も爲し得なかつた。たゞ會を設け一同が

會に来て、平等自由の空談をしやべり散らして能事了れりとするものであつた。一同がみな個人のために自由と平等を争ひ團體のために自由平等を争ふものでないから、個人の行動有るのみで團體の行動がない故に團體は思想のために打破せられ、久しからずして跡形もなく消え去つたのである。學生が研學時代に在つて此の如き行動をとれば、後來國家のために事を爲すに至つてからの一切の行動は問はずとも明白である。更に多數の行くべき道を知らぬ學生は、毫も政治社會の理論及び中國の國情を知らぬ癖に、社會に出しやばつて、奇を出して異を立て驚かさんとし、歐米の何等根據なき新學説を探つて、革命を主張し、無政府を求めて革命黨と自稱したりして、向に革命の目的が、一個の立派な政府を造らんとするにある事を知らない。彼等の此の主張は政治原理の上に於いて、自ら相矛盾するもので、眞に笑ふべき極みである。無政府主義學説の由来を探るに、之れは露國に發生せるもので、露國學者が無政府を主張せる所以は、即ち従前の露國舊政府があまりにも専制で、人民を苦しめる萬惡の根源であつた爲めで、此の爲に社會に無政府の學説が生じてゐたのである。露國の無政府主義學説の祖は、諸君の知らるる「バクーニ」であり、其の後繼者としての「クロバトキン」は科學的理論を以て無政府主義を極端にまで推し進めた。此の無政府主義學説は、露國に於いて極めて發達し、従前の露國は此の學説を應用



して革命したが長年月を経ても成功し得なかつた。露國が此の革命を起したのは、佛國革命の後を承けついでたもので、一百餘年に及んだが、盡く成功を見なかつた。處が七年前に至つて、再び革命が起り、一度發するや即ち大成功を告げたのである。我が中國の革命は以前の事は暫く措き、たゞ最近のものに就いて云ふならば、今日既に十三年を経過した。而も此の十三年間の革命は依然として成功を見ない。露國が嘗つて百餘年間の革命に成功し得なかつた點を其のまゝ中國に推せば、我が中國の最近十三年の革命も容易に成功はすまいが、併し露國七年前の革命は、徹底的に成功した。此の原因は如何なる點に在るのであらうか。簡單に云へば、露國最近の革命の成功せる理由は、無政府主義の主張を打破し、極端なる平等自由の學說を完全に完全に消滅せしめた事である。露國に此の主張が有つたればこそ、彼等最近の革命の効果は、米國、佛國の百餘年の革命の効果に比してなほ遙に偉大であり、成績は却つて完全であつたのである。彼等がよく斯くの如き立派な成績を挙げ得た所以は、即ち露國に一個の革命聖人が出現したからである。此の聖人とは即ち諸君も知らるゝ「レーニン」である。彼は革命黨を組織し、革命黨には自由あるを必要とするが、革命黨員には自由有るを要せずと主張し、革命黨員は盡く彼の主張に賛成し、各個人の自由を盡く其の黨に捧げ、絶対に革命黨の命令に服従した。かくて革命黨は多數の黨員

の力を結合せしめ、よく全體が一致して自由なる行動をとり得たが故に、其の有する力たるや極めて大であり、露國革命の成功は極めて速かであつた。露國革命の此の方法こそは吾人の好模範である。中國革命は十三年來すべて不成功に終つて居る。諸君黃埔の武學生は、みな各省より數百里、或は數千里を遠しとせずして此の革命學校に來つて學ぶ者であり、革命に對しては均しく絶大なる希望と絶大なる抱負とを有する者である。また廣東大學の學生諸君は、今日數十里を遠しとせずして黃埔に來り、革命的演説をきいて、以つて革命方法を研究し、革命の前途に對して當然非常に成功を希望せらるゝ者である。諸君はいづれも革命の成功を望まらば、先づ個人の自由と個人の平等とを犠牲にせねばならぬ。各人の自由と平等とを盡く革命黨内に捧げつゝし、黨内の規律を一同が遵守し、黨内の命令には服従して、全黨の運動を一致進行せしめねばならぬ。たゞ全黨の自由あつて、個人は自由なる能はず、然る後にこそ吾人の革命は始めて成功を望み得るのである。今回の北京事變發生後、好機會が有つたので、當初余は少數の同志を以て事を發しても成功し得ると思つたが、併し彼等は革命の道理と方法とを知らなかつた爲め、機會は得たが恐らくは空過してしまつたのであらう。假りに若し今回の北京事變發生以前に、一同が早く北方に於いて活動したならば、或は成功し得たであらうが、現在に至つては、其の希望は最早



空しいものである。今後革命を成功せしむるには、更に他の方法を研究するを要する。従前の革命の失敗は、各同志が平等自由を考へ違ひして居たからである。今より後は、革命を成功せしむるには、各同志諸君が従來の誤謬を改めて一大團體を結成し、個人の平等と自由を犠牲にするこゝとによつてのみ、目的は貫徹され得るのである。現在、かゝる團體を造る事を期するには、優良なる黨員の存在が必要である。諸君文學生、武學生は、いづれも知識階級であり、當然此の道理を理解せねばならない。中國では社會的に人を分類して士、農、工、商に四大別して居る。商人は最下級の地位に置かれて居り、其の知識も極めて簡單である。彼等の唯一無二の欲望は、すべからず利を圖ることである。大會社を組織して大いに金を儲け様と考へる。併し株主として投資したから、直に配當を與へよと云ふ事は出來ない。商人は當初會社を設立して株式に投資しても、直に配當を要求して金儲けの目的を達しようとは考へることは決して出來ない事である。如何に愚昧な商人と雖も、先づ資本を投じて株を引受ける。引受けた後、結局どれ程利益を得るかは豫期し決定し得るものではない。たゞ將來よく利益をあげ得る事を希望すれば、現在投資せざるを得ないのである。また將來大いに儲ける事を希望すれば、現在大いに投資せざるを得ない。我が革命黨員は總て知識階級の人々で、みな聰明なること商人より勝つて居る。一個の團體を結

成して革命せんとするには、當然先づ資本を投げだすべきではなからうか。此の道理は詳細に論ずるまでもなく、諸君は當然之を理解されるだらう。商人が商賣する資本は金銭であるが、吾人革命黨の資本は果して何であるか。商人は株式を引受けるには金を出す、吾人が革命黨に参加するには、如何なるものを捧ぐべきであらうか。吾人が革命黨に参加して捧ぐべきものは、即ち自己の平等と自由とである。自己の所有する自由と平等とを盡く黨内に投出して、黨中の全權を有する者をして之れを處理せしめる。かくしてこそ、全黨の革命は、成功の希望を有するのである。全黨の革命の成功後は、自己も亦自由と平等の權利を享け得る。中國に於ける大資産を有する産業は、漢治萍公司、開礦公司、招商局であるが、之れ等の會社は、設立當初には各株主がひとしく絶大なる犠牲を拂ひ、莫大な資本を投じたもので、あたかも、革命黨員が先づ個人の自由と平等を投出さねばならぬと同様である。若し彼等資本家が先きに資本を出さなかつたならば、現在よく配當に與り得ないであらう。彼等は現在多額な配當を得んとしたればこそ、さきに多額の資本を投じて一切を犠牲にしたのである。革命の道理は、諸君が知ると知らざるとに拘はらずたゞよく商人に學ぶ事を要する。然らば成功し得るのである。商人は本來、品物多きを以てよき商人とするものであるが、根本的には、矢張り資本を有して居なければそれが出來ない。資本が



なくては、如何なる商賣も爲す事が出来ない。多くの革命黨員が個人の平等と自由とを犠牲にする事を承諾しても、それは資本金ではない。彼等は一度革命に参加するや、直に自己眼前の平等と自由を争ふ。商人が配當を受けるには必ず時間の問題がある。商人の思想は簡單だが、それでも尙ほ時間の問題を考へて、待たねばならぬ事を知つてゐる。吾人知識階級が商人に如かないとは考へられない。黨員が党内に在つて恣まゝに平等自由たり得ないのは、丁度株主が社内に於いて、勝手に株金を回収し得ないのと同様である。諸君が革命に参加せんとする第一の方法は、即ち商人の方法を學んで大資本を投下することである。余が今日此の處でかく語るのは廣東を離れて北上するに臨み、別れの言葉を贈らうとするのである。そしてそれは外でもない諸君が資本を投出して、自己の平等と自由とを犠牲とし、更に自己の聰明と才能とを、党内に捧げつくして革命し、全黨のために奮闘せられることである。諸君にして能く余の希望に背かなかつたならば革命は日を期して成功するであらう。

## 農民の幸福を謀れ

— 民國十三年八月二十三日、農民運動講習所に於ける訓辭 —

學生諸君。諸君は今回業を畢へられて、各鄉村に歸り農民と聯絡される事となつた。之れは我が國民黨が農民運動として爲す第一の事である。吾人が従來行つた革命事業には農民の進んで参加せざる者は極めて少數であつたが、之れは彼等の知識程度が甚だ低く、國家の大事あるを知らなかつた爲め、國家に對し頗る冷淡であり、國事に無關心であつたからである。諸君が卒業後、各鄉村に至つて農民と聯絡されるには、先づ最初に、一般農民をして、國家に對して如何なる責任を有するか、また農民にして國家を仰望する者には如何なる利益が有るかを知らしめねばならない。我が革命政府は、人民を以て主體とする國家を建設せんと期して居る。而して農民は我が中國人民中最大多數を占むるものである。若し農民にして革命に参加し來らずは、即ち吾人の革命は何等基礎を持たない事となる。國民黨が今回改組して、農民運動を加へたのは、農民によつて基礎を作らんとするに在る。農民を我黨革命の基礎たらしむること、之れこそ諸君の責任である。諸君がよく一般農民と聯絡し、政府と一致せる行動をとつて、成敗利鈍を顧みず、國家の大事業を實行する、此の責任を遂行するならば、それでこそ、吾人の基礎も鞏固となり、吾人の革命も成功するであらう。若し此の基礎が鞏固なるを得なければ、吾人の革命も失敗を免れないのである。



諸君は此處に數ヶ月の間學ばれて、吾人の革命が三民主義に基づかねばならぬ事を理解された。諸君は各鄉村に宣傳し、此の三民主義を一般農民がみな合點する様に傳へる必要がある。農民は中國に於いては、人口の最大多數を占めて居る。故に農民は中國の最大の階級である。此の最大階級にしていづれもよく覺醒し得、三民主義を理解し、三民主義を實行するならんには、其の時こそ吾人の革命は徹底し得るであらう。若し此の最大の階級が覺醒し得ず、三民主義を實行しないならば、吾人の革命は、よしや一時成功を收めても決して徹底したとは云ひ得ないのである。

諸君は鄉村に宣傳する際、如何なる方法によつて、三民主義を理解せしめ、一般農民をして覺醒せしむべきか。一般農民をして容易に覺醒せしむるには、先づ農民自身の利害に、就いて語らねばならない。農民自身の利害を語つてこそ農民は注意してきくであらう。若し、開口一番、國家の大事を講ずるならば、無知識なる農民はどうしてよく感受し得よう。先づ農民自身は如何なる利益を有し、國家は如何なる利益を有するかを語り、農民が責任を持つて國家を充分に整頓したならば、國家は農民に對し、如何なる利益を與へるかを説けば、始めて農民も容易に動かされ、興味を以て國事にたづさはるのである。諸君の知らるゝ如く、中國は社會の階級を分て

士、農、工、商の四種としてゐる。此の四種の人々を比較するに、最も苦勞多きは農民であり、利益を享くこと最も少きは農民であり、而かも國家に對する義務を負擔する。と最も重きは農民である。農民自身の立場より考へ來る時、此の苦勞を受け、此の義務を盡すのは、之れは分に應じた當然の事である。此の當然の事は天經地義、子々孫々も改變すべからざるものであつて、祖先が農を業として此の苦勞を嘗めたからには、子孫もまさに之を承け繼ぐべきで、此の苦勞をなめることは世々代々同様なるを要すると考へる、かゝる思想が従前の舊思想である。吾人は現在政治的勢力を用ゐて農民に提唱する。即ち國家の力を用ゐて、農民に提唱する。吾人は國家の力を用ゐて、此の思想を打破しなければならぬ。一般農民をして従來の舊思想を擲つて、國家に對する新思想を有せしめねばならぬ。國家に對する新思想を有すれば、始めて舊い痛苦から脱却し得るのである。一般農民をしてみな此の新思想あらしめてこそ、自から自己の苦痛を救ひ得るのである。故に農民自身をして先づ覺醒せしめねばならぬ。現在多數の人々は、いづれも中國の農業状態は露國と同一ではないと云ふ。嘗つて露國には大地主と農奴とが存在し、農奴と地主の財産は、甚しく均衡を缺いて居た。併し中國には大地主がなく、單に小地主と一般農民とが存在するのみで、此の小地主と農民の財産とは、露國の地主と農奴との状態に比較すれば、遙に均衡



平均されて居ると云ふが、併しそれは過去の事を論じて居るのであつて、實際に調査して中國の現在と露國の過去の状態とを比較すれば、果して中國の農民がより多く幸福を享けて居るであらうか。それとも露國の農奴であらうか。中國小地主の専制が甚しいか、それとも露國の大地主の専制が激しかつたであらうか。余から見れば、従前の露國の大地主所有の土地はいづれも數百萬方里、甚しきは數千萬方里であつて、かかる大地主は多數の農奴に對して精神を自然細かく配り得ない。氣をくばり得ない結果は、農奴の待遇を自ら頗る寛大となる。吾國の此の小地主は、いづれも一生懸命に利益をはかり、小作料の收納に際しては一升一勺、一文一毫でも計算し、何時の時代でも、何處の土地でもみな刻薄を極めてゐる。農民の受ける待遇は、到底的確には解らぬが、之れはなほ諸君の調査を待たねばならないとして、余は個人の心理上の比較によつて、従前の露國農奴の受けた苦痛は少く、現在中國農民の受けた苦痛が更に激しいと思ふのである。

現在、露國は農政を改良し、一般大地主を倒して全國の耕地を一般農民に分配し、耕す者に土地を與へた。耕す者が土地を有すれば、ただ國家に對して納税を爲すのみで、他に地主に小作料を納める事はない。之れは最も公平な方法である。吾人現在の革命は、露國の此の公平なる方法

を倣ふ事を要する。そして耕す者が其の田を有するに到つてこそ、徹底せる革命である。若し耕す者が田地を有せず、毎年小作料を納めなければならぬならば、なほ其れは不徹底なる革命である。中國の國民は、本來士、農、工、商と四階級に分れて居るが、此の四つのうち、農民以外はみな小地主である。若し吾人が何等の準備なく、露國の急進的方法に倣ひ、其の所有田地を直に公有として農民に分配するならば、彼の小地主は必ずや起つて反抗し、吾人の革命は一時は成功しても、將來之れ等の小地主が再び革命を起すことを免れ得ない。吾人は、此の際、三民主義を實行し、若し耕す者に其田有らしむるを要するならば、地主の田地をすべて農民に分配する。然し分配を受けた農民は固より利益を受けるが、土地を失つた地主は損失を蒙らねばならない。而も損失を蒙る地主は、現在すべて稍々事態を理解する人々であり、國家の大事に對してはみな悟る所のある人々である。故に吾人は、一般農民全體は若し地主との間に衝突が起つたならば、地主に抵抗し得ない事を知り、現在の衝突を免れしめ、將來よく地主に抵抗し得る様にしなればならぬ。諸君は此の時に當つて、農民に宣傳し、農民の苦痛を明白に語つて農民をして理解せしむるを要する。農民はその苦痛の原因を知つたなら、必ずや覺醒し來つて、自然政府に向つて救ひを求め、彼等の苦痛を解除せよと要求するであらう。最近我々が香山に於いて農民運動を起



し、農民の苦痛を除去せんとした處、多數の農民は政府に向つて、政府は既に吾人の苦痛を除去せねばならぬと云ひ乍ら、何故に却つて吾人から地租を徴收するのか、これ全く吾人の苦痛を加重するものではないか、と述べた。かくの如め、我が農民の苦痛は、一體如何にしたならば救はれ得るのであらうか。若しかかる質問に接したならば、一寸の事だが容易に答へられないことである。

現在の此の革命政府は多數の軍隊を有して居る。吾人が眼前、此の多額の軍費を支辨せんとすれば、勢ひ課税は多からざるを得ぬ。此の税源はいずれも貧民から取立てられ、資産家の負擔は頗る軽い。此の事は明瞭に語らねば農民はなほ知らないで居るのである。併し之を明白にした以上、農民は盡く非常に苦痛に感じ、彼等は必ずや此の苦痛を免れん事を要求するであらう。故に諸君は宣傳に際して、恐らく相矛盾する許多の事情に直面するであらう。では此の矛盾に對して、如何なる方法を以て解決しようとするか。それは農民全體をして覺悟する所あらしむる事である。若し農民全體が覺悟をきめれば、之れを解決する方法は有るのである。例へば廣州一府の農民全體が覺悟し得れば、團結して一つの團體を結成し得る。廣州の農民盡くが團結し得れば、廣州の農民の苦痛は除去し得るであらう。また之れを廣東全省の農民の狀態に擴大しても同様で

ある。故に宣傳に當つて、以上述べた所の矛盾がさうした衝突を惹起した場合の、唯一無二の解決方法は、即ち先づ農民に團體を結ぶ事を勧めるに在る。農民は多數で、地主は少數故、實際の權力は却つて農民の手中にある。若し一省の農民より推し及ぼして、全國の農民が、みな聯絡團結して立派な團體を形成し、農民の苦痛を除去せんと欲するならば、よい對策がある。政府はそうなれば農民を基礎とし、地主に對して農民問題の解決を求め、地價に照して重税を課する。若し地主が税を納めねば、其の田地を沒收して公有とし、耕す者に其の田を與へ、一私人に小作料を支拂ふには及ばないこととし、政府に直接納税せしめる。斯様な方法を直ちに實行すれば必ず大反動を招來するから、諸君が宣傳するには、必ずともに頗る戒慎を加へねばならぬ。ただ充分に農民の苦痛を説き、彼等に團結の方法を教へ、先づ一郷一縣より團結して、更に一府、一省に及ぼし、而して全國に及ぼすべきである。團結の時に當つては、矢張り農民自身が盡力するを要し、如何に盡力するかと云ふ方法に就いてだけは、諸君の指導を必要とする。諸君は、更に農民全體を團結せしめ、政府と協力してゆつくり腰を据えて、農民も利益を得、地主も損失を蒙らぬ地主對農民の問題對策を協議解決せねばならない。此の方法は平和的解決と云ふべきもので、吾人がかかる平和的解決を能くせんが爲めには、根本的には矢張り農民全體と政府とが共同しなけ



ればならない。

吾人が、農民の苦痛を解決する最後の歸結は、耕す者に其の田を有せしむる事である。此の意味は、農民をして自己の勤勞の結果を收めしめ、此の勤勞の結果を他人に奪ひ去られざらしめ様とするものである。現在農民の勞働による結果は、農民自身は單に四分を與へられるに止り、地主は其の六分を得てゐる。また、政府の課する税は、いづれも農民が出して、地主から出してゐるものではない。此の状態は不公平極まつて居る。吾人は從來此の不公平の宣傳に關する仕事を、行つた事がなく、今回の宣傳が始めてである。諸君は宣傳を行ふ人々であるから、親切丁寧を心掛け、服務は勤勉である事を要する。而して、眞に農民のために幸福を謀るには、最も短い時間を以つて、最上の團結方法を用ひ、先づ廣東全省の農民を團結せしめ、政府と一致合體せしむるを要する。それで始めて對策も生ずるのである。此の際、農民は團結する迄は、暫時忍耐しななければならぬ。さすれば將來は幸福を享け得られるのである。農民に將來幸福を享樂せしめんとする爲に、余は諸君が速に出でて宣傳し、彼等を團結せしめられん事を要望する。農民が盡く團結する時、其の時こそ吾人の革命が成功を告げる時である。

### 言語と文字とによる奮闘

——民國十三年七月、國民黨宣傳講習所開學式に於て——

同志諸君、本黨改組後、我々は陸軍士官學校の開設に着手したが、今夕及此地に一つの宣傳講習所を開設することとなつた。此の二つは皆本黨の主義の爲にする奮闘を目的とする事業であつて、軍官學校は學生に兵器を用ひて奮闘することを教へ、此の講習所では言語と文字とを用ひて奮闘することを教へるのである。

此二種の奮闘事業の中、結局どちらが重要であるかと言へば、兩方とも非常に重要である。民國成立以來、我々黨人の大多數は兵器による奮闘をなしたが、宣傳の方法によつて奮闘した者は極く少數であつた。従つて以前の同志は總て個々別々に戦ひ、各人が單獨に方法を案出して隨時隨地に自由行動をとり、個別に奮闘し、聯絡あり系統あり且つは紀律ある奮闘に至つては、從前革命黨員の未だ爲さざる所であつた。今夕此の宣傳講習所を開設したことは、之れが第一回の言語文字による奮闘開始である。即ち爾今銃砲彈藥と言語文字とによつて奮闘せんとするのである。之れ迄は多くの場合兵器を以て奮闘し、其の力によつて已に清朝を覆し得た。然し爾來十三



年、革命は未だ徹底的成功の域に迄達してゐない。然らば何が殘されて居り、そして何故に夫れが殘されてゐるのであるか。簡單に言へば宣傳工作の缺乏に起因するのである。以前は兵器の力の方が宣傳の力よりも重要視され、宣傳工作に努力する者は少かつた。之が爲に武力は成功したが革命事業は何等の結果をも招來するに至らない。現在吾人の知らなければならぬことは、革命の初期には銃砲彈藥による奮闘が非常に必要であるが、革命の後期に於ては宣傳による奮闘が更に一層の重要性を有する様になることである。若し此の時に宣傳による奮闘をなさなかつたならば、我々が武力によつて獲得したものを保持することは、決して出來ないであらう。之れが十三年來の革命失敗の重要原因である。故に余は此度の革命に於て従前の缺點と過失とを補足したいと思ひ、之が爲に宣傳講習所を設けたのである。將來同志各位は此處で學び得た智識と心得とを以て、去つて民衆に宣傳されるであらうと思ふが、宣傳事業の効力は軍人の事業と同一であつて、共に實に大且つ重要な効力を有するものである。民衆に宣傳するのは、敵に向つて猛烈に進撃するのと同様である。古人の言に「攻心を上となし、攻城を下となす」とあるが、心を攻むるには宣傳の方法を用ひなければならぬ。之迄は専ら攻城に意を注いで、攻心を忽略してゐた。だから我々は今後攻心に注意して、本黨の主義を民衆に宣傳しなければならぬ。諸君同志

は講習所に来つて學習するのであるが、講習所では自然本黨の三民主義を諸君に教授し、同志をして之を知らしめた後、此理を以て去つて宣傳に従事せしめるであらう。

然らば我々の宣傳の目的は奈邊にあるか。諸君は將來出でて宣傳の事に當り、民衆に三民主義の意義を知らしむる譯であるが、斯る宣傳に依つて果して如何なる結果を得られるか。日常普通の宣傳は人に知らしめ、人に曉らしむれば夫れで足りるが、斯様なのは我々の目的でも、求めてゐる結果でもない。然らば我々は何を求めてゐるのか。諸君同志が此の講習所に来て學習するに付ては、勿論先づ知ることを求めなければならぬが、知るを求むることは事實に於て我々の目的ではなくて、一種の方辨に過ぎないのである。即ち我々が主義を宣傳するに當つては、單に人をして知らしむる必要があるばかりでなく、更に民衆を感化せしめねばならぬし、彼等をして悦服せしめねばならぬのである。我々が若し能く民衆を感化し、悦服せしめることが出來ればそれでこそ始めて我々の宣傳の目的と所期の結果とを達成し得たことになるのである。之れに引換へ只慢然と知ることのみあつて感化されないならば、毫も効果は無いであらうし、従つて我々の目的も達し得られない譯である。民衆を感化することこそ我々の宣傳の究極の目的なのである。従つて諸君は種々の方法を學び得た後は、人を感化することを最後の目的としなければならぬ。



ない。之れこそ最大の目的である。然し人を感化するには資料が必要である。然らば我々の要する資料は何であるか。我々は多くの事を學び、又能く辯舌を以て宣傳の工夫をすれば、それで能く人を感化し得るのであらうか。學問と辯論とは本來宣傳の方法に過ぎない。然らば最も重要なのは何か。此點を我々は今晚明瞭にしなければならぬ。此點を知らなければ効果を收むることは非常に困難である。然らば結極夫れは如何なるものであるか。誠である。古人も「至誠感神」と言つて居る通り、至誠であれば、例へば學問は少く、辯に訥であつても、能く人を感動せしむることが出来る。故に至誠は最大なる力を有するものである。宣傳するに當つて、若し我々に至誠の心がなかつたならば、決して民衆を感化し得ないが、至誠の心があれば、如何なる人をも感動せしむることが出来るものである。だから諸君は講習所に於て宣傳方法を學ぶに當つても、第一に至誠であることを條件としなければならぬ。至誠の心を以て革命の爲に奮闘し、主義を宣傳し、且つ宣傳を以て終身の最大事業とし、世上一切の權利と榮達とを犠牲にして、専心黨の爲に奮闘しなければならぬ。若し各同志が斯の如く黨の爲に奮闘することが出来れば、我々の事業は大成功を告ぐるに至るであらう。我々中國の革命事業は主唱者が頗る少數であり、經過した時日も二三十年に過ぎない。而も革命の風潮は全國に瀰漫し、能く一種の極大なる力を造成するに

至つた。之は何故であるかと言ふに、先烈士達に至誠の心があつたからである。即ち彼等は一身一家と生命とを犠牲にして救國の事に當つた。彼等に斯の如き犠牲的精神が有つたからこそ、全國の人民を感動せしむることが出来、又能く多數人の同情を得、革命に賛成せしむることが出来たのである。現在革命に賛成する人は、二十年前に比較すると非常に進歩して來た。然し全國四億の人口に比較すれば、革命黨員の数はまだまだ少數である。だから宣傳工作は今日に於て一層其の重要性を加ふるものである。我々は急ぎ革命主義を宣傳し、總ての民衆をして之を知らしめ、又總ての人民をして之に通曉せしめ、全國人民をして、悉く革命に賛成し、來つて我々と共同動作を採らしめなければならぬ。斯様にすれば我々の革命は容易に成功することが出来るであらう。

諸君も承知の通り、曾つて銃砲彈藥を以て清朝を打倒した。而して今後建設事業を爲さんとするに當つては、各人が皆革命の道理を知悉して、來つて我々と合併してこそ、始めて成功し得るのである。之に依つても、建國の後半の工夫は宣傳である事を知り得る。前半の工夫は既に先烈と現在革命思想を指導しつつある各同志とによつて爲された。然し後半は諸君が之を擔當しなければならぬ。若し此の後半の工作を擔任する者が無ければ、革命事業は完全なる成功をなし得



ないものなることを知らなければならぬ。本黨は改組以來革命の徹底的成功には宣傳が大切であることを知つた。故に本夕總理は來つて諸君に講話し、諸君同志に此種責任を擔ふて起たれんことを希望するのである。而して此の責任を擔はんとすれば、須く至誠を以つて之が基本としなければならぬ。斯てこそ宣傳の材料と能力とを有するに到るのである。若し此の至誠がなければ、如何に高遠なる學問と雄辯なる口才とを有すればとて、永久に成功の望みはないであらう。諸君同志が今夕來つて本黨の主義を研究し、宣傳の準備をされたについて、本總理は諸君が至誠を最も重要視されんことを希望する。誠心あれば容易に人を感じしむることが出來、人を感化し得て始めて我々の主義を民衆に宣傳することが出來、彼等をして悦服せしむることが出來る。民衆が我々の感化を受くれば、始めて彼等は我々と合作することが出來、民衆と我々と合作する様になれば革命は自然成功し得るのである。故に本總理が今夕諸君に講話することによつて諸君に貢獻した所のは、唯一無二のものであつて、諸君同志が誠心誠意來つて宣傳による革命工作に努力せられんことを切望するものである。

## 農民大聯合

—民國十三年八月、農民と黨員との懇親會にて—

本日は農民と黨員との懇親會であるが、諸君は何故此の會を開かねばならなかつたか、開會後如何なることを爲さねばならぬかを知つて居られるか。此事を知るには先づ今日の中國が如何なる状態であるかを知らなければならぬ。今年は民國十三年と呼ばれてゐるが、何が故に民國十三年なる年號は存在するのであるか。之は十三年前革命黨の同志が始めて革命軍を起し、滿清を傾覆して漢人の國家を恢復し、民國を創成したからである。民國建國以前に於ける中國の皇帝は滿洲人であつた。滿洲人は外國から來たものであり、一種の異族であつて漢人ではない。彼等は二百六十餘年前兵力を以て中國を侵略占領し、漢人を征服し明國を滅して中國の山河を統一し斯くて國號を改めて清朝となつたのである。従つて彼等が中國を統治し漢人を壓迫せることは二百六十餘年に及んだ。而も今より十三年前に至つて漢人は始めて革命を起し、滿人を追つて漢室の山河を恢復したのである。其後は今日に至る迄中國の事は悉く漢人自らが管理してゐる。諸君が若し清朝と民國との區別を知らないならば、従前の廣東と現在の廣東とを比較して考へれば、



明かに知り得るであらう。十三年前の廣東は如何なる状態であつたか。諸君も承知の通り廣州は兩廣最大の都市であるが、其の廣州城内の最高官として以前は兩廣總督があり、其の権力は廣東廣西の兩省を管理してゐた。總督の下には將軍があり、將軍の下に旗防が有つた。旗防は漢人監視の意を兼ね、清朝に派遣されて廣州に駐防してゐたものである。そして漢人の官吏は仕事をするには、總て將軍たる滿人の命令に従はねばならなかつた。従つて滿洲人は主人、漢人は奴隸と言つた様な關係にあつた。斯様な状態は諸君等は子供の時の事であるから知るまいが、當時成人してゐた者なら明瞭に知つてゐる筈である。其上當時の漢人は敢て旗人達の居る街を歩くことすら出来なかつた。と言ふのは若し不謹慎なことでもあつて、旗人に撲殺された場合、其事を官廳に訴へても旗人は處罰されなかつたからである。何故かと言ふに、滿洲人が主人であり漢人の官吏は皆彼等の監督を受けてゐた爲に斯様な出来事は皆擱いて顧られなかつたのである。又漢人の子孫が産れた場合は、其の教養の有無は何等官廳では問題にしなかつたが、滿人の子供は一度産れ出れば、久しく自給する丈の食糧が與へられた。斯の如く漢滿不公平の事が頗る多かつた。後來一般革命の先烈士達は、我々が奴隸の役目をなしつつあることを知り、又此等多くの不平等が頗る無道理であるのを見て、民族主義を提唱し、滿清政府を覆滅せしめて民國を創成し、以て

民權主義を實行せんとした。而して此種民權主義は人民を主人となし、官吏を奴隸となすものである。であるから今から十三年前に於ける革命てふ一奇怪事は、中國に於ては幾千年來破天荒の事件だつたのである。革命前に於ては人民は全部皇帝の奴隸であつて、如何なる事でも皇帝の命には悉く服従しなければならなかつた。然るに民國となつてからは人民を主とする世界になり、人民が變じて主人公となり、皇帝は變じて奴隸となるに至つた。民國には本來皇帝は存在しない最大の官吏は大總統と國務總理であり、以下各部總長、各省省長、各縣縣長等の順になつてゐる而も従前此等多數の官吏は人民の上に在つたが、今日では人民の下に在る。諸君は現在の民國には皇帝が無いが、究極に於て皇帝となる者は誰であるかを知つてゐるか。曾つては一個人が皇帝となつたが、現在では四億人が主であり、四億人が皇帝なのである。換言すれば帝制時代には一人の皇帝しか存在しなかつたが、民國となつた今日に於ては、四億人が總て皇帝なのである。之れこそ民を以て主と爲すものであり、之れこそ民權の實行なのである。此等の事實は中國に於ては幾千年來未だ嘗つて見なかつた所のものであるが、此種の思想だけは早くから存在してゐた。孔子の所謂「天下爲公」の如き、又「天下は天下の天下也」の言の如き之れであつて、我々革命黨が三民主義を實行せんとするの亦此の考へからするのである。



然らば三民主義とは何か。民族主義、民権主義、民生主義が之れである。而して民族主義は外國人に對して用ふるものであり、外國人が中國を治め、中國の皇帝となることを防ぎ、我々中國人が中國を治め、自己を以て自己を管理せんとするものである。革命黨は曾つて清朝を覆滅せしむることによつて民族主義を實行した。然し清朝覆滅後も依然外國人に欺瞞されて來た。即ち我々は民族主義を實行し、清朝を滅すことによつて滿清の奴隸たることより離脱し得たが、依然外國人の奴隸であらねばならなかつた。之が爲に民族主義は未だに完全なる成功を見るに至らないのである。清朝を滅した事は成功の半を贏ち得た事ではない。他の一半は列強の壓迫によつて未だ達せられてゐないのである。然らば列強は何が故に現在に到るまで中國を壓迫することを止めないのであらうか。此の原因は曾つて滿清が彼等と締結した條約に在るのである。此等の條約を外國と結んだのは、我々の賣身契約を其等の諸外國と結んだと同様であり、我々の權利を悉く外國人に與へたも同然である。そして此等の條約は主として通商條約であつたから、滿清政府と外國との通商條約は我々自分の賣渡契約だつたのである。之が爲に我々は今日に到る迄、未だに外國の壓迫を受けなければならぬのである。

我々の民族主義實行は滿清を推倒することによつて、其の一半の成功を贏ち得たが、今後我々

が賣身契約を廢除し、外國人の奴隸となる立場から開放されて始めて民族主義は完全に成功するに至るのである。

民権主義に關する限り、清朝を覆し、民國を創成することに依つて人民を主となすことは出来たが、久しからずして多くの督軍と省長とが發生した。此等多くの督軍と省長とは皆清朝殘留の舊官僚であつて、其の思想は只皇帝有るを知つてゐるのみである。だから彼等が事を爲すに當つての專制的態度は、矢張り皇帝の職權を實行せんとするのと異なる所が無い。そして之が爲に今日已に民國十三年になつてゐ乍ら、民権は依然實行し得ないのである。我々は民権主義による目的を完全に達成しなければならぬ。余は之が爲に諸君の同心協力を望んでやまないものである。

民族主義は用ひて以て國外の列強に對抗して奮闘せんが爲のものであり、民権主義は國內の強權に拮抗して奮闘せんが爲のものである。然らば第三の民生主義は何者に對抗せんが爲のものであるかと言ふに、之は各人自らが發奮し、自らの爲に生活を謀り、自らが自己の世界を造成せんが爲のものである。革命黨は民族民権兩主義の爲には十三年の間奮闘したが、民生主義は十三年來之を過問しなかつた。現在此等の主義による結果を見るに、民族主義は半は成功し、民権主義は今日に至るも猶失敗の域を脱しない。民族民権の兩主義が未だに成功しない爲に、民生主義に



至つては一層去つて工作するだけの餘裕が無いのである。

今日茲に農民と黨員との懇親會を開催したが、之れは革命黨と農民との第一回の會合である。我々と諸君とが會合して、さて何をなさねばならないのであらうか。我々は今日から起つて民生主義を實行しようとするのである。民生主義を實行し得て始めて人民は幸福を享けることが出来又眞に民を以て國の主たらしむることが出来るのであつて、民生主義を實行し得なければ、民權主義は只一句の空話に過ぎないものである。而して民生主義を實行し得ると得ないとの責任は、懸つて諸君農民の身上に在るのである。故に今日此の會を開き、革命黨員と農民とが始めて會合談話したに付ては、諸君に民生主義の實行を希望して已まない次第である。然らば民生主義とは何か。民生主義とは各人をして皆平等の立場に立つて生活を謀らしめんとするものである。斯くてこそ始めて中國四億の民衆は幸福を享受し得るのである。故に今日の大會は諸君に協力して民生主義を實行されんことを求め、又協力して幸福を謀らんことを要求するのである。今日の中國は、人民を主とするものであるから、我々は人民の爲、大多數人の爲に幸福を謀らなければならぬのである。

中國の人口中如何なる種類の人民が大多數を占めてゐるかと言ふに、先に主席の話にも有つた

が、農民は總人口中の八九十一パーセント」と言ふ最大多數を占め、百人中八九十人迄は農民なのである。中國は幾千年來大多數農民によつて國を建てて來た。然るに現在の農民は如何なる状態にあるかと言ふに、一般農民の境遇は最も困難であり、且最も苦しいものであつて、彼等には何等幸福の言ふ可きものが無いのである。若し今にして覺悟する所無く、政府と聯絡して民生主義の實行に當らなかつたならば、永遠に幸福たり得ることは出来ないであらう。

然らば現在農民が最も困難であり最も苦しい立場に在るのは何故であるか。それは滿清時代、政府が農民の團結を許さず、若し農民が團體を結成すれば、一家一族を滅される危険が有つた爲に、彼等は何等相互に聯絡せず、一片の散沙に等しい状態にあつたからである。之が惹いては今日に至つても猶聯絡することを知らず、團體をも有しない原因でもあるのだ。然し現在の政府は農民を幫助し、彼等の團結を提唱してゐる。だから農民が此の政府の幫助を利用し、去つて團結を實行したならば、自己の地位を恢復し、自己の爲に幸福を謀ることも可能であらう。諸君等農民の受けつつある困難と苦痛とは如何様なものであらうか。諸君は諸君の年中受けてゐる辛苦を考へて見るがいい。尠からざる水害旱害等の天災による苦痛を受け、又尠からざる風雨寒熱の苦しみを受け、多くの血汗を費して勞動し、斯くて始めて若干の穀米を得るのであるが、或者は收



種以前既に舊穀を喰ひ盡し、借金して漸く其の日を過し、又或者は收穫は終つたが至急納税せねばならない爲に、其の米を極めて安價に賣らなければならぬ。而も商人は此の極安價で買つた米を、一轉手の勞を以て、更に非常に高價に發賣し、其の一賣買の間に於て巨額の金を儲けるのである。而も彼等商人は一切農民の事には無關心である。更に諸君の耕種する田は大部分は借りたもので、其借賃も決して安くはない。であるから諸君が毎年辛苦して得た所の金銭は、總て商人と地主との爲に空しく搾取されて了ふ。而も諸君が使用する衣服器具の類は、皆非常に高價であり、多額の金を支拂はなければ買取ることが出来ない。諸君の斯の如き生活は、所要の衣服器具は多額の金銭を支拂つて之を買入れ、賣出す穀物は極めて廉價に賣り頗る少額の金を得てゐるのであつて、爲に諸君は經濟的壓迫を受けねばならず、經濟的壓迫を受くるが故に諸君等農民は非常に困窮し、其の地位も從つて非常に低くなつてゐるのである。全國の人民は本來總て農民のお蔭で飯を食つてゐるのであつて、農民が一日米穀を賣らなければ、全國の人民は一日だけ食ふべき飯が無い譯である。であるから諸君等の地位は事實に於て頗る重要なものである。只諸君に團體が無く、從つて自己固有の利益を保守する力が無い爲に、無形の中に自己の利益を他人に奪ひ去られ、自分等は損をし、又種々な苦痛をも受けてゐるのである。我々革命黨は民國の建

立者であり、三民主義を實行せんとするに當つても、先づ第一に農民に心を致し、斯の如き農民の苦痛を救ひ、農民の地位を向上せしめ、且つ又從來官吏と商人とに依つて受けてきた農民の苦痛をも除去せんとしてゐるのである。我々が此の目的を達成するには、根本問題として農民自らに先づ覺悟が必要であり、自らが自己の地位の重要なことを知らなければならぬ。諸君等に此の思想が有つてこそ、始めて諸君等相互の聯絡が可能となるのである。

聯絡の方法としては、先づ一村と他村と聯絡することが必要であり、惹いては郷と郷との聯絡、縣と縣との聯絡を實現し、斯くすれば一省全農民の聯絡も實現し得るのである。廣東全省の人口は三千萬有るが、其の八割が農民だとして、其數は二千四百萬人になるから、農民以外の者は六百萬人に過ぎないことになる。現在の中國は民國であるが、之を更に眞の民國となすには多數人が、發言し得る様にならなければならぬ。多數農民が若し能く大團體を結成し得るに至つたならば、農民も必ず發言し得る大なる力を有するに至るであらう。只十三年來多數の農民は自ら此種權利を放棄し、自己の地位恢復を知らず、自己が主人公であることを知らずして、矢張り清朝時代と同様であり、自分達は奴隸であると考へてきた。然し今日の此の會を機會に諸君は覺醒しなければならぬ。此十三年來諸君は奴隸ではなく、主人公なのである。そして主人公たる



の實を擧げ様と思へば互に聯絡しなければならぬ。諸君が相互に聯絡し大團體を組織するに至れば、諸君は發言し得るに至るであらう。諸君も知つてゐるだらうが、現在學生には學生會があり、商人には商會があり、労働者には労働者の會がある。而も諸君達農民のみは團體を有してゐない。だから諸君等は數は非常に多いが、却つて少人數の壓制を受けなければならぬのである。少數人が多數人を壓制し得るのは、彼等の團結が頗る鞏固であり、武器が頗る精良だからである。例へば廣州市の商團の如きは、其數は多くないが、立派な銃を有してゐる。だから能く人を壓制し得るのである。農民は非常に多數であり、其上自分達が主人であるから、他人から壓制をさるべき譯のものではない。然るに多數農民は此の道理を知らず、甘んじて他人の奴隸になつてゐるのである。正に之れ自ら煩惱を尋ねるものでなくて何であらう。本黨が今日此の農民懇親會を開いた目的は、諸君等農民を警醒せんが爲である。諸君は歸郷後、一般農民大衆を覺醒せしめ、彼等をして相互に聯絡せしめなければならぬ。斯様にして團體を結成するならば、他人の奴隸にならなくて済むのである。農民が果して能く此事を爲し得るならば、政府は必ずや其の進行を援助するであらう。で、先づ村と村との聯絡から始め、漸次郷と都、縣と縣と言つた具合に推し及して行つたならば、一歲ならずして廣東全省の農民悉くが相互聯絡することが出來、二千

四百萬人より成る一個の大團體を形成し得るであらう。此の様な一大團體が出來れば、之れ迄他人に奪はれてゐた利益も奪回することが可能であり、よしんば奪回し得ないとしても、他人の壓迫に對しては法を設けて自衛するか、又は抵制することが出來るであらう。廣州商人の如きは其の好例である。彼等には商會があり、更に商團軍を組織し、非常に精銳な銃を持つて居り、立派に自衛することが出來る。又労働者には工會（労働組合）があり、壓迫された場合には全體罷工に依つて之に對抗する。先般の沙面の労働者の罷工は如何なる原因からであつたか。沙面は元來中國の土地であつたのを、清朝が外人に與へたもので、其處で外人は種々なる苛酷な規定を設けて中國の労働者を壓迫するに至つた。だから労働者達は全體罷工を敢行して之に對抗したのである。諸君も知つての通り、中國人は從來外國人を恐れ、何か外國との間に交渉問題が発生した様な場合でも、總て兎や角文句を言ふ様なことは無かつた。然るに今度沙面の労働者達は外人に對抗して起つた。彼等に鞏固な團體が有つたから、外人の苛酷な對遇に對して全體罷工の手段を以て對抗し、列強に其の取消を要求することが出來たのである。列強は労働者の團結の鞏固なものを見て、それ以上敢て壓迫することをせず、彼等と妥協を求むるに至つた。之に依つて見ても労働者に團體があつてこそ始めて自己を衛り得るものであることが解る。諸君等地方農民は、從來團



結し農團軍を練つて自衛することを知らなかつたから、他人に欺瞞され侮辱されてゐたのである。今後他人に欺かれ辱しめられまいと思へば、今日此時より起つて團體を結成し、各戸の壯丁を選んで農民軍を組織訓練しなければならぬ。諸君が斯様な方法によつて進むならば、政府は諸君に援助を與へ、銃の如きも最も低廉な價格で諸君に賣渡すであらう。諸君に銃があり、立派の農團軍を組織して訓練したならば、夫れこそ中國第一等の主人公となり、非常に有力な發言力を有するに至るであらう。國民として國家の内にて發言し様と思へば、先づ一種の責任を負はねばならない。更に其の國民として責任を盡した後は政府との聯絡をとらなければならぬ。政府と聯絡をとつて居れば商人や労働者から欺瞞される様なことは無い。之れ迄は政府と聯絡してゐなかつたから、商人や労働者に欺瞞され侮辱されてゐたのである。今日、本黨が此會を開いたのは諸君を覺醒せしめ、政府が諸君を援助し、諸君と聯絡して、諸君の爲に一つの第一等の地位を獲得し、最有力なる發言を爲し得る主人公たる地位を得んが爲である。諸君が各村、各郷、各縣を悉く聯絡し得たならば、政府は更に諸君が毎年收穫する米穀を他人に奪はれない様な、そして商人や労働者に欺侮されない様な、種々なる大利益をもたらす様な新方法を諸君等の爲に講求するであらう。若し此の種の大目的を達したならば、農民と政府とが協同すべきである。農民

と政府とが協同すれば、民生主義を實行して大衆の爲に幸福を謀ることも可能となるであらう。民國に於ては總ての人が安樂を得なければならぬ。而も中國の農民は從來總ての者が苦痛を受けてゐた。今日此の農民との懇親會を開いたのは、中國政府と農民との第一回の會合であつて政府が農民の爲に幸福を謀る第一日であり、農民の爲に利益を争ふ第一日でもある。本日來會した諸君は、方法を知つたならば、歸郷後第一步の工作として農民の相互の聯絡と、眞の團體の結成とに努めなければならぬ。諸君が此の第一段の工作によつて立派な團體を有するに至つたならば、其時こそ第二段の工作に着手しなければならぬ。然らば第二段の工作とは何か。農民の爲に利益を争ふことである。只第一段の工作を終つた後でなければ、決して濫りに第二段の工作に着手してはならない。即ち先づ穩かに第一段の工作を爲し、之を終つて後、代表を擧げて來つて政府に報告せしめ、重ねて大會を開き、其時政府は諸君に第二段の工作に付いて教へるであらう。只注意すべきは、若し諸君が不謹慎にも、第一段の工作を終らない以前に、商人が諸君等の金を詐取するからと言ふので、商人を抵制する様なことをしたならば、彼等商人は決して諸君の聯合を許さないであらう。或は又諸君等が地主は諸君から多額の借地料をとるからと言ふので彼等を抑制し、又其の金錢を劫奪したならば、彼等も同様、決して諸君等の聯合を許さないであら



う。だから諸君は必ず先づ相互に聯絡し團結して、然る後利益を争はなければならない。若しも眞に二千四百萬人による一個の大團體が出来れば、諸君等が争ふ迄もなく、如何なる人間も必ず諸君等の爲に大利益を計る様になるであらう。之れに反し聯絡と團結とを完了せずして、利益を争ふならば、夫れは俗語に所謂「未だ行を學ばずして先づ走を學ぶ」の類であつて、必ずや弊害を伴ひ、爾後地主と商人とは諸君等を壓迫するに至るであらう。故に今日此の懇親會は諸君の一身一家の死生に關係し、諸君の禍福に關係するものであつて、諸君が之れに成功すれば非常に大なる幸福を享くるであらうし、成功しなければ非常に大なる禍を受けるであらう。だから諸君達農民は大いに謹慎しなければならぬのである。今日の此の農民と黨員との懇親會は中國に於ては、破天荒の事である。我々は之れについて一個の極めて良好なる結果を得なければならぬ。其れが爲には諸君の奮闘が必要であり、諸君が奮闘しさへしたならば、必ずや大功を成し得るに至るであらう。

### 商民は政府と協力すべし

— 民國十三年八月十四日、廣東商團代表に對する演説 —

諸君。諸君が今日請願に見えられた意思是、只今の代表諸君のお話で、既に頗る明瞭になつた。諸君は、此の銃器を取り返さうと云ふので、非常に氣を焦つて居られるが、併し、此の事件は決して諸君が心配せらるるには及ばない。政府は必ず諸君のものは、お返しする。只、余と代表諸君とが協議して、諸君と政府とは一個の對策をたてる必要がある。如何なる時期に還付するかまた如何なる手續を踏んで始めて還付し得るか、之れはみな諸君と協議すべきもので、今後、諸君の代表と、政府の代表とが、一回乃至二回協議決定の上、此の問題が解決されたならば、其の時には此の銃器は諸君に還付されるであらう。現在、諸君は、如何なる原因から政府が諸君の銃器を差押へねばならなかつたかに就いて理解されたい。諸君は目下非常に氣を焦つて居られる。艱難辛苦を嘗め、多額の金錢を費してやつと得た銃器が、政府に押へられて手に入らないと聞いて、大いに昂奮し、明日から同盟休業をして、此の銃器回収を交渉しよう云つてゐる。併し之れは諸君等の方が無理と云ふものであつて、正當なる方法ではない。同盟休業、此の事は、諸君等にとつて甚だ不利益な事で、止むを得ざる後、始めて爲すべき行爲である。今日諸君が請願に見えられ、予自身が諸君と會見し諸君と對策を協議して居るのである。諸君何ぞ焦慮する必要がある。又何ぞ同盟休業を行ふを要しよう。此の事件は、本來諸君の團長が來て話すべきもので



あり、また其れで明白となるのであるが、併し諸君の團長は顔を見せないのである。故に諸君は、何故に政府は諸君の銃器を差押へるのか、といふ道理を理解するを要する。諸君は予の話を聽かれて、此の事件の内容を理解されたならば、歸つて一般に之れを告げ知らしめ、一同虚心平氣になつて互に此の問題を研究するを要し、決して感情によつて事を行ひ、内部から煽動したりして一般の治安を擾亂すべきではない。

政府が、此の銃器に對して有する疑點は、第一に、諸君の團長が數日前軍政部に出頭して護照（貨物通行許可證）を受取つたが、其の記載の銃器は最も早くても四十日以後でなければ廣東に到着しない。故に此の護照は四十日以後に始めて其の效力を發揮すると聲明したのであるが、現に其の銃器は四十日ならずして忽然到着したのである。護照發行の當時、諸君の團長は更に銃器搭載の汽船は漸く外國を出帆した所であると聲明したのに、現に僅々四日にして到着してゐる。銃器の到着せる際にもまた、何か怖るる所あるが如く、祕かに李福林に交渉し、彼に二百挺を報酬として提供し、彼をして諸君の銃器を運搬せしめんとしたが、李福林は敢えて私かに授受する事を肯んぜず諸君に返答しなかつた。すると再び、江防司令部に交渉し、雲南軍に依頼して、雲南軍をして軍艦寶璧によつて、代つて銃器を荷上げせしめんとした。政府は事前に何等其れに就い

て知らなかつたので、寶璧の行動を制止した。諸君は既に軍政部の護照を領收して居り、之れは全く正式のものであるのに、何故に暗中、各方面に頼み込み、此れ等の人々に銃器を給して祕かに荷上げせねばならぬのか。此の事たるや、政府は疑はざらんと欲するも疑はざるを得ないのである。諸君の團長の計劃は、きつところであらう。即ち此の銃器を今回若し祕かに荷上げし得れば、軍政部の護照を使用するに及ばぬし、また諸君等に對しては未だ廣東に到着しないと云つて誤魔化して置く。そして四十日後に第二回の銃器が到着した時に至つて、軍政部の護照を使用し諸君に對しても銃器が到着したと報告しようとするのである。彼等の今回運搬した銃器は、即ち密輸入であり、現在密輸入たる事は既に明白となつた。此の故に政府は調査を必要とするのである。第二は、諸君の購入した銃器以前に更に多數の銃器があるが一體誰のものであらうか。政府が彼の汽船を抑留してゐるのは、何人が、かく多數の銃器を密輸したか、此の多數の銃器は畢竟如何なる來歴を有してゐるかを調査する爲である。第三の疑點は、即ち諸君等現在銃器を受取る必要のある商團軍は、僅かに一千餘人に過ぎないのに、今回購入せる銃器は八九千挺ある。かかる多數の銃に、また如何なる用途が有るのであらうか。更に何人に支給せねばならぬのか。現在諸君は銃を求める事を忙いで、若し銃が手に入らなければ、同盟休業で政府を脅やかさうとする。



若し、眞に此の事を實行しようとするなら、其れは諸君が彼等の手管にのせられ、事の筋合を理解しないからである。諸君一同が、今回の銃器が密輸入されんとして現に政府に抑留されて居る事を知つたならば、諸君はよろしく此の事件の擔任者に對して責任を問ふべきである。其の人の銃器の護照につき四十日後にして始めて廣來に到着すると聲明し乍ら、現在僅に四日にして到着したのである。諸君代表の述べられた所では、運送船出帆の期日を知らぬとあるが、併し百數萬元の銃器は決して小さい事ではない。どうして廣東到着の時期を事前に知らぬ理由が有らうか。之れでも、他人が諸君商團の看枚を借りて銃器を運送したものである事が明らかではないか。現在輸送が成功せず銃器は既に政府に差押へられたので、彼等はまたも諸君商團を借りて政府を恐喝せんと試みたのである。諸君の知らるる如く、人民のうちには士農工商があつて、いづれも政府を擁護して居る。現在諸君商人は、政府に少しも調査する機會を與へず、同盟休業を行はんとしてゐる。之れは野蠻で理窟を解しない事である。政府は此の銃器輸入に對しては、斷然調査究明せねばならぬ。若し調査の結果、眞相が判明して、若し眞に諸君のものであれば諸君に還付し若し外國から銃器を別に運んで來るとすれば、其れが眞に諸君のもので、現在のもは諸君の銃器ではないから、自然政府としては沒收せねばならぬ。只今、代表諸君は、護照上の時間に關す

る解釋について、汽船の速力は一定せぬから、廣東に到着する期日も一定せぬと云はれたが、併し其れにしても其の差が餘りに甚しく、恐らく辯明し得ないであらう。

況んや、第二の件即ち諸君の購入した銃器以前に、なほ、何人かの銃器が有ると云ふに至つては、政府として調査究明せざるを得ない。一體、此の多數の銃器は、吳佩孚の密輸か、或は陳炯明の密輸か、其れとも或は土匪の密輸であらうか。故に第一の件、護照の期日と銃器到着の時期との符合せざる疑點、並に第二の件、諸君商團の購入以前に別に多數の銃器の存する疑點に對しては、政府いづれも調査究明せねばならぬ。此の件を調査究明するには、一日にして其の結果を得る事は不可能である。將來正確に調査したる後、諸君の銃器は還付し、決して沒收する様な事はないから、諸君は安心して暫く待たれたい。要約して云ふと、此の疑問を政府が調査せる後、若し諸君が此の銃器を利用して政府と戦ふものでない事が明らかになれば、政府は必ず銃を諸君に還付する、若し諸君が之れを利用して政府と戦ふのなら、政府は自衛策として、此の銃器を諸君に還付する譯には行かない。ただ諸君と一勝負するだけである。本大元帥は、非常に諸君商團と聯絡したいと考へ、また諸君を手も足もしたと思つて居るものである。今日諸君が請願に見えられた事を、予は非常に歓迎し、且つ此の機に諸君と言葉を交はす事を得たのは、更に



一層喜ばしく感ずる。若し諸君の首領にして野心なくば、政府に敵対しないだらうし、諸君は政府と協同して一致の行動をとり廣東の治安を維持されるだらう。併し諸君の領袖は、極めて野心を有するもので、諸君と政府の提携を恐れ、中間に在つて之を妨害してゐる。此の種々の黒幕に就いては、予は悉く承知して居る。故に今日銃器運送の黒幕に對し、予は更に調査究明しなければならぬ。諸君は今日銃器が手に入らぬからとて明日同盟休業せねばならぬ必要はない。要するに、政府が此の疑を調査するには、或は三日、或は五日、或は一二週間を要するか、其れははつきりせぬが、調査終了までは待つて貰はねばならぬ。其の曉には此の銃器を諸君に還付し得るのであるから諸君並に商人各位は、靜かに此の時を待たれたい。決して政府が諸君の銃器を沒收するなど心配する事はない。また、つまらぬ連不の眞似をして自ら騒ぎたて、暴動を起す事は斷じてならない。諸君は、怖れを爲した銃器賣却人どもが諸君商團を利用せんとしての事である事を明瞭に理解するを要する。政府は近き將來に必ずや極めて詳細なる宣言を發表し、此の事件の由來を明白ならしめ、諸君をして彼等の陰謀を瞭然たらしめる心算で、目下此の銃器運送の疑案を調査中である。若し調査して、眞に、何等邪惡な點がなければ、道理に従つて宣布し、諸君をして此の事件の経緯を了解せしめる。併し、銃器還付以前に在つては、諸君はどうしても政

府に調査する時間を與へて貰はねばならない。諸君の購入運搬された此の多量の兵器は、事前に毫も政府に報告されて居ない。之れは、諸君商人が手續上、既に誤つてゐる點である。

諸君の知らるる如く兵戦を處理する事は政府の特權である。若し、商人が隨意に兵器を取扱ひ労働者が勝手に兵器を取扱ひ、農民が自由に兵器を取扱ふならば、土匪も亦思ひのままに兵器を手にして、廣東の現在が亂れるばかりか、將來更に大亂が止まないであらう。諸君が政府と同心協力して一致して進み得るならば、廣東の亂事は速に解決し得る。若し諸君商團にして更に再び亂を生ぜしむるならんには、廣東の亂事は止る處を知らないであらう。さきには、陳炯明が反逆して亂をなした爲め、外來の客軍をして廣東に專横をほしいままならしめた。若し商人にして更に亂をなすならば、即ち商人變じて客軍となるのである。故に諸君が歸られて、矢張り安心して業務を楽しみたいならば、政府が此事件を明白に調査する迄待つて、其の上、政府が同盟休業を許すならば諸君は休業されたがよい。若し政府の調査判明を待たずして、現在同盟休業を行ふならば、其れは政府に反對せんとする意志を有するもので、政府としても其の儘に濟ます譯には行かぬ。諸君は予の此の話を聽かれた以上、決して焦慮してはならない。必ず、分に安んじて暫く待つて居て貰ひたい。また若し理解の出來ぬ節が生じた場合は、遠慮なく代表を派して述べるが



よい。其れには、最も好ましいことは團長が来て述べられる事である。諸君の團長は、現に突然辭職されたと云ふが、之れは頗る疑ふべき事である。元來、團長が諸君に代つて銃器を購入し、手續上合致しない爲め、政府に差押へられた、俗語に云ふ「豚を押へるには其の脚に注意せよ」とある通り、諸君はまさに團長を追及すべきである。

現在、團長が突然辭職したが、之れは明かに不安からである。また何故自から來つて政府と協議しないのか。現在の政府は道理に従ふ政府であり、文明的政府であつて、李準、張鳴岐、龍濟光、莫榮彰、陳炯明等同様の野蠻政府ではない。公平に見て、諸君は龍濟光や、莫榮彰、陳炯明の政府を歓迎せんとするものであらうか。試みに問ふが、龍濟光、莫榮彰、陳炯明の時代、諸君が請願に出頭した際、彼等は諸君と出でて會見したであらうか。此の一事を以てしても諸君は當然此の政府を信仰すべきであり、此の政府が道理に従つて行ふ政府である事が知られる。此の銃器は、調査後に若し別状なければ必ず諸君に還付するのであるから、諸君は現在少しも焦慮する事なく、また淺慮から自己を害ふことがあつてはならぬ。諸君が知つての通り、同盟休業すれば諸君は商賣を營む事が出來ず、諸君は自から損失を招くが、政府には何等關係する所がない。故に諸君がまさに責むべきは團長であり、何が故に事實をかく糊塗したか、彼の心事は畢竟何を目

論むものかを追及すべきである。若し果して團長に黒幕が控へて居るならば、諸君は彼の言葉に服してはならない。現在の政府は何時たりとも諸君と會見し、如何なる事なりとも協議するものである。政府は諸君商團の充分なる發達を希望し且つ諸君を養成して民治の中堅たらしめんと考へてゐる。今日抑留する所のものは銃器に非ずして、彼の「デンマーク」流の兵器密輸入船である。此の汽船の問題が解決するに至れば、銃器の問題も直に解決するであらう。ただ此の銃が何等黒幕を有せぬならば、必ず數日で諸君に還付する。其の時には、此の幾千挺が政府に沒收されてしまふ事を心配する必要はない。又政府は諸君の銃器の沒收などを考へる處か、若しも諸君の商團員が數萬人ならば、却つて政府は諸君に數萬挺の銃器を支給しよう。現在廣東の兵器廠では日々銃を製造してゐるから、政府が命令を下して、價格を定めて民團に賣る事が出來るのである。即ち現在の政府は人民の保護に如何に心を砕いて居るかが明かではないか。併し乍ら、諸君が若し一二野心家の言をきいて利用され、政府に反抗する時には、政府も當然、政府としての對策を有してゐる。諸君は當に謹慎して人の煽動を受け、他に操縦されてはならない。

## 中央銀行開業訓辭



諸君。今日は中央銀行創立の第一日である。中央銀行は、革命政府の始めて設立せる銀行である。故に今日は、革命政府の始めて設立せる銀行の第一日である。今日政府が此の銀行を開業するのは、即ち政府が商業を經營せんとするのである。故に今日はまた政府が始めて商業を經營する第一日である。

諸君の知らるる如く、我が政府は廣東に於いて、現在多數の軍隊を有し、軍費はいづれも不足を告げ、政府はかく多額の軍費を負擔する爲め財政は頗る困窮を來して居るのである。かかる財政困難の時代に在つて、政府は如何にして此の銀行の開業を發起し得たのであらうか。此の銀行を創立し得た所以は、外國資本一千萬を借りたからである。一千萬の外國資本を得たが故に、此の銀行はよく創立し得たのである。予は此の銀行創立の日に當つて、軍界と政界とに訓辭を述べたい。今日の軍界と政界とは、ひとしく極めて困窮してゐる。例へば軍界に就いて見るに、前線の多數の兵士は、いづれも、着るに衣なく、食ふに飯なき有様で、疾病、死亡などに對しても、一切の醫藥、埋葬費に頗る困難を極めてゐる。更に政界に就いて言へば、若し一つの借款を計劃しても、早速軍費に持ち去られ、ただに一切の新規行政事業が經費の無いために發展し得ないばかりではなく、政府そのものさへも、なほ容易に維持し難いのである。此の軍政兩方面の費用の極めて不如意な折柄、政府は更に外資一千萬を借りることによつて、此の銀行を開業した。此の事に對し、軍及び行政官吏は如何なる感じを抱くであらうか。一般軍人は、前線の兵士に着せる衣服もなく食はせる飯のないのに、政府は却つて一千萬元で此の銀行を開業する位なら、何故此の金を軍費として眼前の急を救はないのか、と考へ様し、また一般行政官吏は、現在行政經費がない爲め、職員は俸給も受けずして公務に従事してゐるのだ、何故に此の借款を以て政府の現狀を維持する爲に融通しないのか、と思ふであらう。然し此種の思想は、いづれも抱いてはならないものである。今日此の銀行を開業するが、本大元帥は此の開業の日に當つて、此の二つの思想に對して、訓辭を以て説明解釋しよう。此の解釋とは如何なる話か。前線の兵士が金がなくて兵糧に窮してゐるから此の金を軍費に充てたらとの考へ、此の思想を説明する爲に、余は二つの比喩を引用して諸君にお話しよう。數百年前、新大陸の發見後、米國の數人の傳導師が南「アメリカ」に布教に赴き、ある地方で、ある野蠻人に出會した。其の野蠻人はなほ漁獵時代に在つて、生活方法は遊牧時代に入つて居らず、如何にして牧畜に従事すべきかを知らず、固より耕作時代にも至つてゐないから、如何にして五穀を栽培するかをも知らなかつた。更に商工業時代、例へ

かりではなく、政府そのものさへも、なほ容易に維持し難いのである。此の軍政兩方面の費用の極めて不如意な折柄、政府は更に外資一千萬を借りることによつて、此の銀行を開業した。此の事に對し、軍及び行政官吏は如何なる感じを抱くであらうか。一般軍人は、前線の兵士に着せる衣服もなく食はせる飯のないのに、政府は却つて一千萬元で此の銀行を開業する位なら、何故此の金を軍費として眼前の急を救はないのか、と考へ様し、また一般行政官吏は、現在行政經費がない爲め、職員は俸給も受けずして公務に従事してゐるのだ、何故に此の借款を以て政府の現狀を維持する爲に融通しないのか、と思ふであらう。然し此種の思想は、いづれも抱いてはならないものである。今日此の銀行を開業するが、本大元帥は此の開業の日に當つて、此の二つの思想に對して、訓辭を以て説明解釋しよう。此の解釋とは如何なる話か。前線の兵士が金がなくて兵糧に窮してゐるから此の金を軍費に充てたらとの考へ、此の思想を説明する爲に、余は二つの比喩を引用して諸君にお話しよう。數百年前、新大陸の發見後、米國の數人の傳導師が南「アメリカ」に布教に赴き、ある地方で、ある野蠻人に出會した。其の野蠻人はなほ漁獵時代に在つて、生活方法は遊牧時代に入つて居らず、如何にして牧畜に従事すべきかを知らず、固より耕作時代にも至つてゐないから、如何にして五穀を栽培するかをも知らなかつた。更に商工業時代、例へ



ば吾人が現在の製造に従事し金錢を以て物貨と交換するが如き時代に到達してゐないから、彼等は全く他と懸絶した生活を送り、ただ魚を採り、獸を狩し、魚肉を以て食料となすのみである。併し彼等の性質は極めて人なつくく善良で、頗る禮儀に厚く、彼の傳導師を一目して、禮を厚くして待遇し非常に相親しんだ。では彼の傳導師等は如何にして此の野蠻人を待遇したのであらうか其の野蠻人は甚だ窮して居り、又甚だ食料に缺乏してゐた。彼の傳導師は別に彼等を接待するにふさはしい方法が無いので、ただ彼等に飯を御馳走した。彼の野蠻人は、飯の味を一度味うや、非常に美味に感じ、魚肉に比して遙に美味なので大變に喜び、そこで多數の野蠻人はいづれも飯を口にしたいと考へ、彼の傳導師に飯を食はせて呉れと頼んだので、傳導師は船から米を運出し陸上げし、之を野蠻人に贈つた。彼等は、米を得たが、如何にして炊き、如何にして食ふものかを知らなかつたので、彼の傳導師等は又彼等に如何にして飯を炊くかを教へた。是に於いて彼等は生米を煮て飯にする方法をすつかり學んで、口にしてみると大變うまい。傳導師等は彼等と一緒に魚肉と米飯とどちらがうまいか、と質問した處、彼等はいづれも、米飯が遙かに美味である。ただ魚肉ばかりでは味が無い、と答へた。そこで傳導師は、米は稻からとれるもので、君達が米飯が好きで食べたいなら、田を耕やし、種子を植えつける方法を知らなければならぬ、と云ひ

彼等にどうして種子を植えつけるか、また、どうして田を耕すか、どうして栽培するか、つまり收穫の方法を教へ、更に、我々は今君達に幾俵かの種子を與へるから、此の方法に基づいて耕作せよ。さすれば、現在の此の數俵によつて、數ヶ月後には數千俵の米を收穫することが出来る。即ち澤山飯を食べられるのである、と言ひ残し、數俵の米を與へて、出帆し去つた。彼の野蠻人は數俵の米を得て思へらく、先づ田を耕し種を播いて、やつと稻が生じて實が結び、成熟してしまつた後、更に收穫し、白米に精白せねば煮て食ふ事が出来ない。こんな風では數ヶ月しなければ成功しない。今後數ヶ月もかかるとすれば、どうしてそれ迄待つて居られるものか、と云ふので、彼等は其の數俵を耕種して、多量の穀物を生む種子として用ゐず、直ちに此の數俵の種子を精米して飯として腹をみたしてしまつた。彼の傳導師等は數ヶ月後に、野蠻人に與へた穀物の種子が、今では數千俵の穀物となり、豊かに米飯を食して居る事と考へて立歸へつて來た所、一度其の地を踏んで始めて到る處みな荒野で、少しも耕種のあとがない事を知つた。早速かの野蠻人に穀物の種子は何處へやつたかと問ふた所、彼等の答へは、とつくの昔に食つてしまつたと云ふのであつた。我が中國にも亦之れに似た『卵を食ふには牝鶏は食へない』といふ諺がある。之れは、牝鶏は澤山の卵を生むものだが、之れを一度食つてしまへば、それきり卵は食べられなくな



る、と云ふ意であるが、此の中央銀行の資本は、云はば穀種であり、また牝鶏でもある。若し此の牝鶏を一度食つてしまへば、最早や澤山の卵はとれないし、此の穀種を食ひつくしてしまへば以後は食すべき米は得られないのである。吾人はみな聰明な人間であり、吾人の理性は、南米の野蠻人に比して勿論遙かに優れて居る筈である、必ず、穀種や牝鶏を食す事の利害を理解して居る、若し穀種と牝鶏とを食はず、此の一千萬を徒費しなければ、今後數千萬乃至數億を儲けるであらう。所謂一本萬利である。よく此の穀種と牝鶏とを保全し得れば、以後の利息は無窮無限である。諸君はみな軍界政界の有力なる分子であるが、此の中央銀行を保護する事は即ち種子を保全する事である。此の際此の一千萬の種子を保全し得れば、將來の發達は殆んど計り知る事は出來ない。此の二つの比喻によつて、余は軍界、政界に對して訓辭したい。諸君、軍官並に一切の行政官吏は、みな文明人である。斷じて南米の野蠻人に學んではならない。穀種を増殖して多量の米をつくり、牝鶏を保護して多くの卵を生まれしむれば、吾人が今後一生食へども盡きないであらう。若し軍官がみな此の銀行の資本を以て軍費にあて、官吏がみな此の銀行の資本を以て行政費を賄つたならば、それこそ、一度に食ひつくして、今後の希望は全く消へてしまふのである。本來、銀行事業は、社會に對する經濟的關係の極めて大きなものである。現代の中國の銀行事

業は、内外の經濟に對する關係が最も重大である。現在一般中國人の經營する銀行事業は、みな小錢莊である。中國各省に於いては、中國から外國に對し一回十萬元の金額を爲替に組む事が出來ない。廣東西關には銀行が少くないが、香港、上海、天津、或は倫敦、「ニューヨーク」等に爲替で送金するのに、一回十萬元の爲替を組み得る銀行が何處にあるであらうか。現在、市場に於ける大口の金額の爲替は、みな外國銀行に依頼して居り、外國銀行は多額の爲替手数料と割引料を要求し、我が中國人は爲替によつて頗る不利益を蒙つて居るのである。吾人の經營する此の中央銀行は、即ち普通の銀行とは趣を異にしてゐる。此の銀行は、今日營業を開始したに過ぎないが、併し既に債券に對して準備が成つて居る。財政部では未だ印刷が出來上つて居ないが、此の印刷が出來上つた後、之れを倫敦に送れば、此の銀行と倫敦との爲替は一回十萬に止まらず、數十萬或は數百萬でも組み得るのである。此の爲替機關は、即ち中國の銀行界に新に一生面を開いたものである。此の銀行が爲替銀行としての任務を果せば、凡そ我が廣東の金は、其の多小を論ぜず、之れを上海、天津、漢口、或は外國の各大開港場に爲替送金する際は、盡く外國銀行の手を経ずして行はれ得る。即ち外國銀行の所定の高手敷料と割引料とから受ける損失を喫せずともよいのである。しかのみならず、中國人同志の交易であるから、利權を外に逸出せしむる事なく、



銀行を保護し、獎勵し、諸君も當然同心協力して此の銀行を維持すべきである。若し諸君一般が此の銀行を維持し、此の銀行の經濟力が大發展を遂げるならば、中國市場に於ける經濟力は、外國銀行のために操縦さるるには至らない。故に此の銀行の創立は、内外經濟勢力の成敗に關係するものである。諸君は既に政府が此の銀行を創立せる意思を了解せられた以上、此の銀行を維持し發展せしめねばならない。此の銀行を維持し發展せしむる事は、とりもなほさず、政府を維持し發展せしむる事であり、政府を維持し發展せしむる事は、即ち革命を支持し成功せしむることである。革命を支持し成功せしむる事は、貧弱なる中國をして、變じて富強たらしむることである。

## 北伐の原因

——民國十三年九月二十九日、廣東各界北伐贊助大會にて——

各界の諸君、本日諸君は茲に北伐贊助大會を開催された。此際吾人は何が爲に北伐をなさなければならぬかを、知る必要があると思ふ。

革命黨は十三年以前、滿清の專制政體を覆して、改めて民國を樹立したのであるが、辛亥革命

の成功以前に於ては、革命黨は到る處に於て宣傳に努め、智識ある學者が各處に到つて革命を宣傳し、各界の人士も皆來つて之れを幫助した。然るに革命前、滿清政府は中國の利益を外人に與へ、之が爲に南方の安南緬甸は英佛の爲に占有せられ、朝鮮、臺灣は日本に、香港、九龍は英國に、廣州は佛國に、上海と漢口とは各國に、夫々占有せられて了つた。革命黨は此の事態を見て中國が重ねて列國の奴隸とならんことを懼れ、出でて革命の宣傳に従ひ、人民も亦悉く革命を歡迎した。然るに滿人等は寧ろ國土を外人に與へんことを願つて、之を漢人に與ふることを願はなかつた。仍つて革命黨は中國の淪亡せんことを懼れて、専ら革命の提唱に努めた。

當時各人は革命を提唱し、革命に賛成し、且つ共和の福利を享受せんことを希望してゐたのであるが、民國十三年以來、人民は果して幾許の幸福を享有し得たか。只、國內は四分五裂し、盜難と兵災とを蒙つたばかりではなかつたか。多くの愚昧なる人々は、此等幾多の苦痛が、革命の結果によるものなりと考へた。即ち十三年以前に在つては、清朝の奴隸ではあつたが、能く居に安んじ、業を樂しむことを得た點に於て、遂に現在に優つてゐたと考へたのである。然し革命事業は、舊屋を壊して新屋を建てる様なものである。此の十三年間に舊屋は已に破壊したが、未だ新屋を建てる迄に至つてゐないのである。若し斯る状態に於て狂風大雨に見舞はれたならば、如



萬事好都合である。此の事は、我が軍界、政界及び農工商界全部が知らねばならない事である。

余は更に第三の考を有してゐる。即ち、此の銀行の資本は固より少額ではない。此の管理と營業とに就いては最も注意謹慎し、すべて、最も優良な銀行規則に従つて行ふのみならず、此の銀行は政府より特權を與へられ紙幣を發行し得る。紙幣の準備金としては一千萬を有し、從來政府や銀行の發行せる紙幣とは性質を異にしてゐる。外國銀行が中國に於いて發行せる紙幣は、勿論之れ亦準備金を有してゐるが、併し彼等の發行せる紙幣の金額は、最少限度、其の準備金の四倍に達してゐる。我が此の銀行の發行する紙幣は、規則によつて、準備金に四倍する事はない。準備金の額に應じて發行するものである。發行の方法に至つては、直接に軍費としたり、行政費としたりせず、先づ紙幣として市場に通用せしめる。では吾人の紙幣は一體如何なる方法によつて發行するのか。諸君の知らるる如く、外國銀行紙幣の信用ある所以は、兌換券であるからである。普通紙幣を發行する方法は、銀行が先づ紙幣を市場に於いて使用し、然る後に百元の紙幣を銀行に持参すれば百元の現銀と兌換して毫も割引しない。かかる方法が兌換、硬貨引換への方法で、紙幣は兌換され得るが故に信用を有するのである。吾人の此の銀行の發行する紙幣の信用は、兌換に比して遙かに高い。それは如何なる譯かといふに、吾人の紙幣發行の方法は「現銀に兌換」

ではなくして、「現銀を兌換」するのである。他の普通銀行の方法は、一般が先づ百元の紙幣を有して居り、それが銀行に赴いて百元の現銀と兌換するが、此の銀行の方法は、人民をして百元の現銀を以て必ず先づ百元の紙幣を買はしむるのであるが故に、此の紙幣は、外部に於て流通するもので、紙幣には必ず現銀の抵當が入つて居り、隨時兌換し得る。されば、此の銀行の紙幣發行方法は、先づ現銀を有して然る後に兌換券を發行するものである。故に、「現銀を兌換」すると云ふべきである。かく「現銀を兌換」する上に、更に其以外にも多額の準備金を有して居るのであるから、此の紙幣の信用は、斷然甚だ高く、また從來の省立廣東銀行發行紙幣の如き缺陷をも有しない。

此の紙幣の信用を維持せんとするには、商界、工界、農界及び政界、軍界の各方面が協力提携して、此の牝鶏と穀種を培植發達せしめねばならぬ。斯くすれば多數の鶏卵と新穀とを産出し得るし、また此の鶏卵新穀は、更に穀種孵化卵となり、之れによつて更に新穀と新鶏を得る。かくすれば絶えず生長し毫も底止する所なく、限界を知らないであらう。其の時になれば、軍界と政界は困窮を免れ、工商界及び一切の人民は資本なきを憂へず、此の銀行の利益は無限である。社會一般は、此の銀行の紙幣發行方法が「現銀を兌換」する方法なることを知り、政府も極力此の



銀行を保護し、獎勵し、諸君も當然同心協力して此の銀行を維持すべきである。若し諸君一般が此の銀行を維持し、此の銀行の經濟力が大發展を遂げるならば、中國市場に於ける經濟力は、外國銀行のために操縦さるるには至らない。故に此の銀行の創立は、内外經濟勢力の成敗に關係するものである。諸君は既に政府が此の銀行を創立せる意思を了解せられた以上、此の銀行を維持し發展せしめねばならない。此の銀行を維持し發展せしむる事は、とりもなほさず、政府を維持し發展せしむる事であり、政府を維持し發展せしむる事は、即ち革命を支持し成功せしむることである。革命を支持し成功せしむる事は、貧弱なる中國をして、變じて富強たらしむることである。

## 北伐の原因

— 民國十三年九月二十九日、廣東各界北伐贊助大會にて —

各界の諸君、本日諸君は茲に北伐贊助大會を開催された。此際吾人は何が爲に北伐をなさなければならぬかを、知る必要があると思ふ。

革命黨は十三年以前、滿清の專制政體を覆して、改めて民國を樹立したのであるが、辛亥革命

の成功以前に於ては、革命黨は到る處に於て宣傳に努め、智識ある學者が各處に到つて革命を宣傳し、各界の人士も皆來つて之れを幫助した。然るに革命前、滿清政府は中國の利益を外人に與へ、之が爲に南方の安南緬甸は英佛の爲に占有せられ、朝鮮、臺灣は日本に、香港、九龍は英國に、廣州は佛國に、上海と漢口とは各國に、夫々占有せられて了つた。革命黨は此の事態を見て中國が重ねて列國の奴隸とならんことを恐れ、出でて革命の宣傳に従ひ、人民も亦悉く革命を歓迎した。然るに滿人等は寧ろ國土を外人に與へんことを願つて、之を漢人に與ふることを願はなかつた。仍つて革命黨は中國の淪亡せんことを懼れて、専ら革命の提唱に努めた。

當時各人は革命を提唱し、革命に賛成し、且つ共和の福利を享受せんことを希望してゐたのであるが、民國十三年以來、人民は果して幾許の幸福を享有し得たか。只、國內は四分五裂し、盜難と兵災とを蒙つたばかりではなかつたか。多くの愚昧なる人々は、此等幾多の苦痛が、革命の結果によるものなりと考へた。即ち十三年以前に在つては、清朝の奴隸ではあつたが、能く居に安んじ、業を樂しむことを得た點に於て、遙に現在に優つてゐたと考へたのである。然し革命事業は、舊屋を壊して新屋を建てる様なものである。此の十三年間に舊屋は已に破壊したが、未だ新屋を建つる迄に至つてゐないのである。若し斯る状態に於て狂風大雨に見舞はれたならば、如



何なる景象を呈するであらうか。人によつては、舊い家は傾倒の虞れはあるが、其れでも一時は風雨を防ぎ得るであらうから、之を壊すのは妥當でない、と言ふものがあるが、之れは全く謬れる意見である。十三年來人々は大雨に曝され乍ら生活してきた。彼等が其の居に安んずることが出来なかつたのは之が爲である。然し新居が竣成しないのは、滿清時代の遺物たる舊官僚と軍閥との障礙によるものである。即ち此の期に及んで一部の人士が、一片の舊瓦、一塊の甃を捨つるに忍びず、之が爲に徹底的廓清を爲し得ずして、依然一般官僚と武人とを存続せしめつあることが、建設不能の原因なのである。即ち清帝を打倒することは出来たが、之に代つて數十人の小皇帝が興り、其の爲に人民は居に安んじ得ないのみか、却つて苦痛を覺えつつあるのである。更に一つの原因があるが、それは國民自らが専制勢力下の奴隸生活に慣れて、政治を過問せず、武人と官僚とをして、肆に其の暴威を振はしめてゐるからである。諸君は民國成立以來、自らが此の國の主人であることを知らなければならぬ。主人自らが國家の建設に努力しないからこそ各人が斯様な苦痛を受けねばならないのである。諸君は今後大なる覺悟と努力とをなさなければならぬ。革命黨は國民の先覺者である。而も之が奔走呼號するに係はらず、國民の之に應ずる者は少數である。此故に民國不成功の責は、實に國民が之を負ふべきである。諸君了知せられよ

中國は一個の大會社の如きものであつて、國民は其の株主の如きものである。故に株主が會社を維持しなければ、會社が危険に瀕するのは必定である。國家が建設されて人民が其の幸福を享有することは、會社が利を獲て、株主が其の利益配當を受くるのと同様である。

中國が通商貿易を始めて以來、國內の工業は不振を極め、輸出すべき製品が無いばかりか、國內の需用品すら、外國品に其の供給を仰がねばならない状態であつて、毎年の輸入超過は五億元に達する有様である。諸君考へて見られよ、我々は毎年五億元を外國に買ひてゐると同様なのである。焉んぞ危険ならざるを得んやである。此の外、中國國內の外人經營による工業、礦業、航業、陸運業、銀行、租借地、割讓地等々による毎年の損失も十數億に上り、條約による損失と、賠償金及其の利息による損失とも亦、實に數十億に達してゐるのである。各自は皆自己の爲の金儲を考へてゐるが、斯かる大なる損失は之を挽回することが出来ないのである。國家は大會社の如きものである以上、國民各個が努力して、此等毎年數十億に達する損失を、完全に恢復しなすれば、自然と家給人足の域に達することが出来るであらう。此の故に諸君は大いに努力しなければならぬ。一軒の小家屋を建つるのでさへも、數ヶ月の時日を要するのであつてみれば、一個の大國の建設が、十三年の歲月を以てして成功し得ないのは蓋し當然のことであらう。只、最



早成功まで遠くはない。諸君は當に齊しく起つて努力しなければならぬ。今回革命政府が北伐の師を起したのは、西南の軍隊と奉天の軍隊と聯絡して、舊屋の軋瓦渣滓に等しい北洋軍閥と官僚とを掃蕩し、以て新國家を建設せんが爲であつて、之が責任は全く全國國民の負擔すべきものである。國民各個に毅然たる力さへあれば、此の第二次建設工作も必ずや完成されるであらう。

### 日本は廢約運動を援助すべし

—民國十三年十一月二十八日、神戸東方飯店に於ける神戸各團體歡迎宴會にて—

神戸商業會講所、日華實業協會、我が中國領事並に華僑諸君。今夕は諸君のかくも熱誠なる招待を蒙り、余は實に感激に堪へないものである。余は今回神戸に立寄り、日本各方面の人士の一致せる熱誠なる歡迎を蒙つた。この偶然遭遇した情況より見ても、中日兩國國民が非常に親善である事が知り得られる。中國と日本との關係に照して言へば、無論如何なる方面に於ても、兩國國民は、皆當然手を携へて協力進行せしめ、共に兩國前途の發展を謀らねばならない。例へば余の今回の旅行にしても、南中國から北中國に至るもので、即ち自分の家の南方から、自分の家の北方に行くのであるが、神戸により、道したのは、丁度日本人の家庭を經過したのと同様である。單

に自分の家の南から北へ行くのにさへも、諸君日本人の家庭を通過しなければならぬのであつて専ら交通に就いて見る文でも、斯様に中國と日本とは密接なのである。其他の種々の關係もみな頗る密接である。我が兩國々民は從來から口頭禪で、みな、中國と日本とは同文同種の國家である。兄弟の邦である、兩國々民は當然手を携へて行かねばならぬ、と云つて居る。嘗つて、日本の維新の元老は維新の成功以前に於いて中日兩國の提携を提唱したが、現在日本の維新は既に成功したに係はらず、中日兩國國民の口頭禪は未だに目的を達成しない。之れはどうした譯であらうか。それは我が中國が覺醒しなかつたからである。日本が維新の數十年を經過する其の間、中國は夢中に在つて、毫も之を知らなかつたのである。近來に於ける世界の大變遷と、歐米勢力の東侵による中國壓迫とに遭ひながら、中國は依然夢から醒めやらず、覺る所がなかつた。然し十三年前、中國にも漸く革命を見た。中國に革命が發生したのは、少數の先知先覺者が政治を改良し、國民を呼び醒し、國家の地位を回復して從來通りたらしめん事を提唱したことによるもので、斯くて始めて革命は起つたのである。

只だ中國今般の革命が際會した時機と、嘗つての日本維新の時機とは大いに同じからざるものであつた。日本維新の際會に當つては、歐米の勢力は未だ完全に東進して居らず、東亞に於ては



別に障礙物はなく、日本は軍備を整備し、政治を刷新するに當つても左程牽制干渉を受けず、誠に自由であつた。之れ日本の維新が完全に成功し得た所以である。吾人の十三年前の革命時代には、歐米の勢力は既に完全に東亞に侵入し、中國の四境はみな強國であり、四方みな障礙物であつた一つの事を行はんとするにも、種々の困難を経なければならず、困難を嘗めても矢張り目的を達し得なかつたのである。故に革命十三年にして今に至るも成功しない。我々の革命は中國に於いて此の十數年來、既に滿清の舊皇帝を倒し、袁世凱の新皇帝を消滅させ、種々の障礙を除去して來た。最近では、曹錕、吳孚孚の大軍閥も亦吾人に顛覆され、従つて國內に於ける革命の障礙は皆吾人によつて消滅せしめられてしまつたのである。現在の吾人には國內に於いては革命の障礙物はない。既に革命の障礙物が無いのなら、革命は當然成功すべきであるのに、何故なほ成功し得ないのか、なほ圓滿に目的を達成し得ないのか。それは、國外の障礙が打破されて居ないからである。此の國外の障礙とは、即ち中國が嘗つて外國と結んだ不平等條約である。

此等の條約の條文は、頗る明白であるが、内容に就いては、中國人自らが理解し得ないのみならず、日本の傍觀者にも亦、容易に理解し得ない。大體に付いて此等の條約の由來を申上げると之れはその昔、中國が十數ヶ國と締結したもので、外國は中國に於いて此等の條約の定むる所に

よつて、中國とは不平等な地位に立つて、中國を壓迫し、種々特別の權利を享受したのである。這般の歐洲戰爭後、獨逸と「オースタリー」とは其の條約を撤廢し、此の兩國は現在中國から特別の權利を享ける事は出来なくなつた。獨逸と「オーストリー」とが、さうした條約を撤廢するに至つた原因は、彼等が戰敗國であり、且つ我が中國に之が撤廢を求められたからである。近來露國も亦此の條約を撤廢した。露國の撤廢した原因は、革命後、彼等は頗る正義を主張し、斯様な條約が甚だ不平等であり、中國に對して甚だ道理を缺いてゐることを覺り、爲に彼等自身が進んで快よく斯様な條約を撤廢せん事を求め、露國の中國に於いて有する特別權利を返還したのである。この不平等條約は、現在合計三ヶ國が既に撤廢したが、其他の十數ヶ國は尙之を撤廢せず我が中國の主權を握つてゐるのである。

然らば不平等條約とは、一體如何なる代物であらうか。有體に云ふと、之れは嘗つて中國政府が吾人國民を外國人に抵當に入れて、書いた所の身賣證文なのである。現在此の身賣證文を渡した國が、尙ほ十數ヶ國ある。つまり吾人は實に十數人の主人を有してゐるのである。吾人は現在十數ヶ國の奴隸であり、十數ヶ國の植民地なのである。一國の植民地たるは頗る容易であるが、十數ヶ國の植民地たることは誠に苦痛である。例へば濠洲は英國一國の植民地であり「ニュージ



「ランド」も亦英國一國の植民地であるが、英國は平時、此等の植民地から享ける権利は至つて少く、負ふ所の義務は極めて大である。此等の植民地の人民は、却つて母國に對して極めて大なる權利を有してゐるが、我が中國は十數ヶ國の植民地である爲、その十數ヶ國は只だ中國から特別の權利を享受し、只だ中國人を虐待するのみで、毫もその義務を盡さない。故に我が中國人は人の奴隸たるのみで、一向主人の恩恵には預らず、只だ虐待を受け、只だ苦痛を味ふのみで、中國の國內には行くき道が無い爲め、人によつては寧ろ外國に走つて一國の奴隸たらんとし、廣東人の如きは、最近香港に逃れ、更になほ遠く、南洋群島及び南北「アメリカ」洲に逃れる。彼等は外國に逃れた後は、皆郷里に歸る事を欲しない。自然のうちに、一國の奴隸たる方が十數ヶ國の奴隸たるに比して遙かに愉快を感じるからである。中國の現在は十數ヶ國の植民地であつて、獨立國ではない。中國の地位は植民地に比して更に一層低級であるから、次植民地と呼ぶべきである。吾人の領土を見れば、米國よりも更に大きく、我が人口は四億を有し米國よりも更に多數である。米國は現在世界に於いて最も富み、最も強い國家であるが、我が中國は、斯くも大なる領土と、斯くも多數の人口とを有しながら、尙一個の獨立國を形成するを得ない。此の原因を推究すると、極めて澤山あるけれども、最も主要なものは彼の不平等條約の壓迫を受けてゐる事である。

ある。吾人は現在一個の獨立國ではなく十數ヶ國の植民地なのであるが、中國人自らは一向之を知らない。余の考へでは、日本人も亦之を理解して居ない。

現在、日本は東亞最強の獨立國であり、また世界列強の一である。若し眞に日本が、中國は十數ヶ國の植民地であると知つたならば、一個の獨立國として此の植民地と相親善せんとするが如きは、とても出来る話ではないと思ふ。此の道理を明かにする爲、余は一つの好適例を以て説明しよう。嘗つて、廣東に甲乙二人の友人があつて、甲は廣東人で、廣東に於て非常に勢力を有し地位もあり、云はば紳士であつた。乙は在方の世僕で（原註、世僕とは廣東の風俗として家庭内の永久的奴僕の稱、北方の老奴の稱と似てゐる）まだ奴隸の地位を脱離してゐなかつたが、其の後廣東に來つて商賣を始め、大財産を作りあげ、又頗る勢力を有するに至り、友人の紹介によつて甲と相識り、甲と友人となつた。或る日、其の甲なる友人が乙を食事に招待し二人はいづれも贅澤な美々しい服装をして、揚々として料亭に赴かんとし、途上甚だ得意で歩いてゐた際、忽ち乙の主人に遇つた。乙の主人は、田舎の親爺で、今田舎から町へ出て來た所で、碌な着物もつけず、靴も穿かないで、手には只だ一本の大きな傘を持つてゐた。遠路の事として身體がすっかり疲勞してゐる處へ、忽然乙に遇つたのである。乙は彼の奴僕であつたので彼は遠慮なく、早速乙に



言つた「長らくお前を見ない中に、お前は どうしてまあ、こんなに贅澤になつたのかね。今日はこんなに好い着物を着て、何處へ行かうと云ふのだ。俺は歩いてすつかり疲れてしまつた。此の大きな傘を持つて後からついて来い」と。斯う云はれて、乙は此の田舎親爺の奴僕である爲、斷る事も出来ず、主人に替つて傘を持つて其の主人と共に去つてしまつた。乙は主人に替つて傘を持つて去つたので、彼の友人甲と一緒に食事をする事が出来ず、此の爲め、甲は其の友人乙を食事招待する目的を果す事が出来なかつたのである。我が中國と世界各國との間には、締結された數多の利益均霑の條約があるが、日本は自ら中國の主人である事を知らず、却つて日々中日親善を提唱してゐる。これは、宛かも甲が其の友人乙を食事招待したのと同様で、途上乙の主人に遭遇すれば、其の主人は乙に傘を持たして去るだらうから、甲は當然乙と食事を共にすることを得ない。中國の現在は丁度此の奴僕である。一個の自由人ではない。日本が吾人と親善せんとし、吾人を食事招待して、中國と日本とが同じ道路を歩いてゐても、中國の第一の主人に出會さなければ第二の主人に、第三の主人に出會さなければ第四の主人に出會し、十數人の主人が控へてゐるから、それ等の主人と中國人とは、決して誤つても氣付かずに行き過ぎる様なことはない。中國人が一度それ等の主人に出會すれば彼等は傘を持たしてしまふ。即ち、日本人に中國

人を食事招待する非常な誠意があつても、決して招待は成功しないし、目的を達成する事は不可能である。中國は此の爲め日本と親善する事が出来ないのである。若し日本に眞に中國と親善する誠意があるならば、先づ中國を援助して、不平等條約を撤廢し、主人たるの地位を收復せしめ、中國人をして自由の身分を獲得せしめねばならぬ。かくてこそ、中國は日本と親善し得るのである。吾人の口頭禪によるも、中國と日本とは同種同文の國家であり、兄弟の邦であり、幾千年の歴史と地位とから推して中國は兄であり、日本は弟である。現在、兄弟が集り會して一家和睦せんことを欲するならば、先づ諸君弟たる日本人は、既に十數ヶ國の奴隸となつて、既往に非常な苦痛をなめ、現在も非常な苦痛を味ひつつある中國の、此の苦痛の根本原因が不平等條約である事を知らなければならぬ。そして更に、諸君弟たるものは、兄に替つて憂ひを負擔し、兄を助けて奮闘するを要する。不平等條約を撤廢し、中國が奴隸の地位から離脱してこそ、中國と日本とは再び兄弟たり得るのである。

## 國民會議は内亂を解決す

— 民國十三年十一月十九日、上海莫利愛路二十九號宅に於ける  
新聞記者招待に際しての演説 —



諸君、余は從來、平和的統一を主張してきた者であり、曹錕吳佩孚はいづれも武力統一を主張した人である。今回、曹錕、吳佩孚の武力統一が國民軍によつて打破されてしまったので、余は平和的統一を講ずべき機會到來せりと考へ、よつて西南より上海に來た。余は既に西南に在る事二年の久しきに及び、種々の障礙の爲に未だ目的を成就しないけれども、併し曹錕の武力的統一反對の爲には頗る計劃し準備してきた。近來、準備將に成らんとするに及んで、突然國民軍が曹錕を一掃するに際會し、余が西南二年の考案も用ゐる要がなくなり、準備せる所の武力統一反對の計劃を放棄するも差支へなくなつた。余は武力統一に反對する計劃を放棄したのみならず、更に西南の地盤を棄てて、單身上海に來り、ここ數日後には北京に赴く筈である。今度單身北京に赴くのは、之れは極めて誠心誠意を以て全國の國民と共に平和的統一を謀らんが爲である。この目的を達成せしむるには、なほ手段が必要である。この手段方法の第一は即ち新聞界諸君の鼓吹によつて民衆を指導することである。

現在中國は民國と稱してゐるが、名實相符合するには、この國家が眞に人民を以て主とすることを必要とし、人民の克く言葉を解し得る者には確實に發言權を有せしむるを要する。斯くしてこそ眞の民國となるが、然らざれば、それは偽物の民國である。我が中國は此の十五年來、徒ら

に民國の名のみあつて毫も民國の實なく、全く一個の偽民國である。此の二三年來、曹錕が更に武力を以て民衆を征服し、中國を統一しようとして考へた。然し彼等の斯かる妄想は、最近に至つて全然失敗に終つた。此の失敗の事實が實現した後こそ、吾人人民にとつては絶好の機會である。吾人人民は當に此の機會を誤り、此の權利を放棄すべきではない。若し吾人がこの權利を放棄するならば、彼等武人の主張が、此の權利を横取りにしてしまふ事は怪しむに足りない。余が今回北方に赴こうと決心したのは、此の機會を失ふまいとの考へからである。抱いてゐる方策は、既に宣言中に發表してある通りであるが、大體を申述べると、國民會議を開催せよ、全國既存の團體を以て基礎として代表を派出し、協力して會議を組織し、會議の席上を公開して全國の重大問題を解決せよ、と云ふにある。中國の人口に就いては從來一樣に四億と稱してゐるが、眞實の戸口調査簿にはいづれも調査が明白に出來てゐない。若し確實な人數を以て基礎とするならば、短時日には到底處理し得ない。短時日に處理し得なければ、此の機會を失してしまふ。吾人國民は若し此の機會を捕へて、意見を述べなければ、即ち主人公たるの權利を放棄するならば、今後かかる機會は又と到來しない。そして他人の行動を怪しむ譯には行かなくなる。余は從來、かかる機會がない故に、計劃を樹て、武力に對する反抗を準備し此の機會を到來せしめ様としてゐたのであ



る。現在は最早や此の機會を與へられたので以前の劃策も皆不用となつた。故に一切を放棄して親ら上海に来て諸君と相見えた次第であり、今日此處に諸君と人民の資格、國民たるの地位よりして會談してゐるのである。記者諸君は、野に在つて社會を指導するもので、正に諸君は、先知先覺の士である。故に先知を以て後知を覺らしめ、先覺を以て後覺を覺らしめ、自己の能力をつくして國民の嚮導たねばならない。余の主張する國民會議を組織する團體は既に宣言の中に列擧したものの合計して九種である。この九種の團體は、みな現在大團體を形成してゐる。其の他、列擧してない團體がなほ頗る多い。例へば新聞界の團體の如きも同様に擧げてない。現在各地の新聞界の團體は、その内容、組織が完全であるか否か、これは諸君が仔細に調査されたい。調査の後、若し極めて完全であると認定されたものは、當然會議に参加し一切の重大事項を討論すべきである。併し新聞界の團體は會議に参加すると否とに拘はらず、みな民衆を指導する責任を負擔して、力を竭して宣傳し、民衆をして自己の地位と、中國が現在求めてゐる平和的統一の重要性を知らしめ、以て自己の責任を遂行せねばならぬ。此の際國民會議を宣傳しても或は一時に國民衆の中に普ねく行き届く事は出来ぬであらうが、併し、知識を有する大きな團體、學會、商會、教育會、それから農團、工團などには宣傳が行き届き得るであらう。諸君がこの時期に於い

て、平和的統一を講ぜんとすれば、それは十三年來全く得難かつた機會である。若し此の機會に尙起つて軍閥を倒さなかつたならば、今回の北方の事變も、平和的統一を促進成就することを得ないで、或は却つて大亂を醸成するかも知れないのである。

此の時に當つて、全國大亂の終結か、それとも平和的統一の開始か、其の何れを取るかは全く吾人國民の意志如何にかかつて居るのである。吾人國民が平和的統一を要求するならば、當に萬衆一心となり、全國の各團體はみな代表を國民會議に派遣参加せしめ、時局の病弊を研究し、匡救の策を討論すべきである。故に参加團體は軍隊を有すると否とに論なく、またそれが如何なる方面の團體たるに關りなく、みな國民會議の決定せる方策に照して行ひ、國民會議の主張に服従するを要する。

余の發表した宣言を完全に實行する爲には、固より種々の計劃準備が必要であるが、併し民衆が國民會議に賛成する様にするには、先づ民衆に國民會議の性質と國民會議の實力とを理解せしめる必要がある。この會議が國家の紛糾せる問題を解決し得るものである以上、諸君は新聞界に在つて當に極力この會議を宣傳し、民衆をして此の會議の性質を理解せしめ、この會議の方策を實行せしむべきである。嘗つての國會がもの役に立たなかつたのは、根本的に議員の選舉方法



が甚しく杜撰であつたのに原因する。當時は只だ人民の代表たらんと願ふ人々が各省各地に於いて運動し、人民は國會の重大なる事を知らぬ爲め、代表者たらんと志す人の學問、道徳如何を問はずに、早速彼を擧げて議員とし、第一回國會が成立したのである。従前の國會は、議員自體が感心出來ぬものであるのに、その上外部から武力の壓迫を蒙つたので、全く職權を行使し得ず、其の後北方政府は法を破つて國會を解散し、國會は何等用ふる所がなかつた。西南政府に於いては護法を宣言し、廣州四川に於いて國會を召集し、以て國法の正統を維持して武力と相對峙した。先年曹錕も亦護法に賛成し議員を北京に召集して開會したが、併しそれ等の議員はみな民利を思はず只管ら私利を追ひ、北京に參集してからも、何一つ行はず、只だ錢さへあればよいと言ふので身を賣つて曹錕を所謂賄選した。現在全國の國民は彼等議員に對して全然失望してゐる。國事を解決するには、此等の議員に依頼する事は出來ぬ。吾人國民自體に頼らねばならぬ。故に余は此の會議を發起したのである。人民は國家現在の地位を明かにし、政治と人民との利害關係を知り、正しい分子を以て中華民國を維持せねばならない。吾人が現在この團體を組織するのに對し、一般の人は或は、有力者が賛成しないで、無力な者が徒らに空言を弄する事になると疑ふかも知れぬ。だが何ぞ知らん、余が既に此の會議を發起した以上、當然余は此の責任を負はねば

ならないのである。有力者に對しては、必ず此の會議の主張に賛成せしめねばならぬ。若し彼等が不賛成ならば、余は之を天下に明らかに告げて、彼等は暴を以て、暴に易へるものであると云ふであらう。現在中國は既に其の名稱を民國と定めた。故に人民を以て主となし、人民をして事に當らしむべきである。若し帝國たらしめんとせば彼等自ら事に當れ。然しその日國號を改めぬならば、彼等が若し其の日國號を改めぬならば、彼等は其の日だけは人民の云ふ事を聽かねばならぬ。かの十萬或は二十萬の兵を有する人も、余は特別の偉人として見る事は出來ない。單に國民の門衛たる巡査として取扱ふべきである。例へば、余の玄關には只今二人の銃を肩にした巡査がゐて、余の家を保護してゐる。上海では凡そ金持ちとか、或は各省の大官たりし人などは、みな巡査に守衛させてゐる。これ等門衛の巡査は皆武器を持つ階級の一人である。彼等の主人が物質上給料さへ澤山給すれば、決して其の巡査が主人に反對して家事を管理する事などは許されなう。この道理に照して見ても、彼の大きな兵權を有する人々の有する任務は、即ち門衛の巡査と同様であつて、彼等は武器を持つ階級であるから、主人は自己の權利を放棄してまで家内の大事を彼等に處理させる事は出來ない。彼等は今度曹錕吳佩孚を倒した。その甚だ功勞ある事は勿論であるが、吾人は只だ會議中に特別な方法を考へて感謝報酬すればよく、會議の經國の大事を彼



等の手に委かせる事は不可能である。彼等は兵を帯びてゐる時は、軍人であるが、兵を帯びない時は、單なる一國民である。國民の資格を以て、會議の席に臨むのなら議論もよろしい。併し若し軍人の資格を以て會議の席上で專横に振舞つて、一同をして公平に討論せしめぬならば、余は直ちに北京に赴き、彼等に愚圖々々せず皇帝となる様にお願する事にする。兵を有する人は、單に巡察と見做すべきで、皇帝と見做す譯には見かぬ。若し眞に彼等自らが皇帝と見做す事を求めるならば、今回の會議は開會されず、國事は依然として解決し得ず、中國は尙平和統一を行ひ得ない。斯くては國家の大事を、暫時彼等をして無茶苦茶に取扱はしめる事になるであらう。今回曹吳を倒したに就いては彼等は頗る功勞者である。吾人國民が、發言して事に當らなければ、彼等が當然之を處理するだらう。従つて大武人は倒したが、却つて更に小武人が發生するであらう。大武人は皇帝たらんとし、小武人は當然覇を稱へるであらう。所謂大いなるは王、小なるは侯で、今後の中國の内亂は當に止る所を知らず、國民の苦痛は一層除去するを得ないだらう。吾人は國民の現在の苦痛を除去し、以て中國の紛亂の源を塞がが爲めに、即ち各團體を集めて一大機關を組織して、武人の主張に對抗し、平和解決法を求めんとするものである。若し武人がなほ頑迷にして悟らぬ時は、吾人國民は只だ彼等の横暴を宣布し、彼等武人の再び相互に倒し合ふ

のを待つべきで、彼等とて必ず悟る日が来るであらう。今回の北方の事變は、武人が武人を倒したので、大きな兵力を有する者も亦打破し得る、武人は恃むに足らざる事を一般野心家も今回の事變によつて教へられた譯で、今後或者はその行を慎むであらう。併し吾人が力争して始めて彼等は姿を消すのである。若し目前に力争する人がなければ、彼等は是非を顧みず、爲さんと欲する所を行ふて憚らず、今後の紛亂は、如何なる點に達するか計り知れないであらう。

今次の北方事變は、結局收束し得るであらうか。今後の中國は果して治か、亂か。平和の出発點か、大亂の出発點か一體いづれであらうか。これを決定するには他の方法はない。之には只だ國民會議を開催して一同によつて解決する一策あるのみである。若し専ら武人の手によつて解決すれば、忽ち彼等は相互に要地を分割して、争鬪は止む所がなく、嘗ての督軍團會議で各武人が巡閱使の分けどりを争つたと同様になるであらう。目前の軍事の收束、全國軍隊を如何に改編し、如何に配置し、如何にして兵士を化して勞働者となすか、道路を開くか等々の問題は將來の會議に於ける條項である。現在重要視すべき大綱は、合せてただ二問題あるのみである。即ち第一は、國內人民の生活は結局如何なる方法によつて救済し得るか、第二は、中國が外國より蒙る種々の壓迫は、如何なる方法によつて排除し得るか、いふ問題である。先づ第一に就いて述べ



よう。諸君は常に中國の人口四億と聞き及ばれて居るだらうが、併し余が各國の學者及び宗教家の行つた精確なる中國人口調査によつて計算した所では、二年前には僅か三億一千萬人、去年は三億足らずである。嘗つて各國の傳導師と學者とが中國の人口調査を行つた節は確に四億を有してゐたのである。では何が故に嘗つて四億餘の人口が近年に到つて減少して三億一千萬人となり、去年は更に三億も缺ける程減少したのであらうか。何が故にこの十數年間に一億を減少し、去年一年間に一千餘萬人を減じたのか。我が人口のかかる減少は、眞に驚くべく惧るべき事である。かくも驚くべく惧るべき事實は、如何なる大影響に由るものであらうか。余の考では、最大の影響は國內の變亂である。今後變亂が停止する事なくば、全國の人口は當然更に減少するであらう。これが極端に推移する時には、眞に亡國民族絶滅の憂がある。これは民生主義中の一大問題である。吾人が中國の前途を亡國民族絶滅に至らざらしむるには、この民生問題を速に解決せねばならぬ。中國近來の人口死亡は、戦争による者のみに限らない。戦争に於ける死亡者數は多くとも十萬を超えない。其餘の大多數の死亡は、みな戰場附近の地に於ける凍死、餓死、或は各種の兵災の影響を受け生活する能はずして遂に死せるのである。吾人が平和的統一によつて亂源を防止せんとするのは、亡國を救済する最も重要な手段である。

第二に就いて述べると、これは對外問題である。中國は外國と通商開始以來、數多の條約を締結したが、それ等の條約に記載されたものは極めて不平等であつた爲、現在の中國は之により實際的平等と自由を喪失し、既に完全なる獨立國ではない。一般人はみな、半植民であると説いて居るが、余から見れば、中國は半植民地にも遙かに及ばないのである。例へば朝鮮は日本の植民地であり、「フィリッピン」は米國の植民地である。中國が若し半植民地ならば理屈から云つて中國は朝鮮、安南、「フィリッピン」と比較して、當然受ける所の待遇はずつと良くなければならぬ。併し事實はどうであらうか。朝鮮は日本の植民地であるから、朝鮮の戴く主人は只だ日本であるのみである。日本が朝鮮の主人公として得る所の權利は勿論頗る大きいが、併し義務を盡す事も亦小さくはない。若し朝鮮に水害、天災が起れば日本は種々の方法をつくして振捐し、常に數百萬圓を費して居り、日本人はみな自ら之れを當然爲すべき事と考へてゐる。米國の「フィリッピン」に對する待遇に至つては、單に急を要する場合災害を救済するのみならず、平常でも極めて多くの人力と金錢とを投じて、教育、交通及び一切の善政を經營してゐる。中國は平常には、社會を改良せんとし、急時には水害天災を救済せんとして、如何なる人々が來つて其の義務を果すであらうか。只數人の布教の慈善家が、天を悲しみ人を憫むの心に基づいて救済するばかりで



ある。若し數十萬を投出す人があれば、到る處に喧傳されて、非常な功德とされてゐる。それに朝鮮や「フィリピン」は戴く主人が皆只だ一國であるから、奴隸となつても一國の主人公の歡心さへ得ればよろしいので、従つて至つて容易であるが、中國の現在戴いてゐる主人公は十數ヶ國に上つてゐる。若し専ら英國人の御機嫌を取結べば、米國日本及び其の他の國々が喜ばない、若し専ら米國と日本の歡心を得れば、英國や其の他の國々が喜ばぬ。俗に云ふ所の「姑の云ふ通りになれば、嫂の御機嫌を損ずる」から、多數の主人の歡心を迎へる事は極めて至難の事である。今日大陸報は「條約の神聖」と題する一篇の論文を掲げてゐる。この論文を發表した原因は、恐らく余が吳淞上陸の際に、或る日本の新聞記者が余に「英國は先生の上海上陸に反對しようとしてゐる」と述べたのに對し「上海は我中國の領土である。我々が此の領土の主人であり、彼等はみな客人である。主人が其の領土内に於いて職權を行使するのだから、如何なる事を行ひたいと考へ様が早速實行して差支へない。余が上陸後租界内に於いて只租界内の普通の規則さへ犯さねば勿論如何なる政治運動を行つても、それは余の自由である」と答へ、其の日本の記者が昨日余の此の言葉を發表した。之れが今日同新聞が斯様な論文を掲げた所以である。諸君は不平等條約とは如何なるものであるかを御存知である。即ち吾人の身實證文である。余は今回北京に赴き、

對外問題に關しては、必ずや内外の一切の不平等條約の撤廢、海關、租界及び領事裁判權の回收を主張せんとする者である。國際間の不平等條約の撤廢は、東亞に於いて二國が既に之れを行つた。一は日本であり、一は暹羅である。東亞には只だ二つの完全なる獨立國あるのみである。即ち日本と暹羅である。日本暹羅が完全に獨立し得た所以は嘗つて外國と締結した不平等條約を撤廢したからである。日本は條約を撤廢するに兵威を以てしたが、暹羅は國が小さく、大きな武力もないので公理を以て各國と力争した。故に國際間に於いて強大なる國家が弱小國家を束縛する不平等條約は、撤廢し得ざるものであり、撤廢し得ざるものではないのである。では吾人が用ひる撤廢方法はどんなものであらう。吾人は常に安南朝鮮は亡國奴であると嘲笑してゐるが、彼等は只だ一國の主人の下に一國の亡國奴となつてゐるのであつて、吾人は數多の國家と不平等條約を締結して十數ヶ國の主人の下に十數ヶ國の亡國奴となつて居るのである。最近新に生れた露國は自ら中露の一切の不平等條約を廢棄し露國が從來中國に於いて有せる特別の權利を還付し、主人公たるの地位を放棄して吾人を奴隸とは認めず、朋友として認めたのである。露國を除いた外に、更に獨逸、「オーストリー」も亦嘗つて中國と締結した不平等を撤廢し、一切の特別權利を還付した。獨逸、「オーストリー」は歐洲戰爭の戰敗國である。彼の歐洲戰爭の戰勝國は、戰敗



國が中國に對する特別權利を放棄しても差支へないことを知つてゐるのに、何が故に之を放棄しないのであるか。彼等は此の問題を研究するに當つては、只だ自らの良心に省みるに過ぎない。故に從來中國を束縛せる不平等條約を少しばかり緩める事を主張する。條約を緩める方法を研究する爲めに「ワシントン」會議が開かれた。然し條約緩和を主張しながら、他の一面では、中國は常に内亂があるから直ちに實行する事は出来ぬと述べる。盡く口先だけの主張である。外人が口先だけで中國を束縛してゐる條約を緩和すると云ふのは、今に始まつた事ではない。例へば庚子の年、北京に義和團の變が起つた後、各國の聯合軍が北京に攻入り、中國政府を追つて、城下の盟をなさしめ様と逼つた際、外國人は北京に於いて、己が意のままに振舞ひ、數多の不平等條約を締結した。當時の英國は世界第一の強國であり、國內は極めて文明であつて、多數の人々は、中國に於ける甚だ野蠻な行動を見て、非常に中國人を氣の毒に感じ、正義より論じて英國の有する特別權利を中國に還付する事を主張した。政府も其の當時には此の主張に賛成したが、併し之には一個の附帶條件を設けた。即ち各國が一致して中國に於ける特別權利を還付するならば、英國も實行すると云ふ。故に英國は一方ではさうした正義の主張に賛成すると共に、更に他方では西班牙、葡萄牙等の數多の小國をして反對せしめ、其の結果互に責任をなすり合ひ、今日

に至るも實行を見るを得ないのである。之れは最早二十年以前の事である。外國人は二十年以前に於いて、かかる動機を有したのであるが、吾人が力争 かなかつたので彼等は自然に放擲してしまつたのである。中國の一般普通人の考では、外國人が不平等條約を撤廢するには何としても中國が有力になるのが必要である。若し、中國が一國だけ有力になれぬならば、それ等の舊條約も一日だけ撤廢が遅れると考へてゐる。此の道理は正鵠を得てゐない。外國に舊條約を撤廢し得るか得ぬかを問はんとする事は即ち吾人に力争する決心有りや無しやを問ふ事である。若し諸君一同に力争する決心さへ有れば、彼の條約は撤廢し得るのである。最近の「ワシントン」會議の如きは、外人が緩和を主張したものであり、嘗つての「マクドナルド」の條約改訂の如きも之れ亦外國人が主張し實行したものであるが、吾人中國人は力争せず、みな之れを不要としたのである。若し、全國國民が一致して要求したなら、斯かる目的は必ずや達成し得べきものである。

中國現在の禍亂の根本は、軍閥と、之れを援助する帝國主義である。余は今回、中國問題を解決する爲め國民會議の席上で第一には軍閥を打破し、第二には軍閥を援助する帝國主義を打破しようと思ふ。此の二つを打破してこそ、中國は始めて平和的統一を實現し得、永久に安らげく治



まつて行き得るのである。軍閥の災禍は人々の深く知る所である。帝國主義の災禍に至つては中國に於いては一言にして盡し難い。例へば通商に就いて見れば、元來之れは双方の利であるけれども、併し中國と外國との通商は、毎年輸入品が極めて多く輸出品は極めて少く、輸出入額を相殺する事が出来ぬ。最近の海關の報告によれば、輸入品が輸出品に超過すること五億元である。之れはつまり中國の五億の損失である。換言すれば中國は通商によつて毎年外國に五億を進貢して居るのである。吾人の住居してゐる租界に就いて云へば、租界は何人の主權に屬するかと云ふと、みな外國人の經營管理に歸して居る。中國人が租界内に居住して、毎日納税、商品購買及び其他種々の保護費として支拂ふ金は尠からぬものである。更に中國内地に於いて外國品が賣捌れつつある状態に就いて云ふと、外國品は輸入されると先づ百分の五の海關税を、更に内地に送るには二分五厘の釐金を課せられ、七分五厘を課せらるれば其の後は、如何なる地方に運搬されて賣られ様とも二度と課税されず、みな賣捌かれ得るのである。若し之が内地品であつたならば、上海から四川省の重慶に持つて行つて賣るには、先づ上海に於いて百分の五の海關税を課せられ、それから經過する鎮江、南京、蕪湖、安慶、九江、漢口、沙市、宜昌、夔府等の地には總てで十餘ヶ所の關下釐金税關があり、一つの釐金税關を過ぐる毎に徴收される釐金を合算すれば、

ば、此等多數の釐金税關を通過する爲に商人が納めねばならぬ税額は少々なことではない。中國商人には、かかる重税を免れんが爲めに、外國人の名を借りて運賃を支拂ひ、外國品であると稱して七分五厘の税で濟ませるものが澤山ある。中國商人が外國に請うて其の品物を保護して貰ふ此の行動は、宛かも外國人に運送護衛を請ふのと同じである。外國が中國を壓迫するには、經濟勢力を利用して直接に干渉するもの以外に、更に種々の方法を使用し、間接に中國人の金を吸収してしまふ。中國の最大の損失は輸入超過の五億元のみではない。吾人は種々なる大損失を蒙つてゐるのである。故に外國人は其の名を飾つて通商とは云ふが、事實から云へば、少しも強奪と異なる所がないのである。更に輸入綿布綿糸に就いて見るに、歐洲戰爭當時は、此の商賣は中國商人の最も儲けた商賣であつたが、當時の儲けは、外國品が輸入されなかつた爲め外國品の競争がなかつたからであつた。然るに今回吳淞口に來てみると、沿道から見える綿布綿糸工場の煙突の大多數からは煙が上つてゐない。それで怪しんで上海から來た出迎人に質ねた處其の誰もが、それ等の工場は此の數年來缺損続きで、早くから仕事を停止してゐる。其の原因は輸入綿糸布との競争によつて、上海に於ける綿糸布工場はみな利益を上げる事が出来ぬからである、と口を揃へて云つた。此の時、若し海關が我が中國人の管理に歸してゐるならば、吾人は早速、輸入綿糸布



に重税を課する事が出来る。若し中國の綿布が、每匹五元ならば、吾人は輸入綿布に課税して其の價格を五元以上に騰貴せしめる。尠くとも中國の綿布と價格を同一ならしめる。かくてこそ中國の綿布は輸入綿布と競争し得るのである。かかる課税方法が保護税法であり、本國の物貨を保護するのに用ひられるものである。中國の現在には外國の壓迫を受けて居る爲め、此種の保護税法を施行する事を得ない。故に上海紡績工場製造の綿糸布は輸入綿糸布と競争し得ず、缺損を招かねばならぬ。紡績工場は此の爲め、操業を休止する。操業を休止すれば労働者は自然失業する。紡績事業の極盛時代には、此種の工場の上海内に於ける労働者は少くとも十萬人に達してゐたが、此の十萬人は現在休業のため失業し、生計を立つる方法がなく、大部分は餓死の外ない。此等の餓死する労働者は、間接に不平等條約と國際經濟の壓迫の影響を受けてゐるのである。中國革命の當初は、外國人は内情を知らずに、中國中が革命を理解するからには、文化程度は甚だ高いに相違ない、輕視すべきではないと考へ、それで中國の統一に賛成したのであるが、其の後追々内情を調査するに及んで、中國の官僚軍閥がいづれも錢を愛して國家を顧みざる事を知り、軍閥を援助して、軍閥に金を貸し與へた。軍閥は多額の金錢を有するに至つて、民の志を摧破して惡として爲さざるはなく、袁世凱の如きは、多額の外債を借りて、革命黨を壓殺して皇帝になつた。又吳佩孚も多額の外債によつて、専ら武力を使用し民衆を壓服したのである。吳佩孚が今回山海關に於ける戰敗後、天津に退いたのは窮途の末路であつて、國民軍は本來彼等を一網打盡にして戰事を收束すべきであつた。併し某國人は吳佩孚に對して「楊子江は吾人の勢力範圍である。若し君があそこまで退却するなら吾人は君を援助しよう。君はまだまだ有望だから、更に揚子江岸まで退却するがよい」と説いた。余は此の話は造り話ではない。確とした證據がある。諸君が若し信用しないのなら、數ヶ月前の某國人の香港に於ける言論を見給へ。吹きも吹いて、陳廉伯は「ワシントン」であるとか、廣東には久しからずして「フアシスト」政府が発生するだらうとか、彼等は總て新聞紙上で挑戦し、商團をして政府を打たしめ様とし、商團が政府を打たなければ、政府は直に共産を實行するであらうとか、云つたものである。最近は更に陳廉伯を援けて彼等の銀行の引受で香港に於いて二百萬元の債券を發行した。こうした行動の盡くは、中國の内亂を引延ばすものである。彼等はこうして中間に在つて利益を貪るのである。かかる帝國主義が依然として打倒されないならば、北にあつて吳佩孚を援助し、南に在つて陳廉伯を援助するのみではない、吳佩孚、陳廉伯以外の人をも皆援助し、中國の禍亂は斯くて永遠に終熄する時はないであらう。外國人は初めて中國を敗つて通商を開始して以來、中國は頗る野蠻で役に立たぬと考へ、自

も多額の外債によつて、専ら武力を使用し民衆を壓服したのである。吳佩孚が今回山海關に於ける戰敗後、天津に退いたのは窮途の末路であつて、國民軍は本來彼等を一網打盡にして戰事を收束すべきであつた。併し某國人は吳佩孚に對して「楊子江は吾人の勢力範圍である。若し君があそこまで退却するなら吾人は君を援助しよう。君はまだまだ有望だから、更に揚子江岸まで退却するがよい」と説いた。余は此の話は造り話ではない。確とした證據がある。諸君が若し信用しないのなら、數ヶ月前の某國人の香港に於ける言論を見給へ。吹きも吹いて、陳廉伯は「ワシントン」であるとか、廣東には久しからずして「フアシスト」政府が発生するだらうとか、彼等は總て新聞紙上で挑戦し、商團をして政府を打たしめ様とし、商團が政府を打たなければ、政府は直に共産を實行するであらうとか、云つたものである。最近は更に陳廉伯を援けて彼等の銀行の引受で香港に於いて二百萬元の債券を發行した。こうした行動の盡くは、中國の内亂を引延ばすものである。彼等はこうして中間に在つて利益を貪るのである。かかる帝國主義が依然として打倒されないならば、北にあつて吳佩孚を援助し、南に在つて陳廉伯を援助するのみではない、吳佩孚、陳廉伯以外の人をも皆援助し、中國の禍亂は斯くて永遠に終熄する時はないであらう。外國人は初めて中國を敗つて通商を開始して以來、中國は頗る野蠻で役に立たぬと考へ、自



ら中國を分割しようと企てた。次で義和團の變に遭遇し中國人は遂に肉體を以て外國人と闘ひ、外國は大砲銃器を以て中國を打ち敗つたが、併し中國國民の元氣は中々侮り難い事を知り、一時武力を以て中國を分割しても其の後容易な事では中國を管理し得ないと考へるに至つた。故に現在の方針を變更して、中國人を以て中國を分割せんと企ててゐる。例へば南方では陳廉伯、北方では吳佩孚を利用するが如きは之である。

吾人が今後中國問題を解決し、一勞を以て永逸を求むるならば、同時に二個の禍を斷ち切るを要する。此の二個の禍根とは、一は軍閥であり、他の一は帝國主義である。此の二つは吾人人民の福利と永遠に兩立し能はざるものである。軍閥は現在既に吾人によつて打破された。残る所はただ帝國主義あるのみである。帝國主義を打破するには、全國一致して國民會議に於いて解決しなければならぬ。諸君は新聞記者であり、國民發言の領袖であるから、必ず先づ國民會議を提唱すべきである。國民會議を開催するを得れば、中國の變亂も終止し得るが、若し開催し得ぬならば、今後は更に一層亂れて大亂の息まる時は無いであらう。中國に大亂ある毎に余は必ず首として其の衝に當つた。例へば従前の袁世凱、現在の吳佩孚は皆身に雄兵を擁して、氣一世を蓋ふ人物であるが、余は國民に先立つて彼等と對抗してきた。今度、吳佩孚が倒るるや、余は又一ケ

年間に互つて經營せる所を放棄して單身北方に赴き、平和的統一の先導たらんとしてゐる。余が今回北方に赴いて主張せんとする方策は、必ず彼等の利益と衝突する。諸君は、余が頗る危険に曝らされてゐる事を察知し得られるであらう。併し、余は全國の同胞を救ひ、平和的統一を求め、國民會議を開かんとして、かかる冒險を敢えてするのである。諸君國民たる者は、どうか余の後楯となつて頂きたい。今後中國を統一し得るや否や、平和的統一を爲し得るや、否やは、此の國民會議を開催し得るや否やに在る。故に中國の前途に一線を劃すると否とは此の一舉に繫つてゐる。若し此の會議を開催するを得て、圓滿なる結果を得れば、それこそ眞の平和的統一である。そして全國人民は共和の幸福を享受する事が出来るであらう。余の三民主義は實行されて、中國は民有、民治、民享の國家となるであらう。斯かる國家が造られるならば、それは全國人民の子々孫々萬世に及ぶ幸福である。余は此の責任を負はんとするが故に、國民會議を主張するものである。余が、今日新聞記者諸君を招待したのは、此の機會を藉りて、諸君に此の責任を分擔して戴いて、國民會議に賛成し、國民會議を鼓吹せられんことを請はんが爲めである。



## 中國内亂の原因

— 民國十三年十一月二十五日、神戸東方飯店に於ける東京大阪  
神戸國民黨歡迎會にて —

同志諸君、我々の國民黨は革命黨である。民國の名は、革命黨が滿清を覆滅した後、始めて出来たものである。只惜い哉、十三年來徒らに民國の名のみ有つて、其實が無い。斯の如く名實符合せざることは、我々の革命の不成功を物語るものである。而して革命の成功せざる原因は、革命の勢力が非常に強大だからである。即ち此等の強大なる反革命勢力が革命に抵抗するが爲に、革命が容易に成功し得ないのである。然らば革命とは究極するに如何なるものであるか。それは進歩を求める事なのである。此の進歩を求める力は如何なる民族、如何なる國家に論無く、總て頗る強大なものである。従つて革命の力は古今中外を論ぜず、如何なる國に於ても一度發動すれば行く處まで行き、成功する迄は決して止らないものであつて、十三年は愚か二十三年、三十三年、四十三年、五十三年と幾年経つても、革命が一日成功しなければ革命勢力も一日だけ阻止し得ないものとなり、革命が完全に成功して後始めて革命勢力も停止するものである。故に佛蘭西革命に於ても八十年を経て大成功した後、漸く革命勢力は停止し、佛蘭西は安定したのである。

我々中國の革命は十三年來常に反革命勢力に阻止されて、徹底的成功をなし得ない。此の反革命勢力こそは即ち軍閥なのである。然らば軍閥に何が故に斯る大勢力があるかと言ふに、彼等の背後には帝國主義の援助があるからである。之れ迄此種勢力を打破すべきであることは誰も知らなかつた。だからこそ革命は十三年來、今に到る迄成功しなかつたのである。

今度の北京に於ける、政治的大變化の一部は、革命黨の力に依つたものである。革命黨は何故に北京に迄出かけて行つて、革命をしなければならなかつた。十三年前の革命は總て各省に於て行はれたものであるが、之に就て二三年前數人の同志は、我々の今後の革命を従前通り各省に於て進行せしめてゐたのでは、自然勢力が弱くなるから、革命は中央に於て行はなければならぬ。斯くて始めて大勢力となり得るであらうとの説をなすに到つた。斯る理由から此等數人の同志が北京に出かけて行つたのである。其後今回の變化の起る六ヶ月前、彼等は余に、中央の革命は頗る有望であつて、北京の軍人で賛成する者も非常に多いから、遠からず發動するであらうとの報告をなし來つた。そして余に廣東を放棄して天津に來つて時を俟ち、中央の革命に参加すべきことを求め來つた。當時余は漫然と考へ彼等の言葉を些して信用もしてゐなかつたので、實際に事を擧げたら行くことにしようと思つて置いた。其後江浙戦争が起るや彼等の催促は一層急とな



り、余が必ず廣東を放棄して急ぎ天津に赴くべきことを主張した。當時余は韶關で北伐軍の江西出發を督率してゐたから、北伐軍が完全に廣東を離れて江西に到着してから、廣州を離れ様と考へてゐた。若し余の廣東を離れることが早すぎれば、北伐軍の進行が困難となつたであらう。然るに江浙戦争に變化が起つてからは、江西の北伐軍に賛成してゐた同志も敢て歸來せず、之が爲め韶關に在つた北伐軍にも動搖を來し、従つて迅速に進行することが出来なくなり、次で十日ならずして北京に今回の變化が起つた。一般新聞紙も其事を傳へ、同志からの報告も同時に到着した。彼等が既に此の舉に出でた以上、余としては先約も有ることとて北京に行かざるを得ないこととなつた。事變の當初に於ける國民軍の行動は、全く革命的色彩を帯びたものであつたが、其後余が韶關から廣州に行き、廣州から更に上海に到つて北京の情況を觀察したところに據れば、一日は一日と形勢は推移し、何等かの別種の勢力の牽制と干渉を受けつつあるものの如く、革命運動とは別種のものであるかの如くに思はるるに至つた。

更に上海滞在數日の後に於ける北京の情勢は一層之が爲に變化したが、而も尙多數の人から余の北上せんことを督促し來つたし、余も亦北京に到つて近來の情況を看たく思つたので竟に北上を決した。然るに上海から直接天津に行く船は、數日以内に出帆しないばかりか、十五日以内に出

る船さへ無かつたので、道を繞つて日本の神戸で船待ちをする方が上海で待つよりも早い様なことなつた。夫れに途中日本に立寄れば日本の舊友に逢ふことも出来るし、最近日本國民の中國に對する感情をも觀察出来ると思つたので、此の道をとることにしたのである。北京の今回の變化に至つては、完全な革命的行動ではないが、彼等が余を歓迎してゐる以上、余としては宣傳の絶好機會だと考へられるのである。

近時各方面の人民は皆中國の速かなる統一と平和とを望んでゐる。此の和平統一のことは數年前から主張され初めたものであるが、多數軍閥が悉く之に反對した爲に此種主張は實行し得なかつた。余が今回北京に去つて能く和平統一の實を擧げ得るか否かは未知の事に屬するが、只、今後眞の和平統一を實現せんとせば、軍閥を絶滅し、軍閥と結托して惡事を爲す帝國主義を打倒することが必要であることだけは言へる。而して帝國主義を打破するには、須く中外一切の不平等條約を廢除しなければならぬ。余が今回北京に行く任務も、中外の不平等條約の廢除にあるのである。

余が此度日本に立寄つたに付ては、上海を出發する時から、長崎神戸と各地で非常に多數の日本の新聞記者が余の處に來訪し、余の中國の時局に對する意見の發表を求めた。之に對し余は常



に中國の和平統一を要すること、中國と諸外國間に締結されてゐる不平等條約の廢除を要することを答へた。今余は神戸で、日本全國の新聞を讀む暇が無いから、日本國民が余の此の主張に對して如何なる感想を有してゐるか、同情してゐるか、反對してゐるかは、知ることが出来ないが、此の兩三日來余と會つた日本の舊友達について見れば、彼等は全部非常に余に同情を表してゐる。余の此等數人の朋友は、日本の輿論を代表することは出来ないかも知れないが、日本に於て余の出張を宣傳する任務を負ふことだけは出来るであらう。

中國の和平統一に、何が爲に余は不平等條約の撤廢を要求するか、和平統一は内政問題であり條約廢棄は外交問題である。内政問題を説くに當つて、何が爲に外交問題に涉らなければならぬか。現在中國内の諸勢力中、革命黨程の勢力を有するものは無く、現在の中國で最大なる勢力を有するのは革命黨である。若し諸君が此の點不明瞭であるならば、吳佩孚の經歷を調べて見るがよい。吳佩孚は袁世凱以後に於ける最大の軍閥である。吳佩孚の軍閥は如何にして起つたかと言ふと、民國五六年以前に於ては、彼は一個無名の秀才で、誰も彼の名を知つてゐる者は無かつた。其の後兵を率ゐて湖南の衡州に至つて南方と戦つてゐた頃も、まだ一個の旅長に過ぎなかつた。當時南方政府は總裁制で、本總理も幾人かの一人であつた。で、我々南方政府は吳佩孚に

兵を用ふるを要せざることを教へ、彼に六十萬元を與へ、北方政府は國を賣るものであるから、兵を返して北方を討つべきことを教へた。彼は我々南方政府の多額の軍資金を得るや、軍を武漢に返し、洛陽を攻めて之を取り、更に段祺瑞の北京政府を攻撃し、始めて余等に電報を打ち、次いで武力を用ひて竟に段祺瑞を打倒した。然るに彼は段祺瑞を倒した後は口では民黨と自稱し、北京政府の腐敗と、國民會議の開催による國事の解決とを唱へ乍ら、心では第二の袁世凱たらんことを考へてゐた。外國人は彼の此の種の心理を洞察して之を利用せんとし、奇貨居く可しと爲して事毎に彼を幫助し、其の間に自己の利を計らんとした。斯の如く外國人の援助を得た吳佩孚は天下何事か成らざるもの有らんやとなし、之が爲に過度に大膽となり、武力を以て中國に横行し、竟に全國人民は皆其の居に安んじ、業を樂しみ得ざるに至つた。茲に於て我々革命黨は國を救ひ民を救はんとし、各方面の實力を有する人々と聯絡し、共同して彼を打倒したのである。以上の事を聽けば、諸君は吳佩孚は其の成功、失敗共に我々民黨の力によつたものであることを知り得るであらう。之に依つても革命黨の勢力が吳佩孚の勢力よりも大であることが解る。彼吳佩孚は此の數年軍閥を以て自任し、常に武力を以て民衆を壓迫した。そして我々民黨も彼の壓迫を受けねばならなかつた。原因は、吳佩孚が外力たる帝國主義の幫助を受けてゐたからである。故



に現在の中國に於ては、帝國主義の勢力のみが、革命黨よりも強大なのである。我々國民黨が今後中國に重ねて軍閥が発生せず、國民が自由に國事を解決し得る様な、永久の和平統一を望むならば、中國を擾亂せしむる帝國主義の活動を不可能ならしめ、更に此等の中國に於ける帝國主義を消滅せしめねばならない。斯様に中國を擾亂する帝國主義を消滅せしむる必要がある爲に、内政問題を論ずるに當つては、外交問題に迄論及し、以て一切の不平等條約を廢棄しなければならぬのである。

中國在住の外國人中、宣教師と商賣人とは皆分に安んじ己れを守つてゐるが、分に安んぜざる者に少數の無頼の徒が有る。此等の無頼漢は他の國では生活の方法無き者であるが、一度中國に來て數年を経過し、中國の内情が稍々解る様になれば、そこで彼等は官僚と結び、軍閥に迎合し、軍閥と結托することに成功した曉には、惡として爲さざる無きに至り、不平等條約中に記載してない事迄も彼等は一切を請負ふて之を爲し、小皇帝も同様に振舞ふに至るのである。だから此の數年來どの軍閥が事を爲す際にも、總て其の背後には幾つかの外國政客の援助があつた。廣州商團の如きも、銃を購入して自衛し、從來頗る自重し、政府に對する態度も其の分に安んじたものであつた。之に對し廣州政府も其の國民黨であると否とを問はず、一般商團同様に取扱つてゐた。

そして其の間何等の事故も無く、至つて平穩であつたが、二三年來國民黨に好感を有せず、國民黨政府の發展を願はない數人の英國人が、陳廉伯を煽動し、商團全體に働きかけ、廣州内部に在つて國民黨政府に反對の行動を採るに至つた。陳廉伯は元來滙豐銀行の仲買人であつて、分に安んずる一個の商人であり、何等の野心をも有してゐなかつたのであるが、彼が滙豐銀行の仲買人であつた爲に、反國民黨の英國人等と相識り、竟に此等の英國人達は彼に反政府運動に従事することを慫慂するに至つた。即ち英人等の言ふには、彼が能く商團に對して此の種運動をなして政府に反對するに於ては、英國は彼をして商人政府を組織せしむべく援助するであらう。そうすれば陳廉伯は中國の「ワシントン」たり得るであらうと。陳は最初野心は無かつたが、英國人の斯の如き煽動を受け、彼等の援助を得てからは、自分自身沙面に住んで、英國人の保護を受け、其の安全なるを知るや一層大膽となり、野心をも抱くに至つた。即ち沙面に住んで本黨の政府に對し種々なる反抗運動を起すに至つたのである。然し當初其の同志は數人に過ぎなかつたし、其の懐柔した商團の兵士も四五十人に過ぎず、羽毛未だ豊滿ならずと云つた状態で、廣州の革命政府に反抗せんとしても如何とも爲し得ない状態であつた。茲に於て彼は又英人の意見を採つて、更に外國から武器を購入し、別に軍隊を組織しようとした。そして彼の購入した一口の武器は「ハ



「バート」と呼ばれる一隻の「デンマーク」船に依つて廣州に運送された。然し同船は廣州着と同時に我政府の捜索に會つた。茲に於て政府は此等の武器の來歴を調査した結果、始めて此等の武器が商團の名義によつて輸送されたものであることを知つた。又同船入港の五日前、陳廉伯は商團の名義を用ひて一枚の貨物輸入許可證を政府から入手してゐる。然し陳廉伯は其の許可證を入手する際、四十日後になつて始めて效力を發生し、更に五十日間有效なるべきことを聲明した。彼が斯る聲明をなした理由は「デンマーク」船による前記の武器は、已にどうやら密輸入の見當がつき、許可證も必要ではない様に思はれたので、第二の武器輸入に備へんとしたのである。其の後果せる哉第二回目の武器が歐洲から積出されたが、初回の口が廣州で失敗した爲何處に輸送して行つたらよいか解らなくなつて了つた。だから陳廉伯は許可證の有効期間を九十日後まで延長したのである。ところで前記武器の廣州到着と許可證の日附との差が僅に五日だつたので茲に大なる疑問が生じ、更に調査した結果、此の汽船は「デンマーク」商人の所有に屬するものであり、廣州駐紮の「デンマーク」領事は一英國人が之を代理し、而も其の領事代理の英國人も不在であつた爲に、我々は英國領事と交渉することになつた。英國領事と我々との私交は至つて親密であつたので、陳廉伯の武器購入の経緯に付て彼英國領事の言ふには「諸君達は未だに陳廉伯

の行動を知らないのか。香港と上海の外國新聞は、ずつと以前から陳廉伯が商團を動して革命政府に反對せんとしてゐる旨を報道してゐる。あの外國新聞の記者に氣がつかかなかつたのか。正直なところ數人の英國人が陳に武器を購入し、軍隊を練つて廣州政府に反對すべきことを教へたのであつて、之は第一回の武器輸入であるが、まだまだ二回三回と行はれるであらう。此等の英國人の事は、自分から英國公使に報告して懲罰するから、諸君等は商團の方を始末されたがよからう」とのことであつた。余は陳廉伯について此等の詳細なる事實を聞いた後、其の輸入武器を全部抑留した。當時大義に明るい多くの商團の人達は、政府の處置に對して何等異議は無かつたが陳廉伯は沙面に在つて英國人に唆かされ、一般の無智な商團員を煽動して、抑留武器の返還を政府に要求し、若し政府が彼等の要求を許さなければ、廣州全體の商人を煽動し同盟閉店をして政府を排斥せんとし、某日千餘名の商團員が軍服を着、整列して河南の大本營に請願に押掛け、若し武器を返還せねば、翌日全市の同盟閉店をなさんとした。其時余は恰度大本營に居たので自ら其の千餘名の商團員を接見し、彼等に商團の武器購入許可證の日附は、陳廉伯が已に要求した通り、四十日後に始めて有效となるのであるが、今度輸入された武器は許可證發給後五日目に廣州に到着してゐる。此の點に第一疑ひがある。次に輸入された銃の數であるが、許可證記載の長短



銃の數量と、今回輸入された銃の數とは符合しない。此の點に第二の疑ひが存する。此の二つの疑問が存する以上、之等の武器は私用か又は他人の依頼によつて密輸入したものと考へられる。且つ英國領事の余に語つた所によれば陳廉伯は商團を動かさし、此の外にも武器を買入れ、軍隊を練つて、政府に反對する態度をとらんとしつゝあるとのである、等のことを彼等に詳細に告げ、一時間余に互つて演説した。彼等は余の言を聞いて一切の事情が明白となり、非常に満足して翌日も何等事を起すに到らなかつた。其の後余は陳廉伯の罪狀を明細に調査した結果、總べては水が落ちて石の出るが如くに明らかとなるに至つた。余は此等の事情を商團に告げたが、其の手續としては一切公文書を用ひず皆私信をもつてした。斯くて余は商團の各代表に陳の反政府的詭謀は既に悉く明らかとなつたが、諸君が若し彼の計畫に與らないならば余としても何等責めないが、若し彼の計畫に加擔するならば必ず處罰し懲戒するであらうと語つた。其の結果多數の陳の同志は商團全部を動かさし、政府に寛大なる態度をとつて、成るべく多數の連類者を出さない様にとの要求を提出した。茲に於て政府は彼等の要求を容れ、一人の連累者も、一個の同謀者をも罰せないことにした。所が陳廉伯は政府の態度の軟弱なのを見て、又もや商人の同盟閉店を唆かし重ねて政府に抑留武器の返還を要求した。政府は彼等の要求を許容し、許可證面記載の數量だけ

の武器を返還し、國慶日に四千挺の長短銃と二十萬發の彈丸とを返し與へた。陳廉伯等は政府が一步一步讓歩するのを見て、欺瞞し易しとなし、國慶日の武器回収の時を見計つて、商團を煽動して政府に對する武装示威をなし、發砲して雙十節慶祝中の多數の農團軍、工團軍及文武學生を斃した。陳は此日の此時に反亂を起す計畫で、豫め西關に三千の土匪を招集し、此等の土匪を假りに商團員と言ふことにしてあつたのである。所が最も奇怪なことは、此等の土匪が單に人を殺したばかりでなく、死人の五臟を割り頭足を斷ち、屍體を寸斷して之を行人に示したことで、實に慘虐無道の極みであつた。當時政府は何等商團の處分をしなかつた爲に、其後商團の不良分子等の目には全く政府無く、唯陳廉伯の命にのみ之れ聽き、廣州全市の商團の武器を悉く西關に集め、其地に高架橋をつくり、砲臺を築き、鐵柵を以て各通路を閉鎖し、儼然廣州市を二分し、城内は政府の勢力範圍、西關は商團の勢力範圍とし、商團の勢力範圍内に於ては、悉く商團より發令施行し、其の範圍内に於ては政府の警察力は行はれず、政府關係の者が通つてゐて、若し彼等から知らるれば、直ちに生命の危険が有る程であつた。従つて當時の西關と城内とは完全に一個の交戦區域をなしてゐた。其頃英人は香港の英字新聞紙上に挑戰的記事を載せ、廣州の實勢力は已に商團の手に渡り、政府には其の職權を行施する力量がない。政府役員は間もなく逃亡するで



あらう等の事を述べてゐた。他方政府は事實のところ講和を策しつつあつたのであるが、西關の土匪達は頑強に抵抗し、政府が如何に和を講ぜんとしても効果が無かつた。次で十月十四日の晩に到り、政府の各機關所在地附近の高い質屋の家を悉く數十組の敵兵が占據し、高處から見下して政府に發砲し、一晩中夜明迄砲火を浴せた。夜明になつて始めて政府も自衛の見地から之に應戦した。政府が應戦し始めるや、稍々事理に明るい商團の分子は、休戦によつて市場の糜爛を免れしむべきを願つた。然るに陳廉伯と其の同志とは西關一帶に無根の噂を撒布し、東江の陳炯明から間もなく援兵が來るとか、白鵝潭の英國軍艦が直ちに砲撃を開始し、政府を追拂ふだらうから、商團は今暫く抵抗すれば勝利を得るだらうとか、そう言つた様なことを宣傳した。

商團事變發生の十數日前、英國領事が余に、白鵝潭の英國軍艦が已に海軍提督の命令を奉じ、若し廣州政府が西關を砲撃すれば、英國軍艦は廣州政府を砲撃せんとしてゐると語つた。此の通知を得た余は最も正當と思はるる宣言をなし、英國政府と世界各國とに通知する所があつた。其結果英國政府は自己に理無きを知り、自己の海軍提督を制止した。之が爲に其後政府と商團との衝突の際も、英國軍艦は最後迄中立を守つた。

而して相互衝突後四時間を経ずして各武装商團は戈をおさめ戦は終結した。然るに香港の英國

新聞は此事をも廣州政府攻撃の好材料となし、流言蜚語を捏造し、廣東政府を半厘の價値無き迄に罵倒した。事實廣州政府と商團との間は元々相安無事、何等の問題も無つたのであるが、數人の英國人の無頼の徒が離間中傷した爲に、竟に不和を醸すに至つたのである。不和となつた後も平和手段に依つて事件を結着せしめ得たのであるが、矢張り此等の英國の無頼漢達が中間に在つて煽動挑撥した爲に、竟に殺人の慘事を見るに至つたのである。而も商團は英國人に欺瞞されたのである。諸君は信ぜられないならば、數ヶ月前の香港の英字新聞を見るがよい、どれもこれも、陳廉伯は中國の「ワシントン」である、久しからずして廣州には商人政府が成立するであらう、と言つた様な論旨が述べてある。之を以て見ても英國人の心理を知ることが出来る。幸にして今回の陳廉伯と英人との陰謀は失敗に終つたが、若し之が成功してゐたならば、廣東は第二の印度となつたであらう。我が廣東省が今回滅亡しなかつたのは天佑であるが、之が爲に北伐軍の進行を阻止され、廣州の市場を攪亂され、惹いては全省の擾亂を見るに至つた。之等は皆外國人が廣東で暗中飛躍した結果である。全國について見ても之と同様であつて、之が爲に我々は外國人の勢力が中國を攪亂することを妨ぎ、先づ彼等が中國に於て活動する力を無くすることが必要であり、又之が爲には一切の不平等條約を廢棄しなければならぬのである。一切の不平等條約を廢



棄して後始めて租界、海關及び裁判權を回收することが出来、中國は始めて外國の羈絆を脱し得て我々本然の自由を享受し得るに至るのである。

卑近な道理を以て説明すれば、諸君も承知の彼の不平等條約とは要するに如何なるものであるか。之を簡単に言へば、我々國民の賣身契約なのである。即ち中國は、外國と權利を喪失する様な幾多の條約を結んだが、之れは外國人が我々國民の爲に代つて賣身契約の證書を書いたも同然で、中國人は一國ならず已に十數國に身を賣つてゐるのである。國民が身を賣れば、國家の地位は如何に墮落するであらうか。多くの人々は中國の現状は半植民地であると言つてゐる。然し乍ら全植民地であるとは言はない。斯る見解を有する人は、以て自らを慰めてゐる人か、然らざれば中國の現状を知らない人である。ところで中國が半植民的であると言へば、中國の地位は全植民地に比較して高い筈であるが、余の見るところでは現在の中國は半植民地でもなく全植民地でもない。中國の地位は全植民地よりも更に低い。此の道理は容易に知り得る。香港は完全に英國の所有となり英國人が管理してゐるから、之は英國の全植民地である。上海は中國の領土であるが暫時外國の租借地となつてゐるから、之は半植民地と言ひ得る。上記の名稱に就いて言へば、香港は全植民地、上海は半植民地であつて、上海では中國人の享有する權利は香港に於けるよりも高い筈

である。然らば事實はどうであるか。香港は英國に割讓し、英國政府は總督を派し來つて之を管理してゐる。そして總督は香港を管理する爲に香港政廳を設け、又別に一個の立法局を設けて、香港の土地人民管理に關する有らゆる法律は、總て此の立法局で頒布してゐる。ところで、其の立法局内には數人の中國人がゐる。而も此等の中國人は立法局内に於て非常に大なる發言權を有し、法律を議訂し、香港を管理することが出来るのである。上海は我々中國の領土であり、租界内には多數の中國人が商賣をして居り、納税するのも中國人であり、勞働するのも中國人である。而も上海の工部局内に中國人で大なる發言權を有する者は一人もゐないではないか。中國人は上海の工部局内に在つて法律を議訂し、上海を管理することは出来ないではないか。我々こそ上海の主人であり、彼等は皆外國から來た客人なのである。而も其の客人が却つて主人の如く振舞ひ、中國の領土内に一個の政府を組織して我々の上に臨み、之に對して我々中國人は何等過問する所なく、政府も之を管理し得ないのである。だから香港と上海とを比較して、どちらに住んでゐる中國人の方がより高い權利を享有してゐるかと言ふに、それは寧ろ香港の方が高い。此點上海ばかりでなく、外國人の居住する程の處では何處でも、彼等外人はしたい放題のことをしてゐる。従つて現在の中國の地位は全植民地よりも一層低級なのである。余は斯る状態に對して一個の新



名稱を創案して中國は次植民地なりと呼んでゐる。重ねて全植民地について述べれば、一個の殖民地の人民は當該宗主國の奴隸であるが、多少の權利を享有することは出来る。然るに我々は現在十數ヶ國の奴隸であるが、何等言ふべき權利を有してゐない。濠洲、「カナダ」、南阿聯邦の如きは皆英國の植民地であるが、彼等の建ててゐる政府は母國から新に渡來した者に對しては總て之を検査する權利を有し、母國から輸入して來た貨物に對しても自由に徵稅し得る權利を有してゐる。そして英國人も之れ等の植民地に住んでゐる間は、普通の賣買取引は出来るが、紙幣を濫發し、植民地の金融を攪亂する様なことは出来ない。そして英國人が植民地で罪を犯した場合は、植民地の法廷で裁判を受けなければならないし、英本國が之れが爲に特別の裁判をなすことは出来ない。然るに英國人が中國の港にやつて來た場合、中國政府に之れを検査する權利があるかどうか。英國貨物が中國に輸入された場合、中國では税關は此等の貨物に自由に課稅することが出来るかどうか。更に又英國政府は中國の各開港場に銀行を設けて紙幣を濫發してゐるが、中國政府に之れを管理し禁止する權利があるかどうか。英國人が中國の各地に居住して罪を犯した場合は、中國の法廷は彼等を裁き得るか。他面英國人は其の植民地又本國に於て如何に行動してゐるか。中國に於ける此等の横暴さは英國人に限らず、其の他の各國人共同様なのである。だから中

國人は一國ばかりでなく、十數國の奴隸なのであつて、國家の地位は眞に一落千丈、亡國奴に比して更に低い地位に居るのである。朝鮮は日本に亡ぼされ、安南は佛蘭西に亡ぼされたが、朝鮮人は日本一國の奴隸であり、安南人は佛蘭西一國の奴隸でしかないから、彼等の地位は寧ろ中國人よりも高い譯である。外國の領土と比較する迄もなく、同じく中國の土地で、完全に外國に亡ぼされたものと、然らざるものとを比較しても大した相違はない。香港の公園には如何なる中國人と雖も總て入つて休息することが出来るが、上海の黃浦灘と北四川路に在る兩公園の如きは、現在でも中國人は入園出来ない。以前は此等の公園の入口には「犬と中國人との入園を禁ず」と書かれてあつた。現在之れだけは取消されたが、未だに中國人の入園は禁ぜられてゐる。香港では中國人は何處にでも行き得るが、上海には中國人の行き得ない場所が多い。上海の英國會館の如きも、中國人は入り得ない。譬へ館内に英國人の友人が居て會ひたいと思つても、入ることは出来ない。此の點香港の英國會館では友人が居れば中國人でも入つて行くことも出来る、内部で食事することさへ出来る。

我々中國人の地位は斯く迄低下し墮落してゐるのである。若し此の時に當つて、國民精神を振作し、同心協力、以て租界、海關、領事裁判權等を争回し、一切の不平等條約を廢除すべく努力



しなかつたならば、我中國は世界の國家でなく、我々中國人は世界に於ける國民ではなくなるであらう。

現在北京には一大變化があつた。余は自由に北京に去ることが出来る。余は北京に行つてからは、國民會議を開きたいと思つてゐる。此の會議を直ちに開き得るか否かは、現在のところ確言出来ないが、若し開き得たならば先づ第一に次の二つの事を提案しようと思ふ。第一は國民の生計の改良、第二は中外不平等條約の改良である。然し國民會議を開き得なければ、此等二項の實行は不可能であるから、之れが成功を欲する爲には、矢張り國民會議を開かねばならない。而して國民會議の開催を可能ならしむる爲には、先づ諸君が此の事を提唱しなければならぬ。國民會議の組織法に至つては、全國人口の調査が不精確な爲に、人民から直接代表を派することは容易でない。だから余は宣言文内に、全國の既成團體から代表を派遣せしめ、此等の代表が北京に集つて國民會議を組織する旨を主張して置いた。宣言文に列擧した團體に至つては、自然遺漏が多く、新聞界の團體も記載されてゐなかつたので、余は上海で其の方面の團體の加入をも主張して置いた。諸君遠海外に在住する華僑の團體も記入してないが、華僑の海外に於て受ける種々な壓迫を解決する意味で、華僑の團體も當然加入すべきである。全國の國民が一致奮闘しよう

思へば、全國の組織ある團體の總てが一齊に加入して後、始めて此の國民會議を開くことが出来る、斯くて始めて國民會議は大なる力を有し得るに至るのである。何となれば國民全體の主張を根據として、始めて國民の生計を根本的に改良し得るし、中外不平等條約の改良にも、斯くて始めて世界各國人の視聽を動かし得るからである。現在中國を攪亂しつつある外國人は少數無賴の徒に過ぎない。外國に在つて正義人道を主張しつつある多くの外國人は此の間の詳細なる情勢を知らないのである。若し彼等公平なる外國人が、彼等と中國との間の不平等條約が如何にひどいものであるかを悉く知つたならば、彼等は必ず正義の爲に發言し、我々の爲に不公平を芟除すべく、我々を援助して彼等の本國政府に此等不平等條約を廢棄することを要求するであらう。あたかも曾つて米國の南方諸洲が黒奴を虐待したに對し北方諸洲の人々が出でて人道を提唱し、其の結果南北戦争となり竟に黒奴を解放したと同様に。斯様な理由からして今度北京に國民會議を召集するに當つては、全國の組織ある團體は總て一齊に参加しなければならぬ。斯くて始めて大なる力が生れ、各國の正義觀念と民衆の注意と更に世界の公忿とを喚起し、彼等をして必ず來つて我々に同情を表せしむることが出来るであらう。各國正義の士が悉く我々に同情を表する様になれば、如何なる不平等條約と雖も決して廢除し得ないと言ふことはないであらう。



我々國民たる者は將來此種大目的を達せんとすれば、刻下のところ先づ北京と全國とに向つて力争し、全體の國民が北京に打電して一致して争はねばならぬ。國民が斯る國家の大事の爲に力争し、幾百通幾千通の電報を打つて寄越せば、其れは幾千、幾萬の兵にも優るのである。即ち余が國民から一萬の電報を受取り、夫れが悉く國民會議の開催を要求したものであつた場合、余は北京で此等一萬通の電報を軍閥に示して彼等と力争することが出来るのであつて、此際此種の平和的争法は十萬の兵にも勝るものである。

以上述べた通り中外不平等條約を廢除せんとせば、國民會議を開かねばならず、國民會議の開催には一般國民の奮闘と一致の要求とが必要なのである。今夕來集せる人々は日本の各地に在住する本黨の同志であるから、散會後、本黨の主張を實行すべきであり、之れが爲には夫々各方面の友人及中國の家庭に手紙を出すか、又は電報を打ち、國民會議開催の重要な所以を述べ、各自自己の知人親戚が悉く此事に賛成して國民會議の開催を要求する様に骨折らなければならぬ。國民會議が成立すれば中國の和平統一も可能となり、従つて國民は太平と幸福とを享有し得るのであらう。之れに反し國民會議が成立しなければ、中國の大亂は依然止むことなく、國民は依然兵災による禍害を受けなければならぬであらう。故に諸君今後の禍福如何は、諸君自らの採

擇に在ると言はなければならぬ。今夕は各同志が余を歓迎されたについては、余は散會後同志諸君が、國民會議の開催の爲に大いに努力奮闘せられんことを望む次第である。

### 學生は國民會議に賛成すべし

——民國十三年十一月二十三日、上海丸に於て長崎中國學生に對する演説——

學生諸君、余が今回日本に立寄つて天津に赴く理由は、上海より天津に到る汽船の船室が既に満員となり、更に十五日過ぎてからの船も亦満員であるため、上海で船待ちするよりも却つて日本を迂回するに如かない、日本を迂回すると距離は頗る遠いけれども、併し上海に於て船待ちするに比すれば早いからである。余が天津行を急ぐのは、如何なる理由からか。それは、中國の大軍閥が既に奉天軍と國民軍とによつて倒されてしまつたからである。國民軍は近來國民黨に極めて同情を表して居り、奉天軍の首領張作霖はさき頃より、近來中國に於て武力を以つて民衆を壓迫し全く惡として爲さざるなき軍閥に對し、余と意見の一致を見てゐる、故に全國の實力者がみな賛成し聯絡し、共同して之れを倒したのであつて、現在其の實力は既に吾人に打破されてしまつたのである。今後國事を解決するには、再び武力を用ふるに及ばない。よつて余は西南を放棄



して單身北方に赴き、平和的統一を主張せんとするものである。余の主張する平和的統一の方策は國民會議の開催であり、全國の既に組織された團體から代表を擧げて國民會議に出席せしめ、一同討議して國事を解決する事である。元來中國の人口は四億であるが、併し此の數字の調査は從來みな正確でなかつたので、若し人口數を以て基礎とし、直接に代表をあげて國民會議を組織することは、即時には間に合はない。故に我が國民黨の提唱する國民會議は、全國の組織された團體を以て基礎とする事を主張する。之れは至つて容易に行ひ得る。既に組織された全國の團體とはどういふものであらうか。其れは、一、實業團體、二、商會、三、教育會、四、大學、五、各省學生聯合會、六、勞働組合、七、農民組合、八、曹吳に反對せる各軍隊、九、各政黨であつて、此等の團體は現在の中國では既にそれ／＼立派な組織を有して居り、即時代表を擧げる事が出来、其の上、此等の團體の者はみな極めて知識を有してゐるから、全國の大事を討議するも頗る容易である。其の他各種の團體で列擧せぬものも固より多いが、もし必要ならば之れまた陸續參加すべきである。

吾人が國民會議を組織する目的は、二大問題を解決せんが爲めである。此の二大問題は、一は國內民生問題の解決であり、他の一は列強の侵略打破である。列強の侵略を打破するには、一切

の不平等條約を撤廢して、海關、租界及び領事裁判權を回收しなければならぬ。かかる國民會議開催の目的こそは我が國民黨最近の主張であり、此の主張は既に余の宣言中に發表して置いた。此の主張を完全に實行せんが爲めには、全國の知識階級の奮闘を要する。今日、諸君が余を歓迎される、此の機會を藉りて諸君にお願いしたい事は、即ち諸君が學生たる地位より、神戸、横浜、東京及び日本各地の中國學生に通信して、日本に於いて一の極めて有力な學生會を組織し、中國並に海外各地の學生會に國民會議贊助を打電し、國の内外に於ける學生會と聯絡し、全體一致して、國民會議による國內民生問題の解決と、列強侵略打破を主張されたい事である。余の今の行動は、即ち此目的達成のために國民會議を開催せしむるに在る。國民會議にして成立するならば、中國は平和的に統一され様が、國民會議にして成立せざれば、中國は大亂がやまないであらう。故に中國の前途にかかる一縷の希望は、此國民會議を開催し得るや否やに懸つてゐるのである。國民會議を開催せしむるには、根本的には國民全體の一致力争が必要である。諸君學生は知識階級であるから、諸君が先づ提唱されん事を希望せざるを得ない。若し諸君が國內に通信して、國內の父兄親戚朋友と聯絡し、一致して國民會議の開催を要求し、國外各地に通信して此等各地の親戚朋友と聯絡一致して要求するならば、國內外の民意がすべて一致せる主張となり、



彼等有力なる軍人も當然此の民意に反対するを得ず、國民の主張に賛成して國民會議を開催するであらうし、國民會議開催後は、對内的には全國の民生問題、對外的に列國の侵略打破の二問題を解決し得るであらう。

吾人は國民會議に在つて、何故此の二問題を解決せねばならぬのか、其れは中國連年の内亂の禍根は、全く此の二つに基因してゐるからである。それはどう云ふ譯かと言ふに、第一の民生問題に就いて述べると、中國に連年内亂のある所以は兵の多い爲であり、中國に兵士の多い原因は國內人民がみな兵士となりたがるからである。兵士にならなければ、別に飯を食ふ道がなく、現在多くの地方人民は、みな兵士となることを生命を保つ方法にして居るからである。多數人民の生計が立たず、みな兵士になりたがるから中國の現在は、軍隊過剰の患があるのである。兵士が多過ぎて、各軍隊はみな之れを給養する事が出来ぬので、相互に争はざるを得ず、戦はざるを得ず遂に中國今日の大亂を醸成するに至つたのである。第二に列強の侵略に就いて述べよう。外國は中國と通商開始以來、中國人を輕侮し中國の土地財寶を貪り奪ひ、みな中國を併合せんと考へた。各國の勢力は均しく頗る大きく、列強の数は甚だ多數で、歐洲戦争前には七八ヶ國、歐洲戦争後にもなほ四五ヶ國あつて、相互に相譲らず一ヶ國に併合せしめない爲、相集つて中國の分割

を主張した。併し分割するにしても、平等はなかく、困難である。それで各國は分割の不平等によつて、自然戦争が起り、爲に自己の元氣を傷ける事を恐れ、其のため何れの強國も、みな先づ自分から中國、分割の發頭人たるを肯んじなかつた。此の原因によつて、分割説は提唱以來甚だ久しいけれども、一向實行されないのである。今回の歐洲大戰以後、各國は更に國力が疲弊し今日に及ぶ迄いづれも元氣を恢復せず従つて中國を分割しようなどと云ふ力はない。現在歐洲戦争を経験した外國のうち元氣のほほ恢復した國家はただ露國一國あるのみであるが、此の露國人は最新の革命を行つた後は公道を極力主張し國內に對して自ら之が實現を計ると共に更に世界に對しても各弱小民族を援助してゐる。米國と日本は歐洲戦争に参加したとは云へ、歐洲戦争の災害を蒙らないのは此の二國のみである。目下彼等の對外政策は同一でなく、一方が東へ行けば、他方は西へと言つた有様であるが、今後提携して一致の行動をとるやも計り知られない。列強が中國に對して、從來主張した分割は行はれなかつたが、現在彼等は共同管理を主張してゐる。今後共同管理論が實行されるかされぬかは論外として、中國の海關は既に早くから外國人の管理に歸して居り、中國金融の實權は、すつと以前から外國銀行の手に操られ、其の他通信、鐵道の管理權はみな外國人に掌握されてゐる。故に中國現在の財政交通一切の實權は、實際は外國人の共同



管理であつて、實に痛心すべき事である。ただ中國の民意が近來頗る發達し、中國人の知識は頗る増加した。將來は必ずや、彼の外國人の管理する所の財政交通の各實權を回收せんと企つるに相違なく、外國人は中國に於いて管理する其の財政交通の實權の長久ならざるを恐れ、中國の民意の發達と中國人の知識の増加を心配してゐる。中國人はそれを未だに自覺せぬのに、外國人は既に明白に知つて居る。彼等は中國人の此等の管理權回收を恐れ、此の實權の永久管理と、其の實權の範圍擴大とを謀らんが爲めに、進んで恐るる事なく共同管理を提唱するのである。かかる共同管理の實際の意味は、分割、併呑と何等一點の區別がないのである。我が中國人現在の知識を以てすれば、久しからずして此等管理權回收の望を起すであらう。諸君は此の話を聽かれたかには、敢へて恐れずともよい、共管をただ外國人の夢たらしむべきのみである。共同管理論の發生は、即ち帝國主義の中國に於ける夢である。彼等の夢は今になつても醒めないものである。それで更に中國の種々の事業を侵略しようとするのである。吾人の民意は發達して既に此等管理權回收の思想は極點にまで達した。彼等の見る夢は幾程もなく失敗し、無に歸してしまふであらう。吾人が彼等を速に失敗せしめんとするには、一日も早く此の管理權を回收することを要するのである。故に吾人は目下大いに奮闘して、不平等條約の撤廢、海關、租界及び領事裁判權の回

收を力争するのである。

諸君は現在、日本に留學して、まさに日本の三十年以前は如何なる状態であつたかを知られたであらう。三十年前の日本の受けた苦痛は全く現在の中國と同一であつたが、大いに奮闘する事によつて、漸く外國の束縛を脱し今日の自由を得たのである。諸君は日本に留學して、朝夕日本學生と接近してゐるのであるから、諸君は日本人に對して次の事を了解せしめねばならない。即ち日本人は目前の中國に於ける小權利を考へてはならない。日本自身の三十年前に於いて受た苦痛を我が中國も現在同様に受けて居るのであるから、中國に同情を表すべきである。若し眞に日本人が中國現在の状態に同情を寄するならば、まさに中國を援助して不平等條約を撤廢し、海關租界及び領事裁判權を回收せしむべきである。日本がよく援助して中國のかかる大事業を成就せしむるならば、よしそれは目前の小權利を得ずとも、將來却つて大きな權利を有する事になる。日本が現在中國を援助してこうした事を行ふのは、或は暫時の不利ではあらうが、併し乍ら中國々民の歡心をかち得た後には、中國と日本とは必ずや親善するであらう。親善の程度は必ずや、一日一日と一層深きを加へるであらう。即ち中國々民は眞に日本に同情を表し、寸毫も日本を懷疑せず完全に日本を信用するであらう。日本の現在の實業、科學及び種々の文化はみな中國に比



較して高度であるから、中國と日本の協同した後は、勿論中國は進歩するし日本も従つて更に進歩するであらう。更に之れより一步を進めて、中日の經濟同盟を謀れば、中國の物貨は自由に日本に輸出し得、日本の物貨も自由に中國に輸出し得て、相互に販路が開け、中國と日本の國民は經濟上に於いて無限の大利益を有する事になる。日本國民が斯かる大きな權利を享受しようとし、かかる親善の程度に到達せんとするには、先づ中國を援助して國際上一切の不平等條約を撤廢し、喪失せる一切の權利を回收せしめねばならない。故に中國と日本と眞に親善せんとするには先づ親善の意志表示として斯かる種類の表現を行はねばならぬ、と云ふ事である。こうした事を理解せしめるのが、即ち諸君日本留學生の目下なさねばならぬ事である。なほ諸君は日本人に宣傳する外、更に海外各地の留學生と聯絡し國外學生聯合總會を結成し、一致して國民會議贊成を打電せよ。國內の家族、朋友に對しても亦同様に聯絡をとつて、全體一致して電報を以て國民會議の開催を要求せよ。若し國の内外から國民會議開催を要求して打たれた電報が、數千通數萬通に達するならば、此の平和的抗争にとつては、幾千幾萬の兵にも勝るものである。軍閥は此の民意を見て、當然國民の主張に賛成し、當然國民會議は開催し得られるであらう。諸君は今日余を歓迎せられるからには、必ずや余の主張に賛成して此の方向に向つて奮闘せらるる事と思

### 「サウス、チャイナ、デイリー、ポスト」紙 記者との談話

——南北統一後の政治と外交（民國元年總統辭職後香港にて）——

問 北京に來つて袁總統と重要問題を會商されたき旨、北方から電請があつた由であるが、此の事に對する御意見如何。

答 特別言ふ程の問題ではないが、二、三週間を約して、余は北上する積りである。

問 胡漢民氏を如何に見らるるや。

答 胡漢氏は元、余の參贊であり、現在都督をやつてゐる。能く其の處を得たものと言へやう。

問 先生の時局に對する御意見如何。

答 余が廣東省に還つた當初は、大局も未だ安定してゐなかつたが、現在は事々皆安定し、秩序井然として、各黨はよく融和してゐる。漸次庶政の振興を見るであらう。昨土曜日、南清報所載の一米國人の論說に據れば、共和の勢力は恐らく持久し得まい（該論說は米人の主張で、革



命の結果中國が二分され、北支に君主國、南支に共和國が建てられ、長江を其の境界線となすであらう、と言つた主旨のものである」と述べてゐるが、之れ誠に愚論である。世人も其の然る所以を知つてゐるであらうが、彼の此の説の如きは實に中國の仇敵たらんとするものであつて、人々によつて夫々意見を異にするのは當然と言ひ乍ら、斯る卑劣の言辭をなすに至つては余が改めて辯駁する迄もないことである。彼の言によれば、南北の聯合は不可能であつて、究極に於て南方は共和制、北方は君主制を採るに至るであらうとのことであるが、之れは米人の意見であつて中國人の意見ではない。彼は中國の國情を知らないものであつて、其の所謂、南北融和不可能説に至つては、全くの謬説である。何となれば素と中國には種族間の惡感情は存しないからである。成程、邊疆地方は或は亂れてゐるかも知れないが、其の相互間の關係を見れば總數四億の中國人は概して同種同心であると言ひ得る。即ち蒙古人は百萬に過ぎず、滿人は二三百萬、之れに五百萬の西藏人と其他の種族とを加へても總數一千五百萬に過ぎず、若し彼等を異種族と見做すとしても、其數は極めて小數であつて、之れが蠢動しても、以て何等かの結實を見得るだけの勢力ではない。

問 北方邊疆地方に、共和樹立を欲してゐるものが有ると言ふが眞否如何。

答 試に問ふ、米國南部諸省の黑人にして共和を欲せざる者有りや。足下の問ひに對する余の答は、足下が此の余の反問に對して答ふるであらうと同様、至つて明白である。

惟ふに各種の無智な人間に在つては、多少自己と意見の相違があつても、敢て反對する様なことはしないが、識者は斷じて然らずである。況んや共和成立以來、夫々の獨立が可能となり、一層自由の度を加へ、而も壓制の苦しみ無きに於てをやである。

問 先生の主張される開港場撤廢論は如何なる理由によるものなりや。

答 此の事は中國人の意志でもある。必ず獨立せんと欲する吾人としては、中國が外人の統轄に歸することを願はないのは、蓋し理の當然である。然し之には吾人は他方、中國の各地方を開放して外人への酬償とせんとするものである。目下西洋人は只開港場に於てのみ居住し得るが、各開港場を撤廢すれば、外人は大太平洋岸より西部の邊疆迄の全國各地に到り得ることとなり、歐洲各國も之を歓迎するであらうと思はれる。そして之によつて彼等外人の得る利益も甚大であらう。只、此事は即行しようとは思はない。吾人は先づ中國が自立し得るに至り、歐洲諸國を満足せしめ得る國內状態に至つて、始めて開港場を撤廢せんとするものである。一度此の時機に至れば、各國も反對する様なことは無いであらう。各國は已に日本暹羅等に對しても之



を拒まなかつた以上、獨り中國に對してのみ、之を拒むことは無い筈である。外人が上海の租界を拓かんとするに對し、吾人が之を許可しないのは蓋し當然の理である。中國以外の他の國が現在の中國と同様の地位にゐたならば、亦必ず中國と同様の態度を採るであらう。足下は英人であるか、それとも米人であるか知らないが、若し英人であるとしたならば、獨逸人の租界が倫敦にあることは勿論欲しないであらう。

問 先生は世界の各地で中國人の入國を制限しつゝあることに對して、如何なる意見を有してゐらるるや。

答 各國が法を設けて自國の勞働者を保護するのは、尤もな次第であるが、此等の保護政策は、遠からずして必要がなくなるであらう。中國が廣大な領土を有し乍ら、之を開墾することを知らないのは、誤つてゐる、將來一度び之が開墾されるれば、我國の勞働者は重ねて外國に出かけて行く必要はなくなるだらう。事實余の考へでは、中國が農礦其他の製造業を振興するに於ては、十年にして能く自足自給し得るに至るであらう。

問 黃禍論に對する先生の御意見如何。

答 歐洲人は中國の他日の侵犯を恐れるが、之れ誠に眼孔狹隘と言ふべきである。我中國は必要

に逼られて強大なる陸海軍國とならんとしつつあるが、吾人は平和を尙ぶものであり、武力の擴大も只自衛の爲であつて、他國を侵略する意志からではない。然し歐洲人が吾人を抑壓する様なことがあれば、吾人も亦強化せられた武力を以て、其の壓迫に抗し、將來如何なる態度に出るか豫測し難いものがある。

### 「ホンコン、デイリー、プレス」記者との談話

——民國元年總統辭職後——

問 近日香港の商人が廣東の商人に外人の資本を用ひず、以て瓜分の禍から免るべしとの勸告を發したとの事であるが、此説の眞否如何。

答 巷説に過ぎまじ。

問 中國は外國資本を用ひてはいけないのか。

答 舊時代の政見ではそうであつたが、吾人は寧ろ相互の利益てふ見地から、商人に外資の借用を勸めてゐる。

問 借款した資金は如何なる方面に使用するか。



答 各種實業の經營、新都市建設、全國開發及び鐵道敷設等の要政に使用するのである。

問 農業の振興には巨額の資金を要するや否や。英米兩國に倣つて開墾すれば、多くの田畑を開拓し得るや否や。

答 其の點余には明瞭でない。何れにしても重要な政務ではなからう。

問 中國人の噂さによれば、英國は新に租界を擴張せんとしてゐるとのことであり、之が實現を見て始めて民國の承認を肯んずる意圖であると言ふが……。

答 余は此等の噂さを問題にしない。余の意見を以てすれば、英人が夫れ迄利己的であるとは思はぬ。余は素と英人を知つてゐる。他人はいざ知らず、識者は此等の噂さを問題にはせぬだらう。

問 澳門に隱居さるとか聞くが、事實なりや。

答 否。

問 先生が澳門に家を建ててゐられるとかの噂があるが、眞否如何。

答 兄の爲の住居で余が居るのではない。

問 先生が現今實施して居られる、中國の各種施設は、尙未だ完成しないのではないか。

答 余は政治關係の事業を止め、轉じて専ら工藝振興、社會改良等の大施設をなしつつある。

問 教育に力を注がるるや。

答 然り。

問 如何なる方面より着手さるるや。先づ學校の經營からであるか。

答 余は根本から着手しやうと思つてゐる。即ち先づ每郷に蒙學校（小學校）を設け、次で高等學校から書院に至り、更に大學に至らんとするものである。

問 然らば英米の法に倣はんとするものであるか。

答 然り。

問 斯様にしてゐたならば、先生は今回の革命によつて、必ず中國社會の教育道德を促進するところが出来るであらう。

答 其の通りである。

次で又中國政府の開港場取消問題に論及し、

問 結果として沙面も中國政府の管轄に歸するのであるか。

答 吾人は沙面を擴張し、中國の他地方と同様ならしめんとしてゐる。



問 英人の中國に於ける權限を在英中國人の夫れと同等ならしめんとするのであるか。

答 正に然り。只之れは數年後の問題である。吾人は法を日本に採らんとするものである。

日本在住の外人は皆日本の管轄を受ける。吾人の政見も亦極力國體を保存せんと欲するものであり、又中國人の進歩の極めて速なることを言はんとするものである。

問 其の進歩の速度は日本人と同様であるか。

答 然り。此度の革命が其の明かなる證據である。

問 五六十一年後に於ては、日本と等しくなり得るか。

答 よく類似したものとなるであらう。

### 宋教仁暗殺事件後の政見

— 民國二年一月二十五日、「ホンコン・デイリー・プレス」記者との談話 —

問 北京の時局に關する閣下の御意見を承りたい。

答 余の政治工作は已に完了した。故に現在の情勢如何に付ては、語り得ない。且つ宋教仁が暗殺されて以來、余は重ねて政治に關與しない。只余は敢て言ふが、従前極力袁總統の爲に經營

に當り、又常に袁氏が最も總統に適することを言つてゐた。余が彼の爲に努力したばかりでなく、世界の各方面の人々も余と同様であつた。そして宋教仁の暗殺に關聯して、余が極度に彼を憎むや、世人は、北京政府が此事件に關係してゐると爲すのは全く不當であると論じた。之に對して余は、袁總統自身とは關係がないが、其の政府の總理と關係がある。だから袁總統も必ず大體のことは知つてゐる筈である。かるが故に彼を憎み心中不満を感じるのであると論じた。又訪問の記者の總統選舉の時期如何てふ質問に對しては、宋事件が無ければ、久しい以前に選舉を實施したであらうが、今日となつては之が實施の時期は豫測し得ない。或は將來竟に此の事を見ずに終るかも知れないことを答へて置いた。

問 廣東の情勢如何。

答 まだ廣東に行かないから、其の情勢如何は餘り聞知しない。

問 胡漢民氏は現在何處に居らるや。

答 胡氏は今香港に居る。此の事に付ては何等祕密はない。彼は昨夕軍艦寶璧號に乗つて香港に來た。

問 當地の中國新聞は、胡氏が華僑に償還する爲の金を支出したと言つて、憤慨した記事を載せ



てゐるが……。

答 全く一種無根の流言である。事實動亂平定後に於ける廣東の需要資金は、香港及其他の地方から借入れたもので、其中商人から借りた分は、利息五分を加算して償還してゐる。現在胡氏は華僑への支拂を準備してゐるが、其の支拂は元金支拂の範圍である。而も之が反對されつつあるのである。全く無理なことであり、不當なことである。彼等の言ふ所に據れば廣東には現在銀が無いとのことであるが、之は他意あつて言ふことであり、而も彼等の所謂銀たるや胡都督の借りたものである。

### 國會の恢復と正式政府の組織

——民國六年七月、新聞記者招待茶話會にて——

今日諸君が御厚意を以て參集されたことは感謝に耐へない。余が上海から一路廣東に來つたのは、元々廣東に於て學兵し、以て復辟運動を爲しつつある逆賊を征討し、海軍にも之を輔佐せしめんとしたのであるが、廣東に到着するや、復辟運動は已に熄んで了つた。然し此の復辟運動を打消した者は、眞の共和の擁護者ではなかつたのである。余が思ふに今日救國の第一歩は國會の

恢復である。而も此の國會を廣東で開會しなければならぬ。中華民國の約法には明かに主權が人民全體に在り、國會は人民の代表會議である旨を定めてある。だから議員の任期滿了以前ならば、當然國會を恢復して可なりである。國會があつて然る後始めて統治機關がある譯であつて、一切の問題は皆之に依つて解決し得るのである。

只惜むらくは、廣東新聞界の言論は未だ一致し居らず、爲に省外及外國に居住する人々は、内容を察せずして廣東が紛擾を極めてゐるかの如くに考へてゐる。言論の不一致は其の害實に大なりと言ふべきである。余は反對論を抱く者迄が、自己の意見を棄てて盲従しなければならぬと言ふのではない。只互に誠意を以て討論することを妨碍しない様にしなければならぬと言ふのである。苟も反對者の意見が余の意見に比較してより高い場合は、余は喜んで其の意見に服従するものであり、若し又余の計畫がより良き場合は、反對者も務めて之に一致賛成すべきである。故に今日諸君と會したを幸に、各位が其の意見を披瀝して、余の爲に一切に互つて指示されんことを希望する。殊に反對論者は言はんと欲する所の悉くを言ひ盡し、疑問なる點あらば、どしどし質問して戴きたい。

余の知つてゐる範圍内に於ては、出来る限りお答へするであらう。



某君起つて言ふ「大事を爲すには財政が第一であるが、資金は如何にして工面されるか」。

孫答へて曰く「中國は元來貧乏ではないが、理財の方法が缺乏してゐる爲に困窮を感じてゐるのである。然し若し藉すに一二年の歳月を以てしたならば、整理は困難ではない。只、急を救ふ爲の計畫として、此の一二年の間に外債を借りることは免れ難いことである。そして之が爲には先づ國會を開催し、政府を成立せしめて、外人の信用を得なければならぬ。

若し吾人が法に依つて政府を組織したならば、外人も兎や角言ふことはあるまいし、資金の調達も心配するに當るまいと思ふ。更に各省から中央への税金の納付も、政府が成立すれば、當然規定通り實行せられるであらうし、海外の華僑も喜んで賛助し、斯くて財政問題は容易に解決するであらう」。

某君起つて言ふ「反對論を觀察するに、其の理由とする所が四つある。一、南北の分裂を恐る。

二、人心の厭惡動搖を恐る。三、北方との對抗に力の足らざるを恐る。四、外交の困難を慮る、等であるが、何卒先生に於て此種の惑亂を釋かれんことをお願ひする」。

孫答へて言ふ「南方の力を以て北方を統一すれば、自然分裂の憂は無くなるが、然らずして南方人が北方の武力に征服されることは、南方人は肯んじないであらう。余が國會の恢復を主張す

るのは、統一を謀らんとする見地からするものである。蓋し來廣せる議員には各省のものが皆含まれ、黒龍江省議員も既に到着して居り、此等の議員は各省を代表し、統一の楔機となるものである。人民の厭惡動搖云々に至つては、全く實情と合しないことである。復辟と僞共和とに反對する聲は最も高いが、理論的根據を有する動搖は、是非之を治めねばならない。譬へば火の元の如きものであつて、煩はしいから放つて置くと言ふ譯には行かない。又坐礁した船に乗つてゐる場合、面倒臭いからとて、其儘にして置いて斃れるのを待つことは出來ないのと同様である。次に南北の實力を論ずれば、南方が必ず優勝するであらう。海軍の如きは全國勢力の半を占めてゐる。今回第一艦隊が共和擁護を宣布した如きは、戰勝の前兆である。第二艦隊は未だ態度を表示しないが、長江一帯の軍艦は皆、其力に於て第一艦隊に劣つてゐる。第一艦隊の現存軍艦が十變今や來廣せんとしてゐる。余の得た消息を綜合するに、今日其等の軍艦は汕頭に到着するであらうし、石炭積込又は暴風待避等のことさへなければ、明後日は虎門に到着するであらう。吾人が海軍の助力を得て、兵を出して北上したとすれば、十日を経れば武昌に到つて中原の要地を把握し得るだらう。外交に至つては全然問題は無い。國會の開催と法に依る政府の成立とは、他國の承認を要しないものである。只南方が久しく正式政府を組織しな



ければ、北京政府は非合法的なものではあるが、外人は國民が既に之を默認したものと思ふに至るであらう。之は憂ふべきことであるから、吾人は急速に進行しなければならぬ」。某君起つて言ふ「廣東で國會を開催する際、法定の人員に足らなければ如何にされるか」。答「國會の議員は民黨議員が多数を占めてゐる。故に來廣する者は必ず多いだらう。上海に在る者のみに就て言つても、二百人は必ず廣東に來るだらう。若し法定數に不足する様なことがあれば、非常國會を開催することも可能である」。討論終つて茶會は散會した。

### 裁兵は統一せんが爲の政策なり

——參議員王用賓との談話——

民國六年の護法運動以來、一般政界の要人と社會民衆とは、國內が斯の如く分裂したのを見て、皆統一の必要を知るに至つた。只政治は歴史的教訓でなくてはならない。即ち政治は經驗でなくてはならないのである。

今日吾人が主張してゐる統一政策は、七年間の政治的經驗である。余の六年來の觀察によれば、

之れ迄用ひて來た政策は次の三種であつた。即ち其一は武力統一であつて、之に依れば兵力を以て一切に打勝ち得る者が、能く統一し得るのである。然し此種政策の失敗すべきは言を待たない。其二是法律による統一である。然し法律は一種の理論であつて、此の理論の實現を欲する場合は、どうしても實力によらなければ成功し得ない。従つて動機は武力と異つてゐても、結果は武力と同様である。其三是策士の統一であつて、今日の政情を紛亂せしめてゐる實象が之れである。彼等は縦横の手段を弄してゐる。曾つての聯省會議、廬山會議、國是會議の類は皆此種の手段である。以上三種の統一政策には善惡虚實の差は有るが、一つの絶對に共通な點がある。即ち一切皆政界の人について統一を云々してゐるのであつて、未だ曾つて國民の前に之を實證せず、又其の承認を求めてゐないのである。中外今日の紛擾の根本的病源は、各勢力が夫々是非を争ひ、而も四億の民衆に何等容喙の機會が無いからである。

人民が今日の政争に對して發言しようと思へば、須く先づ政争の何たるかを認識しなければならぬ。上記三政策の中、武力統一は人民の畏避する所であり、法律統一の説は理論高邁で人民には理解し難いものであり、策士による統一は全く多數人が其の出世と金儲の爲にするものであつて、人民とは毫も關係のないものである。惟ふに今日國民の最も苦難としてゐるのは、第一に



兵の多過ぎることである。だから余は先づ裁兵を主張するものである。實に此の裁兵は統一の根本條件である。従つて人民が喜んで裁兵に賛成すれば、彼等は又必ず統一を楽しむことが出来るであらう。余は余の統一政策が容易に人民に理解されるであらうことを信ずる。そして人民が喜んで之が爲に余を後援するだらうことを斷言出来る。人民は表面無力な様であるが、或る問題に對して直感的理解を有するに至れば、其の實力は非常に偉大なものであつて、銃砲に幾十倍幾百倍することが出来るものである。蓋し人民には罷工の力と、罷市（同盟閉店）の力と、納税拒否の力と、代表撤回の力とがある。若し人民が其幸福が統一にあることと、統一は裁兵によるべきことを正確に意識し、一人が十人に傳へ、十人が百人に傳へたならば、百萬の兵を擁し、千里の地に據る軍閥をも、一朝にして孤立無援ならしめ得るであらう。故に余の統一政策は、七年間の經驗に基づき、唯裁兵によつて統一を謀れば、手段と目的との完全なる一致を見ることが出来、最も國民をして自覺せしめ易いことを信ずるのである。

### 戴季陶氏との社會問題に關する談話

——民國八年六月二十二日、孫文上海の住宅に於て——

問（孫文）

君はこの頃、何を研究して居ますか。「星期評論」中、國際聯盟と労働問題といふ一篇は、君のものしたもの様の様に思はれるが、どうですか。矢張り君も此の問題に留意してゐるのですか。

答（戴季陶）

さうです。中國人は大概、從來こうした方面に就いては注意して居りません。それは一には中國の工業が何等發達を見ず、社會の階級が未だ充分明白になつて居らぬからであり、二には中國人が政治問題、社會問題に對し元來近代的な知識を持たず、年來政治上の紛争が甚だ激烈であつた爲め、かかる實際の民生問題が更に人から顧みられなかつたからであります。三には、この労働者自身が、その多數は曾つて教育を受けた事がなく、數十人中一人の文字を解する者も見出されないうために、彼等には階級的自覺が毫もないからです。四には彼の工業を經營する多數資本家が、近代社會思想の潮流に對して、一點の知識も持合せず、若し一兩人が多少の知識を有して居ても彼等も亦かかる思想や運動の發生する事なきを望んで居るからです。かかる原因からして、中國に於ては此の問題に注意する人は、誠に少數を極めて居ります。上海地方に付て見る丈でも、労働者の數は三四十萬も有り、そして罷業事件も常に發生して居るので、數日前の全市罷業騒



ぎの折も非常な大罷業の事實を惹起し、幸にして北京政府は曹陸章を被免する命令を發しましたが、若し之が一日か二日遅れたならば、恐らく、すつかり全市總同盟罷業の光景に變化したでせう。當時上海の有識者は誰彼の差別なく一人として焦慮せぬ者はなく、みな労働者に對し罷業せぬ様勧告する方法を考へたのです。なぜかと云ふと、つまりこの無組織、無教育、無訓練、そして又準備のない多數労働者の罷業は、頗る危険であるばかりか、労働者自身にとつても亦不利であるからです。然し今度の事件を見ますと、労働者が直接政治及社會運動に参加する事は、既に幕を切つて落されました。若し、知識あり學問ある人が此の問題を研究して、思想上、知識上から彼等を指導しなければ、將來は次第々々に、不合理な時代に適しない方面に走るでせう。これは實に危険です。それで、私は同盟休店の騒動を機會に、溫和な社會思想を以て社會の多數人を指導するのが、これが最も緊要な事だと感じたのであります。

問 (孫文)

では君は、直接彼等を指導しようと思へるのですか、それとも、研究的、批評的立場から社會思想指導の仕事を行ひたいと思へるのですか。

答 (戴季陶)

私の目的は、まあ後者の方です。何故と云ふに、私は此の問題に對して、現在のところ知識がまだ淺薄ですから。それで、研究的な仕事に努力し、私の研究で發表し得るものは、發表して彼等や各方面の人々の參考資料に供する心算です。

問答が此處まで來て、孫文曰く。

君の其の考は頗るよい。我々が中國を改革する主義は三民主義である。三民主義の精神は極く平和な、極く自由な、極く平等な國家を建設しようといふのだから、政治上に於いて民權の平等を謀らなくてはならぬのは勿論のこと、更に社會上に於ては經濟的平等を謀らねばならない。こゝう云ふ風に行へば、始めて、種々な階級の衝突と階級競争の苦惱から免れられるのです。だから我々は經濟上に於ては、一面商工業の發達をはからねばならぬと同時に、一面には労働者の經濟生活の定安幸福を圖らねばならない。然し現在の此の時代では、我々は多數の無知な人々に對して理解せしめるに過ぎない。では如何に行ふべきか。一番大切な事は、彼等を指導する方法です。それには非常に注意がいきます。中國の現在は、労働者に知識がない文ではなく、知識階級だと稱して居る人々にさへも矢張り知識がないのです。労働者に知識がないといふのは、それは、新しい知識も舊い知識も全部ないと云ふ事ですが、知識階級の人には、有害な知識は持つてゐるが有



益な知識は持つて居ないといふ譯です。一寸も知識のない者に對して、知識を與へるのは容易だが知識が有ると稱して居る者に對し、是非利害を判別せしめるのは却つて非常に困難な事です。我々はこんな時には、先づ主義を立てて社會を指導する工夫をせねばならぬ。最も肝心なのは、先づ彼等の知識程度で、之ならよからうと思ふのが悪い。自分が既に了解してゐるのに、彼にはどうして明白でないのか、二度も説明したのに、まだ理解しないのかと、すぐ腹を立てる。之はよろしくない。我々は、民衆の知識は甚だ低く、彼等は教訓し、指導しなければならぬ事を知る必要があります。我々が知識の最も低い人々を教訓し指導する際、一番大切なのは彼等に替つて考へる事で、自分を以て標準とするのはよくない。斯様に工夫をこらしてこそ、始めて興味もあり、研究も有益ならしめ得、多數の人を感化し得るのである。

君は、馬を訓練するのを見ただらうが、彼等はどんなにして馬を訓練するかと云ふと、調馬する時には、彼等の意志は既に馬になり切つてゐる。彼等は馬に先づ自分の意志を悟らせ様とはしないで、先づ自ら馬の意志を知らうとしてゐる。馬の調教には馬の面前に於ては一寸も人間の智慧は用ゐない。もし人間の智慧を用ひ様とすれば必ずや馬と相争はなくてはならない。君は又、猿を教込む者を見たらうが、彼も矢張り猿の性質に即して猿を教込まうとするので、人間の性質

によつて猿を教込むのではない。それで、我々から見ると、英國は此の様、露國は此の様、獨逸は此の様であるとばかりに、數多の例證を以て材料とし、それを中國はまさに如何にあるべきかの本論に歸納して一個の主張となしても、多數の人には、わからないだらうと思はれる。故に、我々が若し多數の人々を指導しやうとするならば、先づ自己の知識學問は腹に收め藏してしまひ、時に應じて彼等の性質に順つて、彼等の自覺を誘起する事を要する。かくして得た結果は圓滿であり、然る後、我々の社會を指導する目的が到達されるのである。

問 (戴季陶)

今日の此の時代は、思想の混亂が全く極點に達して居ます。中國は、此の世界思想混亂の中に在つて、同様に混亂を免れ得ないが、然し知識程度が甚しく低いため一般の人々は世界の思想系統に對し充分理解する事が出来ないで、彼の多くの煽動家共は、其の一知半解な、系統も明白でない社會共產主義を無知識な兵士や労働者の中に宣傳して居ます。此の數日前新聞紙上に掲載された所では、軍隊内部に「兵士須知」と題する小冊子が發見されたと云ふ斯様な事實があるのです。若し果して一種無意識な煽動によつて、動亂が發生すれば、一度倒るれが糊塗するに方法がないのです。先生は此問題に對し如何なる御意見を有されますか。